

山中文庫 と山中進活



小系川俱樂部

(2014.07)

はじめに

小糸川倶楽部は、市街地を流れる小糸川の変貌や流域で暮らしてきた人々の、生活の知恵や工夫、先人の業績などを、会員の興味の趣くまま調べ歩こうと発足した郷土史探訪の会です。その時々には情報を求め散策し、資料を収集しては学んだことを、記録集にまとめて地域の同好の方々に情報提供をする活動をしています。これまで、「小糸川の洪水ハザードマップ」「すゑ風土記（柳敬助、松本新吉、須恵の珠名）」「暴れ川の歴史」「小糸川の揚水水車」、「小糸川の水運（川舟）」等をテーマに3冊の記録集を発行しました。

今回は、「山中文庫と山中進治」に取り組みました。

山中文庫や進治の事績は、「君津市史：通史」や「千葉県歴史：通史」等に詳しく紹介されていますが、平成19年に私たちが学習活動を始めてから最大のテーマは、君津の地に「山中文庫の蔵書」がないことであります。



「山中進治作製農業書目録」を、新井孝男氏から入手し、その精査と解題作成を進める中で、山中文庫の蔵書が当初想像していた以上に貴重であることを再認識しました。それと合わせて、山中文庫の蔵書が「財団法人日本青年館」の地下倉庫で、段ボール箱に入れられた状態で保管され、全くの休眠状態にあるとの情報もありました。

これらの事から、山中文庫の蔵書は、君津市に引き取り「陽の目」を見せてあげるべきだと返還運動を開始しましたが、その過程は厳しく、紆余曲折、挫折しそうな時期もありました。しかし、関係する多くの皆様の多大なご支援とご協力により、返還・寄贈が運動開始以来7年目にしてようやく実現しました。

調査学習はまだまだ途中ですが、3月に寄贈された山中文庫のお披露目も済みましたので、私たちが寄贈記念として、これまでに提供を受けた資料、収集した資料、作成した目録・解題、山中進治の論文等を記録集として発行します。

山中進治の事績を広く、君津市の皆さんに知って頂き、その蔵書は市の文化遺産として後世に引き継いで頂きたいと願っています。

我々のまち君津市が、少しでも魅力あるまち、誇れるまちになったらと願いながら、今後も活動を続けます。

「山中文庫」 寄贈に寄せて

山中 家道

祖父は若くして亡くなりましたので（享年46歳）、孫の私には、残念ながらこれという思い出はないのです。

でも、何となく覚えているのは、長屋門の中に一本棚がたくさん作ってあったのですが、子供心にも「どうしてここには、こんなにいっぱい本があるんだろう」と不思議に思ったことですね。

本のほかにも、何に使うのか、実験道具のようなものがたくさんありました。後々、奇妙な形のガラス製品が、花（金木犀）から香料を作り出すためのものだった、なんてことも知りました。いわゆる「学究肌」の祖父と、百姓仕事にかかりきりの祖母と、果たして性格が合うのかな（笑）、なんてちらっと思ったこともあります。

このたび、祖父にゆかりの「山中文庫」が君津市に寄贈されたと聞いて、感慨深いものがあります。やっと地元に戻ってきたんだなあ。あまり接点がなかったといえ、やはり祖父は祖父、ですからね。

「山中文庫」の寄贈については、実は15年ほど前に、日本青年館の担当者の方から打診をうけたのです。しかし「寄贈するなら個人のもとではなく、公共施設へ」ということで、話がいったん流れたのです。当時、まだ君津市には中央図書館も建っていませんでしたから……。

今回の寄贈に関しては、長い間にさまざまな方面の方がお骨折りくださったとのこと、本当にありがたいです。

展示されている品々のなかに、祖父の息吹が感じられたら「孫」として幸福ですね。



<尾崎雅嘉著 群書一覽 享和2年（1802）>

山中文庫の寄贈を受けて

君津市立中央図書館 館長 山中 和彦

平成25年、78年の歳月を経て、山中文庫の蔵書が君津市に還ってきました。又、この先人の偉業による貴重な書が図書館に寄贈されたことは、非常に喜びであると同時に、重大な責任も感じております。

このたび寄贈を受けることができたのは、山中氏急逝ののち文庫の散逸を恐れ保存のため奔走して下さった方々、戦争を間に挟み78年もの間保存して下さった日本青年館の関係者の方々、山中文庫の存在を研究し関係資料を収集して下さった方々、市の宝である山中文庫を君津市に寄贈していただこうと努力して下さった方々すべての尽力があつてこそと深く感謝いたします。

残念ながら、山中文庫の蔵書群は大変貴重な資料であるため、来館者が自由に閲覧していただくことはできません。そこで図書館では、手にとって閲覧していただくための複製資料や、検索用の目録を作成しました。また小糸川倶楽部の方々がこの『山中文庫と山中進治』で、山中氏の信念や文庫についてまとめてくださいましたので、市民はその存在を知ることができます。

公共図書館は、来館者が自由に学び、情報を選択し、さまざまな思想・見解に接し、自分の考えを決定する糧を得る場所です。大正期、山中氏も同じ信念のもとに、青年たちの「学び」の姿勢がやがて地域の発展につながると信じ私設で山中文庫を開設し、広く開放しました。その先見性に、あらためて敬意を表するとともに、当地にこのような賢人がいたことを知るのは、若い世代が郷土へ誇りを持つことにもつながると思います。今回の寄贈いただいた資料は山中文庫という私設図書館が、この地にあったことを能弁に語る証となるものです。図書館では、この事実を確実に次世代へ継承出来るよう努力を続けていく所存です。

小糸川倶楽部のみなさまのこれまでのご苦勞に感謝するとともに、今後ますますの発展とご活躍をご祈念いたします。



君津市立中央図書館

目 次

I	山中文庫と山中進治	頁
1	山中文庫開設	1～ 4
	(1) 生い立ち	
	(2) 文庫開設への思い	
2	山中文庫	5～ 9
	(1) 概要	
	(2) 山中文庫と山中進治の世評	
3	農村青年の指導者	10～ 15
	(1) 山中文庫付設農芸研究所	
	(2) 安房科学農業研究所	
II	山中文庫蔵書目録	
1	還ってきた山中文庫の蔵書	16～ 19
	(1) 財団法人日本青年館からの寄贈	
	(2) 山中文庫蔵書帰還（逆寄贈）までの経緯	
	(3) 山中文庫コーナーの新設	
	(4) 山中文庫蔵書のこれから (山中進治：略年譜)	
2	224 部の蔵書目録	
	(1) 山中文庫蔵書 解題	20～ 43
	(2) 国書総目録との照合	44～ 48
	(3) 国書総目録に採録の山中文庫蔵書 29 部 目次とダイジェスト版	49～106
III	参考資料・文献	
1	山中文庫付設農芸研究所機関雑誌「苑芳」 第1号～第15号目次	107～110
2	東京農大機関誌『科学の農業』投稿山中進治論文一覧 論文例：「農産研究の体系」	111～117
3	「安房同人誌」からの抜粋	118～120
4	参考文献・関係資料一覧	121～122
*	会員のひとこと	123～131
*	資料提供者・協力者一覧	132
*	おわりに	133

I 山中文庫と山中進治

27 (千葉) 13版 平成26年(2014年)3月14日 金曜日

千葉

千葉総局
〒260-0013
千葉市中央区中央
4-17-3
☎ 043-225-2171
FAX 043-226-1782
chiba@sankai.co.jp
広告 043-202-8600
購読申し込み
0120-81-2950
配達・集金
0120-34-4646
紙面・記事
03-3275-8864

300年前の農業指南書 君津の図書館で特別展示

約80年ぶりに地元へ戻った「山中文庫」の貴重な蔵書が展示されている
＝君津市立中央図書館（杉侑里香撮影）

「山中文庫」80年ぶり里帰り

「つぼし」として、16日まで。

山中氏は同市尾車地区に生まれ、貧困にあえぐ農村の実態を変えようと、全国をめぐって農業や農場経営に関する書物も多く収集。大正9年に自宅で私設図書館「山中文庫」を開き、最盛期には3千冊を超える蔵書を公開。市内だけでなく県内全域から農業を志す若者らが多く訪れたという。

昭和8年に山中氏が急死した後は、貴重な蔵書の散逸を恐れて親交のあった知人らが日本青年館（東京都）に寄託し、大部分は約80年間、地下室の段ボールの中で保存されていた。5

君津市出身で、農学者と書館で特別展示されている。山中氏は私設図書館や農学研究施設を開いて若者たちを熱心に指導していた。同市久保の市立中央図書館で地元の偉人の業績を知

**「山中文庫蔵書」80年ぶり里帰り
お披露目展示を紹介する
産経新聞千葉版**

年ほど前から市や市民サークルが「里帰り」を働きかけ、昨年3月に実現したという。

224冊の中には約300年前に記された農業指南書「農家必備」など、全国でもここにしか現存しない本もある。特別展示では複製本を手にとれるほか、山中氏の業績を紹介するパネル展示も行われている。

1 山中文庫開設

大正時代、草深い田舎に私設の図書館「山中文庫」を開設した山中進治とはどんな人物で、何を思って文庫を始めたのだろうか。

山中進治の著述、「千葉県史」「君津市史」などの文献から経緯を探ってみた。

(1) 生い立ち (千葉県史)

山中進治は、明治21年(1888)周准郡周南村尾車(現君津市尾車一周南地区)に生まれた。

明治36年(1903)周南村尋常高等小学校卒業。

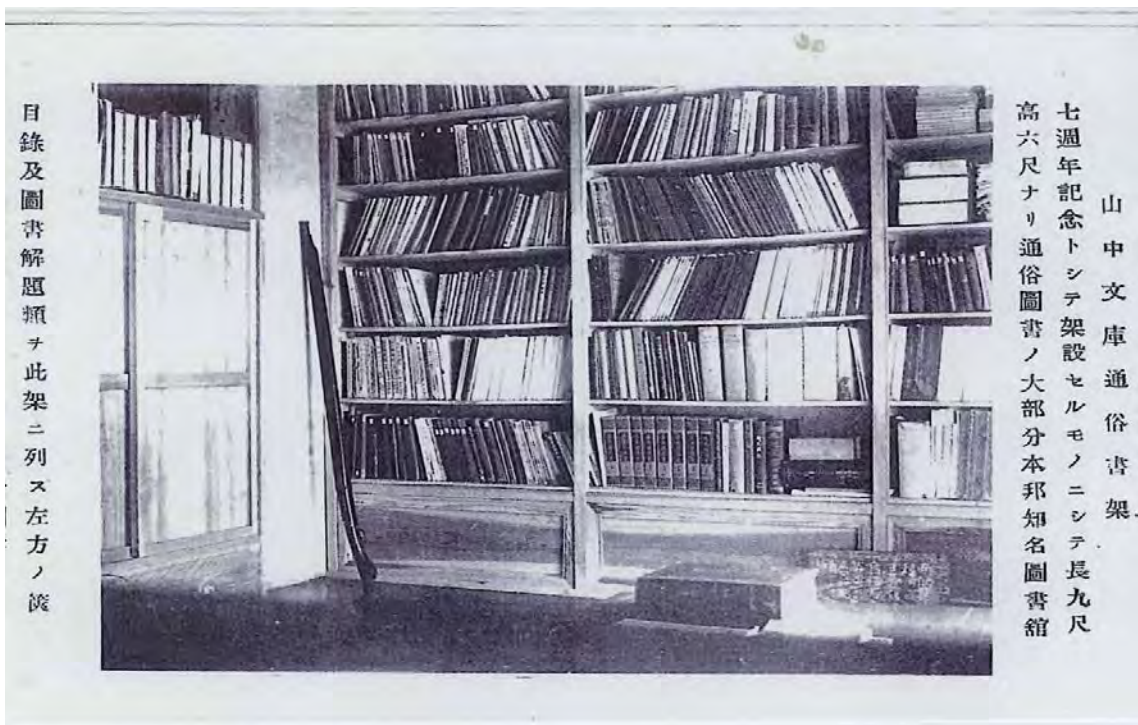
父弥吉は、「**百姓には学問は不要**」と上級学校への進学を許さなかったが、粘り強い説得の末、2年後にして茂原農学校入学。在学中に各地を歩き、農業の実態調査を行い「農村往尋録」を著し教師たちを驚嘆させた。卒業後は天羽農学校、竹岡小学校で六年間教鞭をとった。しかし、さらなる「農学探究への気持ちは止まず」大正3年(1913)東京農業大学へ入学、横井時敬(東京農業大学初代学長)の薫陶を受けた。卒業後、浜名郡立蚕業学校に教諭兼舎監として勤務し、学究生活を送ろうとしていた。ところが、父の死により長男であるため帰郷せざるをえず、大正7年(1918)7月君津郡周准農学校(現上総高等学校)に勤務することになった。



こうして学究の道を絶たれた山中進治は、農村における新たな研究の方法を探り、それが、大正9年(1920)1月25日自宅長屋門に郷土の人々、特に青年達のため「**山中文庫**」の開設となった。

郷里に帰ってからの山中進治は、一家七人、昼は先祖伝来の田畑を耕し夜は卒業以来の宿望である学問研究に励んでいた。この山中に転機をもたらしたのは大正12年(1923)9月1日に起きた関東大震災であった。山中はそれまでの生活を変え、農村問題の研究に全力を注ぐようになった。そのひとつの実践が、

大正12年（1923）12月に、長屋門の傍に「**山中文庫付設農芸研究所**」を開設したことである。



(2) 文庫開設への思い

山中文庫の開設は、大正9年（1920）1月25日であった。公共の図書館は千葉県にはまだなかった。（郡教育会所有の図書館はあった。）

学究生活の道を絶たれた山中進治は、農村においても可能な研究を探り始め、その方法、文庫開設の思い、目標等を、母校である東京農業大学学士会発行の「**科学の農業**」に「**志業を発表し諸賢の援助を求む**」を、発表した。（長文であるが、当時の山中進治の心情が吐露されている。抜粋し引用する）

「同窓の年は去り、星移りて早くも六年の星霜を送り、顧て、諸賢駿足の後塵を拝し私に慙愧に堪えません。天分薄い自分ながら、当年の志業を打ち棄てたわけではなかったですが、人事誠に思ふに任せぬので静かに時の到るを待ったのであります。短い人生に五年六年待つといふことは問題であります。（中略）

「斯くして五年は経過せり」であります。五年の山居斯くして心的に充実すと云はざるまでも、無意識でないと存じます。又形にしては略整家・正圃・理山林成る告ぐと云ふわけで物其の所を得、大正十年には将来家政の方針を樹て、母屋移転を断行して研究室と分離しました。即ち母屋は生活に、研究室は研究に、各其の位置を採り山居五年にして其の整理と準備とを遂げ、家族は分担協力して、一方生活と戦いつ、一方 年来の志願を試みやうと云う時期に達したのであります。（中略）

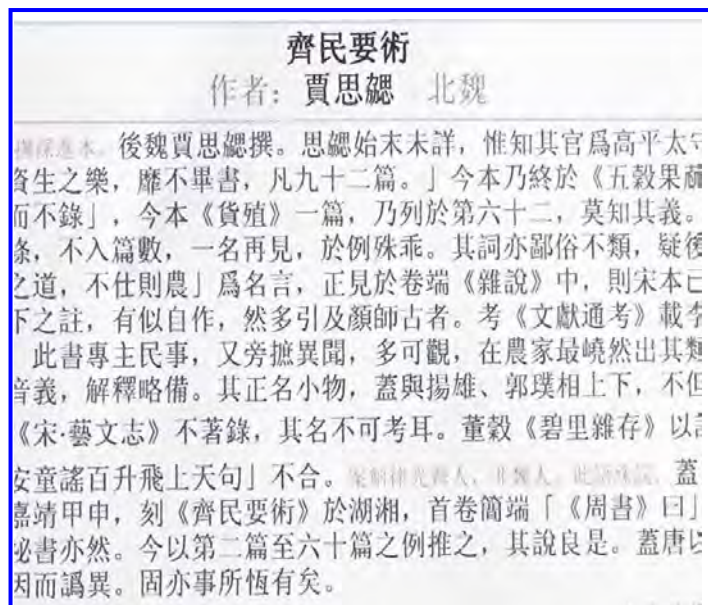
志業とは、同期諸君には知らるる如く、日本農事文献の整理刊行及び農業史

学の創成といふことであります。勿論完成の上は尚延長事業はありますが、一体私のこの事業を思い立つようになったのは、日本の学問会が翻訳時代を去って漸次資力を有するやうになり、落ち付いて考えるやうになり、即ち日本自生の学問文化—それは全然自産とまでは行かずとも兎に角、西洋文明の輸入前に日本に存在したもの—は何かと考へるやうになって、ぽつぽつ古い書冊を引き出して調べてみる傾向を生じてきたのであります。自覚と云ふであります。

斯く学問界が醒めて、人の畠ばかりのぞくことを止めて自家の畠を見てみるといや此のものは古く日本に存在したものとか、此の事は日本人の方が先に発見して居たとか、此の栽培法は西洋の書物にはない、或は此の経営法、此の用意は到底今日の科学的に書いた西洋の書物では得られないとか云う類が続々発見せられています。範囲を廣くして東洋と云う立場からすれば特に其の類の實例が豊富になる。

○魏の農書「^{せいみんようじゆつ}齋民要術」

には、瓜を播く時に大豆の2, 3粒を混播せよ、さすれば大豆まず発芽して先導となり續いて瓜が発芽してくる。瓜が数葉を着けた時に大豆を摘去するがよい。引き抜くでない。引き抜いては土地が虚燥して悪いから、然れば弱性の瓜が容易に発芽繁茂すると書かれている。



自分は母校任學時之を受け持ち畠で實驗すると、何の誤聞かそれが、佐藤信淵の秘法が山中君が歴史栽培學を講ずると云う騒ぎを同窓や職員方の中までも囂伝せられ、自分のことを信淵々と云ふて閉口させられたことがあった。

十数年前、露国の、S. A. M o k r z e c k i氏に依て発表せられ世界を驚異せしめた植物の内科療法は、ずっと以前に支那人に着手せられているし、朝鮮の「雨量測定器」は西洋のそれに比して頗る古いと云ふてよかろう。斯様な事績が明らかになればなるほど、日本若しくは東洋は古い文化の内容(科学的)が知りたい。それが日本若しくは東洋の誇りである。以上吾々後學にはそれを紹介する責がある。又、夫等の研究した吾々祖先に適當な感謝をなすべき後進の禮が其所にある。折角自国にそれだけの研究があるのに、只夢中に近代の泰西文化にのみ禮拜したのでは吾々民族の不見識ともなり、祖先に對する忘恩とも見らるるであります。(中略)

一方に、日本は瑞穂の國などと稱して農業國を以て自負する國が此の方面の文

献整理史學の発達しなかつたことは遺憾に堪へません。勿論、官撰「大日本農史」は其の一步として成功であり、当局の用意、田中芳男男爵、織田完之翁の苦心を多謝せねばなりませぬが、尚漏らしたのものもあり系統も輕重も分類も史學性も欠けている様に思はれます。（中略）

○**文芸雑誌の経営** これは前事業の姉妹事業かと思ひます。これによつて材料に利し得まいかと考えます。此の方面に御経験の多い、栃木君などに諮りますると雑誌事業が可成困難なものであると申されますので考慮中であります。（中略）

○**趣意書**

本庫の開設は大正九年一月にして、起思は遠く予が在京の初めにありき、志は郷党 講学の一助と予が志業農業史學建成の書室たるにあり。凡そ購書の一度翻講せられたるのみにて、書架に納まり紙魚に委せんには誠に無益の策なれば、予並弟妹の修學の為購ひ来たりしものと、頃者此度の趣旨に基きて新たに購ひ調へたるもの若干とを合わせて講読に便したるのみ、即ち私庫を後學郷党に開きて若干の利用と便益とを図りたるなり。（後略）

以上簡略ながら、研究目標、事業予定、既集未収書数を陳じ諸賢の甚深なる援助を希望する次第であります。」

これによると、文庫の開設は一に郷土の青年たちの講学のため、一には自身の農業史学研究のためであるとしている。

<山中文庫の将来像> (山中進治は自宅に山中文庫開設にあたって・・・)

願わくばこの事業を大成し、東洋の農業古典を我が房総半島の一角に確保し、対岸の金沢文庫と時をへだてて相照らし映させたい。

と鎌倉時代の金沢文庫を意識していた。又、「教育の趨勢は自発を重んじ、学校教育の一部は将来、図書館運動に移されるに違いない」と図書館活動の意味も含ませていた。

○「朝日随感」には

実弟山中胤次著『朝日随感』には・・・「兄は農村の疲弊を嘆き、これが改革に志し、青年の養成を第一にせねばならぬと考え、文庫を建て近村の青年を集め同志をつのり、互いに研鑽を続けていたが中道にして病没したのは残念でならぬ。（中略）兄が常に口にしていたことは、農村にこそ人物が欲しい。

有為の青年は農村に残らねばならぬ。農業立国の吾が日本国に、古来農を以て国の本としてきたこの日本の農村に、有為の大人物がいたる所に隠れている日本国を建設したいものだ。云々」と、ある。

2 山中文庫

(1) 概要

○山中文庫蔵書推移（千葉県史：山中文庫と農芸研究所・苑芳第13号より）

年 月	書籍数	委託図書数	農業標本
大正9年1月	3,087	214	214
昭和5年	3,265	282	392

蔵書の中味は、大正13年8月の新着書籍をみると、『大日本農会報』をはじめ、京都帝国大学の雑誌『経済論叢』、小野武夫『農民経済史研究』など、地域の農村ではあまり目にふれることができない学術書が数多く見受けられた。こうして山中文庫には、農業史関連文献を中心に昭和5年時点で、図書3,265部、その他委託図書282部、標本392点が収蔵されていた。大正13年（1924）7月に山中文庫第三次農史資料展覧会を開催すると、直前には農商務省嘱託小野武夫博士が職員と共に訪れ、近く刊行する予定の『農民経済叢書』のための資料調査を行うほどであった。この山中文庫の活動は、「図書3,000、私設図書館に充満」、「農業のかたわら大きな研究、東洋の古農書2,000、周南の山中氏」などの見出しで数多くの新聞紙上で取り上げられた。

○庫主の推薦図書（昭和3年1月）（山中文庫推薦図書目録より）

蔵書3,087部に就いて、一般的に適切なりと信ずるもの385部を抜き十目に分類し目録を製す。多少閲者の索書に便せんとするに外ならず。他略す。

1. 修養・・・87部：吉田松陰先生遺書、中江藤樹、釈迦、孔子、勝海舟、南州翁遺訓等
2. 農学・・・86部：日本農生成論概稿（山中進治）、農業全書、食用作物各論等
3. 文学・・・61部：武蔵野、独歩集、一葉全集、文学論、西遊記等
4. 科学・・・13部：科学概論、科学史、アインシュタインと相対性原理等
5. 史学・・・27部：日本経済史、日本外史、東洋史教科書、新編西洋史綱等
6. 地理・・・21部：世界当代地理、模範世界地図、新日本百景等
7. 社会学・・・29部：社会学、自治制度、日本経済叢書、徳川政教考、郷土史話等
8. 衣食住・・・11部：楽しき住家、植物史、世界の衣食住、料理講義等
9. 郷土資料・16部：房総叢書、秋広平六略伝、農村、千種新田開墾次第（山中進治）
10. 図書学・・・34部：図書学概論、日本書籍考、群書類従総目録略解題等

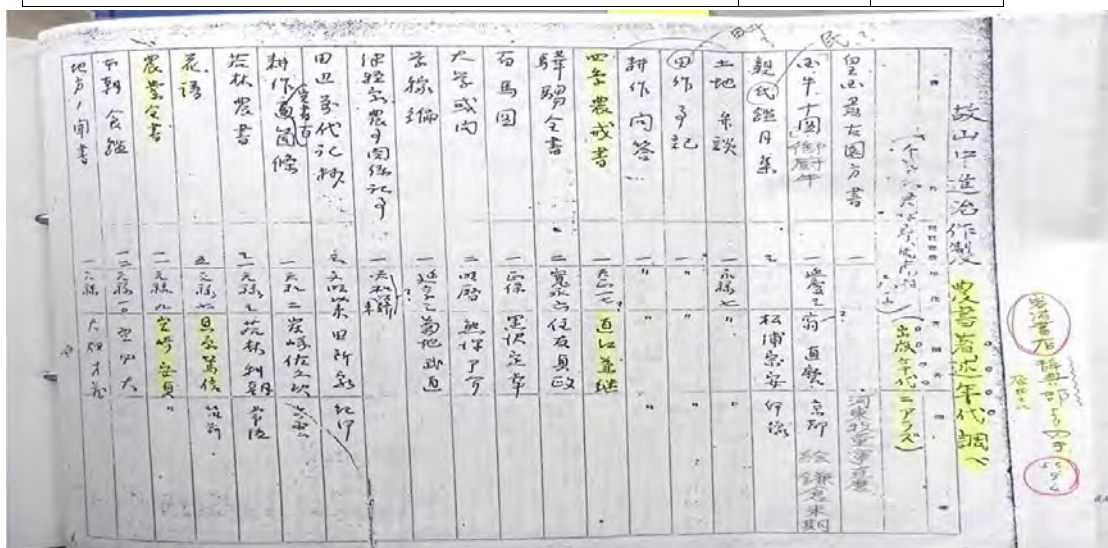
○文庫きそく（「仕業を発表し諸賢の援助を求む」より）

1. 日曜祭日は此の閲覧室で御覧下さるやうに、其の日は貸出しをいたしますから持ち帰って御覧下さい。御話の相手は日曜の午前だけ致します。
2. 最初の室が閲覧室で中央の机上に目録が備えてありますから之に依って、又は直ぐ本箱について自由に索書なされて宜しいのです。閲覧がおわったならば自身で元の位置に挿してお置き下さい（右の方三函が自由閲覧です）
3. 目録の他に新着書雑誌が第一函の上にあります。之も随意に御覧下さい。徳川時代以前の書物、研究室、標本、図類、は別にお聞き下さい。
4. 貸出し期間は一週間、未知のお方へは知人の紹介によってお貸しします。

○現存する山中文庫蔵書目録の種類と蔵書部数

（山中文庫の蔵書目録を入手し比較）

山中文庫蔵書 目録名	部数	冊数
A：故山中進治作成農業書目録	272	619
B：山中文庫農業書	128	303
C：財団法人日本青年館蔵書目録（図書原簿）	61	251
D：山中文庫古支那農書目録	50	？
E：山中文庫推薦目録	385	？
F：日本青年館より寄贈の山中文庫蔵書目録	224	413
合 計	1110	？



（昭和3年？ 故山中進治作成農業書目録）

この山中進治作成農業書目録が岩波書店に渡り、『国書総目録』の編纂時に、山中文庫の蔵書の中から、数多くが国書として、国書総目録に採録された。

（国書総目録とは、古代より幕末までに日本人が著作・編集したあらゆる分野の書物50万部について、著者・分野をはじめ所蔵先・翻刻書名などを明示した最大規模の総合目録、岩波書店創業50周年を記念して1963年～76年に刊行したもの）

○昭和5年当時の書籍数、3, 265部の考察

現存する山中文庫全蔵書目録での書籍数は1, 110部である。又、行方不明？は2, 411部である。更に、1, 110部の中で重複記載は95部あり、実質1, 015部である。日本青年館から寄贈された書籍の中にも、日本で君津市立中央図書館にしかない（現在）貴重な書籍は、農家必備・農家大学・米沢農家立教・親民鑑月集・古状揃余師（国書総目録による）等があり、更に、国書総目録に採録されている書籍名は101部ある。その中で、所蔵先が山中文庫と記載のあるものが29部で、残りの72部の中にも採録されて当然（出版年が同じか直近）と判断できるものが22部ある。

(2) 「山中文庫・山中進治」の世評（新聞雑誌の本庫事業の紹介より）

山中進治の記録によれば、以下のような新聞、雑誌で紹介されたという。

1. 農学者の跡を尋ねて「山中文庫教頭の行脚」 T12. 8. 11・・・報知新聞
2. 農学者の跡を尋ねて研究行脚「日本農業史の研究に没頭する山中氏の話し」
T13. 2. 15・・・東京朝日
3. 自力で山中文庫を・・・・・・・・・・・・・・・・ T13. 2. 16・・・東京朝日
4. 珍しい農史資料展覧会「農村研究者の周南の山中氏」
T13. 7. 27・・・東京日々
5. 山中文庫・・・・・・・・・・・・・・・・ T13. 7. 30・・・万朝報
6. 図書三千私設図書館に充満「農芸研究所 農業文化展」
T14. 1. 19・・・国民新聞
7. 農芸展覧会 山中文庫で・・・・・・・・ T14. 1. ?・・・東京朝日
8. 鹿野山麓の一山村にあつて一身を農村青年の指導に献げ
つつある篤志教育者・・・・・・・・ T15. 11. 1・・・実業の日本
9. 農業の傍ら大きな研究「東洋の古農書二千周南の山中氏」
S 3. 3. 14・・・東京日々
10. 家事の傍ら農村文化研究・・・・・・・・ S 3. 3. 16・・・東京日々
11. 食料問題解決の大発見。馬鈴薯が「米」に・S 3. 4. 29・・・東京日々
12. 御大典記念（農神奉祝祭）・・・・・・・・ S 3. 11. 29・・・東京日々
13. 房総だより・・・・・・・・・・・・・・・・ S 4. 8. 28・・・東京日々
14. 山中文庫 10周年記念・・・・・・・・ S 4. 8. 30・・・房総日々
15. 郷党黨化に力ある山中文庫・・・・・・・・ S 4. 9. 30・・・千葉毎日

其の他、教育公論、千葉朝報、園芸雑誌、農村問題研究資料、文献中に散見す。

*T12. 8.11 (報知新聞) ~S 4. 8.30 (房総日々) 中の数紙を記事紹介する。

鹿野山麓の山村にあつて一身を 農村青年指導にある 篤志教育家

藪 柑 子

断然教職を抛つて歸農

大正の二高層といふも當らず、昔の村夫と云つただけでもつくさな
い、重も角、さうした種々な意味で
農村青年の指導者となり中心人物とな
つてゐる篤志者が一人、千葉県君津郡
周南村尾平に産れてゐる。

その人の名は山中進治氏と云つて、
東京農業大學を卒業後、濱松農学校
に教職をとること一年、更に郷里に
近い周南農学校に五ヶ年間を率じて
ゐたが、大正十二年八月これを退いて
家に還り、専ら彼を養ひ、その手紙を
率する青年の指導に當り、傍ら筆力を
もつて山中文庫を創設し、氏自身にも
また教化事業や、耕作の事に従ひな
ら、農業山麓の研究に心をこめてあ
るといふ、ことし三十九歳の壯年學徒

である。

氏を訪ふには、北條鴨川行の汽車を
木更津で下車して、自動車の便を
こと二里餘、更にそれより一里餘を車
によらねばならぬ。この間の道は風
光まことに繪の如く、道は爪さきあが
りとなつて、はるかに高く仰がれた
野山は次第に低く、近づき、殆んどそ
の麓のそばまで登つた小高い松の小山
の麓に「山中文庫」としたした棟が
建てられてゐる。そこから細い道を横
にのほつた一段と高いところに、古風
な門があつて、一見、寺か何ぞの如く
に思はれる。これが山中文庫で、その
下に山中氏の住宅があり、文庫と、住
宅との間に思ひ切の阿が靜かに秋の陽
をうけてたつてゐた。

門を入つて文庫の前に立つと、そこ
には、一枚の板に細字で左の如き標が
がしてある。

文庫規定

- 一、日曜祭日ハ此間覺察ヲ御覽下サ
ルヤウニ、其ノ他ノ日ハ皆出シテ
致シマスカラ持テ御覽下サイ。
御話ノ相手ハ日曜ノ午前ダ
致シマス。
- 二、最初ノ察ガ閱覽券デ、中央ノ机
上ニ目録ガ備ヘテアリマスカラ、
之ニヨリ、又ハ直グ本棚ニツイテ
自由ニ索書ナサレテ官シウゴザイ
マス。閱覽ガ了ツタラバ自身デ
元ノ位置ニ挿シテ置イテ下サイ。
右方全架ガ自由閱覽書架デス。
- 三、目録ノ外ニ新書ガ正面目録ノ
上ニアリマス。之モ隨意ニ御覽下
サイ。豫時代以前ノ古典、研究
室書籍、雑誌實驗書籍、文庫内
標本ニ就テハ別ニ御覽下サイ。

農事書品ハ別ニ同名列場ヲ設
テハ文庫門外下史蹟屋沙門天洞拜
殿内テアリマスカラ、是レ又御

< T15.11. 1. 実業の日本 (国立国会図書館蔵) : 3ページに亘って・・・。

食糧問題解決の大発見 馬鈴薯が米になる

君津郡周西村の篤志者 中山さんの研究



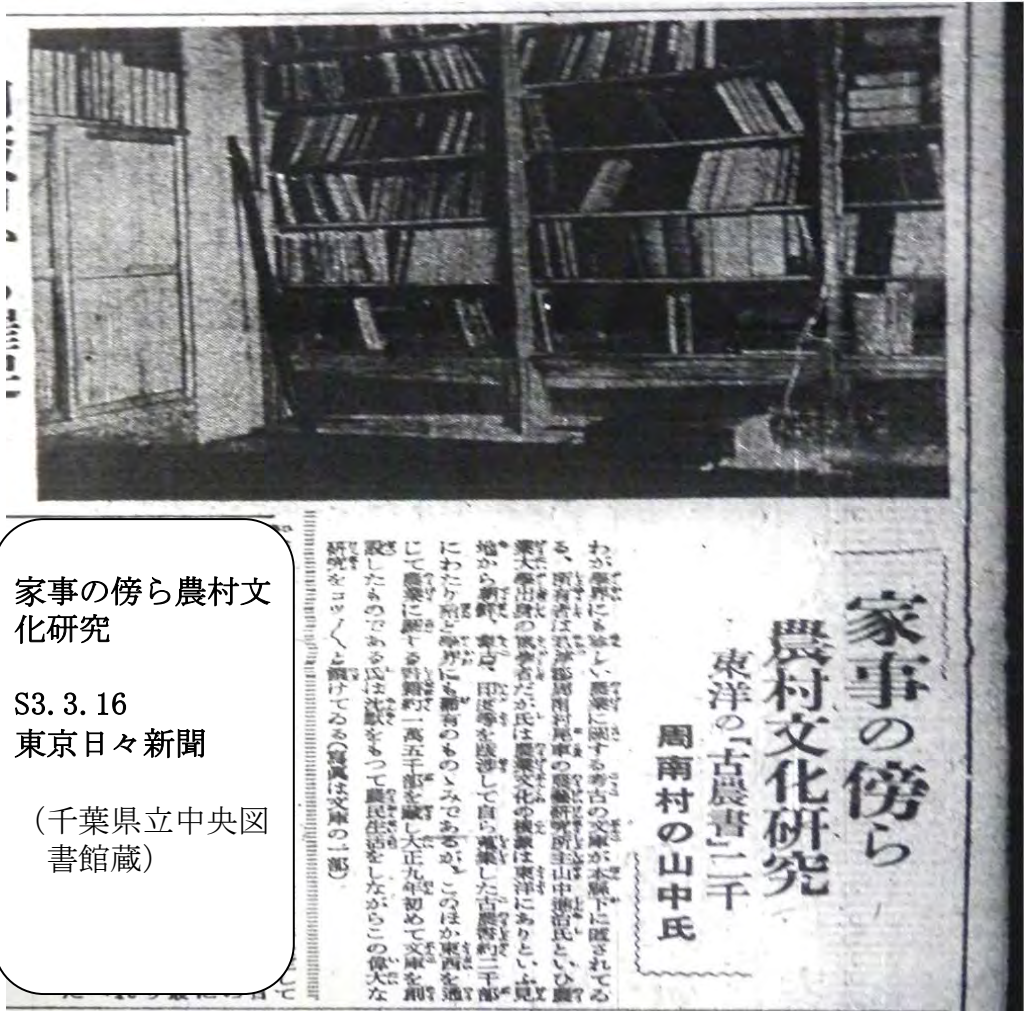
學界にも稀な古農書を蒐集し
て努力で山中文庫を創設し
れた世の篤志者としてあつて

結果を廣く世間に向ふことゝ
なつた

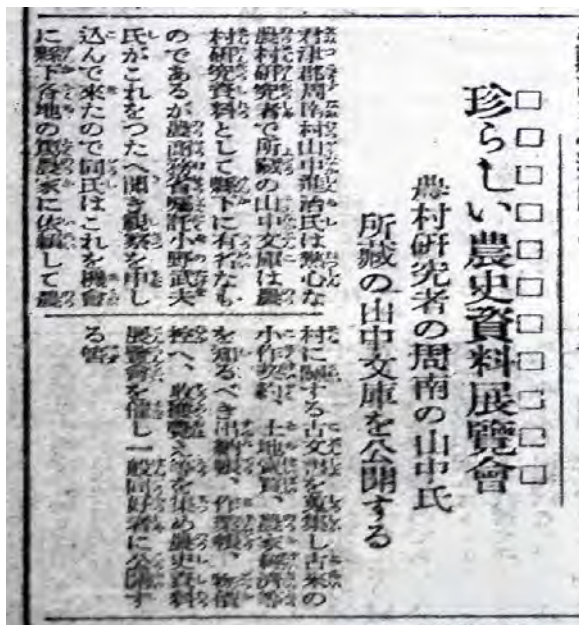
内容は、第七種薯に
分け標的に育まれた山間僻
地の地にある農業者の栽培を
研究の主題としてゐる、興味
ある點は第一種薯の馬鈴薯米
の研究で従来の馬鈴薯とされ
て来た馬鈴薯を養の目に細切
しそれに含むアルカロイド性
分を除くと米質同様のものと
なるので、この人産米の運取
に大きな影響を與へること
であらう(實説は馬鈴薯米研究
の篤志者山中氏)

經濟的 に育まれた
かつたこれ等農業者を經濟的
に救はんとするものであるが
果して氏の學說通り人産米が
感性的價値のあるものとすれ
ば食糧防壁としてこの際世界
に大きな影響を與へること
であらう(實説は馬鈴薯米研究
の篤志者山中氏)

<S 3. 4.29 東京日々新聞：千葉版 (千葉県立中央図書館蔵) >



家事の傍ら農村文化研究
 S3. 3. 16
 東京日々新聞
 (千葉県立中央図書館蔵)



珍しい農史資料展覧會
 「農村研究者の周南の山中氏」
 T13. 7. 27・・・東京日々新聞
 (千葉県立中央図書館蔵)

以上のような「報道」からも、山中文庫の貴重さや進治の活躍が偲ばれる。又、一方、視点を変えれば、僻邑の私設図書館・農学者、蔵書（古農書等）に、これ程の関心・理解を示した「当時の記者」の素養の奥深さに敬意をはらわずにはいられない。

3 農村青年の指導者

山中進治の持論は「新しい農業は僻邑から興る」だったという。

大正12年（1923）9月1日関東大震災により、周辺地域は家屋の倒壊のみならず、収穫前の農地に壊滅的な被害が生じた。教え子たちの絶望の声や相談事が続々と進治のもとに寄せられた。11月教職を辞し、農村指導者として敢然と立ち、読書から得た知識を農業実践に活かす実験施設を備えた研究所で、科学的農業の必要性を教え、広めた。

機関誌「苑芳」を有する「山中文庫付設農芸研究所」は私設の教育施設であり、その経営は多少の月謝を集金したものの殆ど山中進治の負担で行われた。ために家産を減らして行った山中文庫・山中進治の評価が分かれるのであろう。

（1）山中文庫付設農芸研究所 「研究所付設の当年を偲ぶ」より

○施設

農芸研究所は、文庫内の一部を割いてつくった実験室と、築山を潰して、三反（30アール）の試作圃、兎舎Ⅰ、鶏舎兼肥料舎Ⅰ、温床框（木枠に油紙を貼った苗の保温器施設）を設けた。それとともに庭や家の周囲の植栽樹木も用途を考えた6種類の品種を推奨、出費を減らす合理的な農業運営が出来ることを実践して見せた。施設としては、山中家先祖伝来の毘沙門天を祀るお堂も実験器具の置き場や相談室に利用された。



山中文庫付設農芸研究所 試作圃跡 屋敷後方、小高い場所にある。
現在は皿引川からポンプで水を汲み上げ、立派な水田になっている

○組織（「千葉県史：山中文庫と農芸研究所」より）

農芸研究所は研究生や所友を募集し、一期2年制で一期または二期で研究を修了するものとされた。研究生の資格は高等小学校卒業程度の学力を有し、誠実で、実習及び講義を週2回受けられる者とされた。そして、「農芸研究所要項」によれば、研究所の主な目的は農家経済を助けるべき事業の種類及び技術と経済組織を研究し、研究生・所友は経営の実務を修得し、地方の特産品をつくり、科学的農業をおこすことにあった。

○機関誌「苑芳」の発行 大正13年4月14日創刊

「昨秋11月研究所を設置し・・・本所機関雑誌1号を発刊する・・・」これ以降昭和6年12月までの期間、「苑芳」は第15号まで発行された。

第8号から巻頭に

「**汝の国の青年を吾に示せ、吾汝の国の運命を語らん**」（インドの哲学者ラビンラナード・タゴールの詩の一節）を載せ、青年教育の指針・座右の銘とした。又、「**国の根幹を支えるのは農業であり、国は農村青年の教育にもっと力を注ぐべきだ**」との主張を展開した。

「苑芳」は購読希望者を募り、投稿も受け入れている。ほぼ毎号に実験成果を載せ、来所できない者をも広く啓蒙した。

○研究内容

こうして行われた研究は、設立から大正15年（1926）までの3年間の主要なものだけでも、次のような項目を数える。

土壤を選ばない馬鈴薯栽培を推奨、代用食として馬鈴薯米を考案した。

- ①馬鈴薯（ジャガイモ）種粒大試験
- ②馬鈴薯味噌試験
- ③馬鈴薯醤油試験
- ④馬鈴薯パン実験
- ⑤小麦播幅試験
- ⑥小麦に対する種子浸漬剤試験
- ⑦小麦前作関係試験
- ⑧苺収量調査
- ⑨苺ジャムおよびエキス実験
- ⑩蒟蒻品種ならびに各年成長試験、
- ⑪菊芋に関する調査

そしてこれらの研究は、山中にとって**第一次目標「都会に遠き畑地農業の研究」、第二次目標「山村経営の研究」、第三次目標「水田農業の研究」として**体系化された。第一次目標は大正15年（1926）に論文作成が終り、昭和2年（1927）12月に「農産研究の体系—都会に遠き畑地農業の研究—」として印刷され、頒布された。この論文の「都会に遠き畑地農業」とは、山中の住む君津郡のような地域をさしており、「今に日本のどこかに馬鈴薯村の出現を見るだろう」と結ばれている。

○分担制組織に変更

また、この論文を発表する直前の11月13日、付設農芸研究所記念日懇談会において研究所組織の変更を行い、顧問に農学博士 見波定治（東京農業大学農学部教授）を招き、従来の研究生を廃止し、新たに所員を農政経済、土地統計、園芸、気象、薬学、農村衛生、育種、養殖、統計、経営、加工の各分野に配置して分担制組織とした。（組織変更後の成果報告の記述は見つからない）

そしてこの年、**山中は平群村の補習学校へ赴任することになり**、山中のめざした教育・研究活動は新たな展開を見せることになった。機関誌「苑芳」には、農芸研究所の事蹟、その他についても満載されていると考え、「**苑芳第一号～十五号**」の目次を巻末に添付する。

*山中進治は、交通の便の極めて悪い平群村（現：平久里と表記）と周南村とを

往復した。自宅にはほとんど土・日曜日しかおらず、その両日も夜遅くまで青年たちの話し相手を務め、家族との団欒や休む時間はなかったという。

(2) 安房科学農業研究所

昭和2年1月、山中進治は平群村補習学校の教師として着任。幸せなことに向学心に燃えた青年たちが待ち構えており、自宅の農芸研究所で行ってきた理論実践のすべてを伝授する素地ができていたことであった。

○土曜会と安房科学農業研究所（千葉県史：通史 近・現代2 第一節）

山中進治が赴任した平群村（南房総市）では、大正デモクラシーの洗礼を受けた青年達の活動がめざましかった。1910年代に東京に出て苦学した小沢哲夫は、大正9年（1920）病によりやむなく帰郷し、「土曜会」という学習グループを結成した。

○土曜会を中心とする青年達は実践運動として主に二つの活動を行った。

- ① 大正10年（1921）に行った青年団の自主化
- ② 村政への進出



- * 若手に属する、渡辺高俊を青年団長に就任させた。
- * 土曜会が村長に原吉太郎

村長の原吉太郎・平群小学校長の栗原重は、小学校卒業後に中学へ進学できない者のための**補習学校の改革**を行った。それまで平群村の補習学校では僧侶が教師をつとめ、国語・代数・幾何などを教えていたが、化学や物理は教えていなかった。そこで、教員資格を持つ者を招き、普通教科と農業科目を教えるように改革した。**この補習学校の教師として赴任してきたのが、山中進治**であった。

古農書や古い開墾技術に詳しい山中は、平群村の青年達に農業技術や明治三農（中村直三・船津伝次平・奈良博二）・勝海舟・西郷隆盛について語り、又、自然主義文学者国木田独歩を語った。青年達にとって山中は、教師というよりも篤学な学者であった。その山中が、絶えず語りかけたのは、農業と農村の危機に対処していくためには農民が科学と思想を身に付けていかなければならないということであった。この山中の薫陶を受けた青年達によって、昭和4年（1929）5月8日、学習集団としての「**安房科学農業研究所**」が設立された。

研究所の担い手は、渡辺高俊・山口要・若林浩ら20代前半の土曜会第二世代の若手が中心となっていた。渡辺らが後年語ったところによれば、安房科学農業研究所の設立は「俺たちの手でデンマークの国民高等学校をこの地につくろうと思った」、あるいは「自分の生活のために将来を模索したいという気持ちがあった」という。

○科学的な農業研究

安房科学農業研究所には設立当初から30名余りの農村青年が集まり、山中進治の指導のもと、毎月1日と15日に研究会が開催され、その回数は昭和6年

(1931) 12月9日の時点で71回におよんでいた。この研究会では、山中の話す古今東西の人物論ならびに時事問題を聞いて心眼を開き、農業経営学・土壌学・家畜飼養学・農産製造学など農村生活と密接に関係する事項を科学的に学び、農産製造の実習も行っていった。

昭和8年（1933）12月に日本青年館で開催された第二回全国篤農青年大会において、「安房科学農業研究所の概要」と題して発表を行った渡辺高俊は、研究所で学ぶ目的は、確固たる人生観を確立し、農業経営や日常生活を科学化することにあると述べている。

研究所設立から昭和7年（1932）までの4年間に研究された項目は、「農家労働の構成」「十字花植物の根性について」「孤輪車について」「平群乳業の購入飼料」「豆播機の製作について」「甘藷栽培に関する研究」から【農村更生の道】まで37項目におよび、昭和8年（1933）度は共同研究として「飼料問題」「農家労働構成」「農家収支の明細調査」、分担研究として「家庭薬の研究」「防水布の研究」「肥料についての研究」の6項目がかかげられた。

このような所員の研究は、年一回開催される研究発表会でその成果が披露された。第一回発表会は昭和6年（1931）1月6日に平群村小学校で開催され、発表会は夜まで続き、試食会および茶話会も開かれた。冒頭で渡辺は、「今日の農村の状態を見るに、思想的にあまりに低調で、日々の作業においては非科学的である。最新の知識・技術に理解なくして、どうして耕種・牧畜の実をあげることができようか」と高らかに開会の辞を發した。

発表される研究内容は、おもに日々の農業経営の努力や工夫を科学的に裏付けようとするものであった。そのため彼らは数学的・科学的に経営をつかむために簿記の学習をし、人生哲学や農民の生き方に深くかかわる農業技術の改善や実験を進めた。たとえば孤輪車（荷物を運ぶ一輪車）の研究は、平群村という山村に非常に適応した器具として開発され、研究報告ではその力学的意義まで数値で表されていた。又、農村ではなかなか買えなかった都市文化の象徴であるポマードやクリーム、ジャム・ソース・ヨーグルトなども自らの手でつくり、馬鈴薯米（あく抜きをして乾燥させた馬鈴薯を細かく切ったもの）や福神漬けもつくっていた。

更に、昭和6年（1931）に発行された「安房科学農業研究所同人蔵書目録」は、村全体を図書館化しようとする発想の中で作成されたもので、仲間の蔵書目録をつくれれば読みたい本が何処にあるかが分るというものであった。約70頁の目録には、社会科学から自然科学、文学にいたるまでの1,000冊余りの書名が詰まっており、研究所に集まった農村青年の学力の高さを物語っていた。

○天聴に達す（「千葉県青年処女 昭和8年4月号 引用）

昭和8年（1933）2月10日、大日本連合青年団常任理事の田澤義鋪から千葉県庁に電話があり、山中進治を指導者とする安房郡平群村の安房科学農業研究所を視察したいと申し出てきた。さっそく12日に田沢は、千葉県社会教育主事補近藤洋雄の案内でこの研究所の視察を行った。

<S8. 4. 12田澤義鋪視察時の山中進治の解説 > （「青年処女」 千葉県 ）

馬鈴薯より作る人造米は、乾燥重量に於いて一割五分強即反収生薯四百貫とすれば人造米六十貫を得ることになる。人造米一升は大體二百四十匁と見て六十貫は二石五斗之を四斗俵として六俵一斗を得ることになる。これを栄養価を以て米に比すると米一升（三八〇匁）に相当する馬鈴薯米は九合五勺（二二八匁）となり反当六俵二斗四合六勺となる。

こうした研究は、社会科学や自然科学、文学や経営学の基礎科学に根拠を求めたものであった。

それからほぼ10日後の23日、皇居内の学問所において昭和天皇を前にし、田澤は「非常時と青年団」と題する講義を行った。その中で山中進治と安房科学農業研究所がすぐれた業績のひとつとして取り上げられ、「天聴に達した安房科学農業研究所」として一躍有名となった。

『千葉県青年処女』（昭和8年4月号）には「田澤先生によってわが安房青年の活躍が天聴に達したことは、未曾有の出来事であつて千葉県青年団史の上に特筆大書すべき一事蹟である」と記載された。更に、之れ等の青年の指導や誘掖が積もり積って今日其の結果が現われ来つたものと思われる。猶此の研究の中心となり指導されている補習学校の山中先生が農村教育の恩人であることも特筆すべきことである。山中先生は自分の郷里君津郡周南村にも農村研究所を作って地方青年を指導されている篤学の先生である。従来補習学校の先生に其の人を得ないのが遺憾であるが、慥に山中先生は我が国現代の補習学校の先生として農村青年の指導者として得がたき先生である。とある。

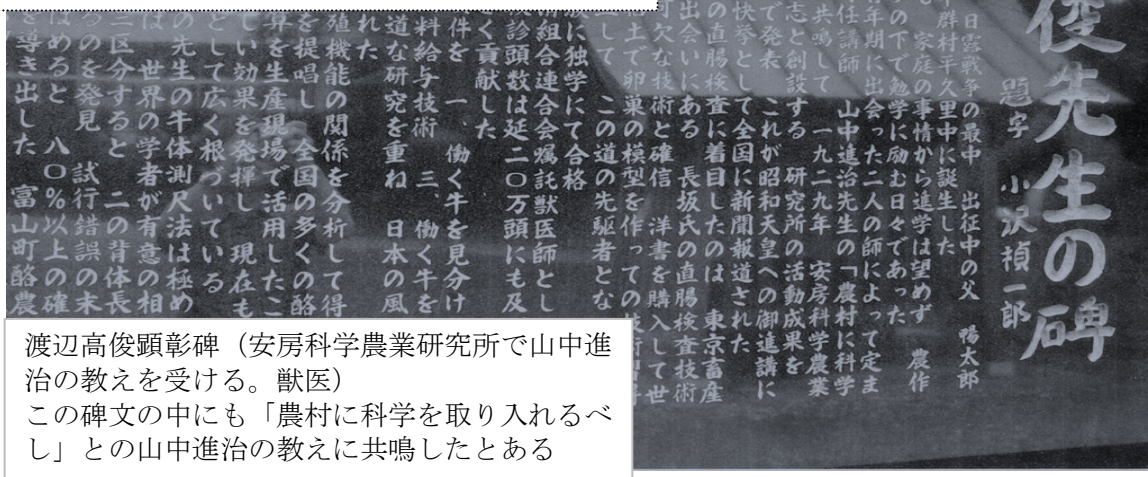


しかし、昭和8年（1933）10月25日山中進治が急逝したことによって、安房科学農業研究所は困難を迎えた。研究所は昭和10年（1935）頃まで活動していたが、日中戦争が始まった頃には活動を停止した。乳牛の飼料も不足し、産乳量も落ち更に、乳牛10頭中発情がくるのは2頭くらいになった。そして戦時体制が進むにつれて乳牛も食用にされていった。

（没後50年記念、山中進治の墓参に訪れた
安房科学農業研究所当時の教え子達）



（昭和57年（1982）10月17日から18日清和国民宿舎）



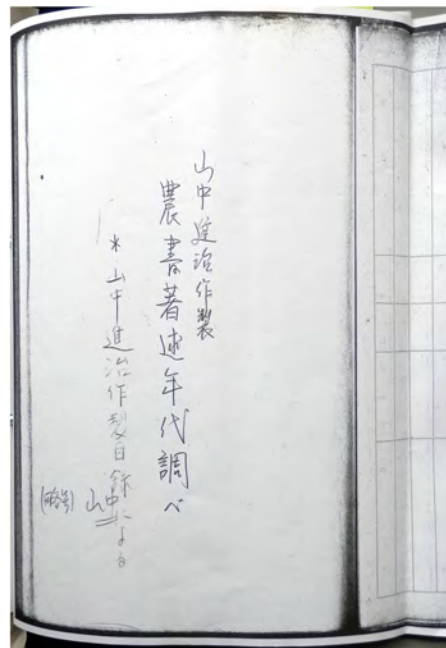
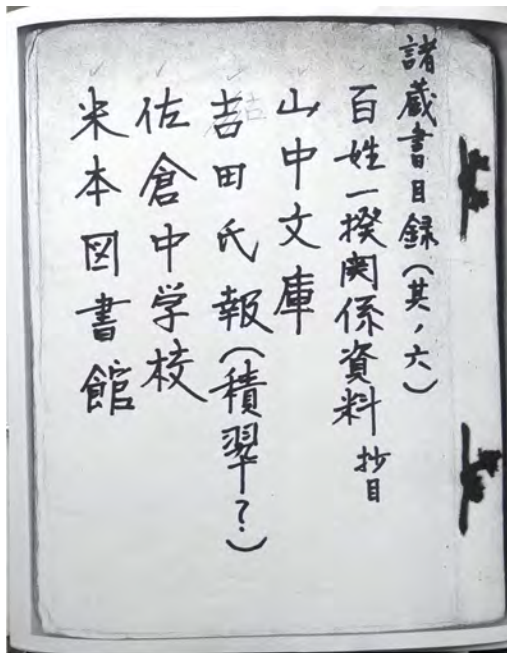
渡辺高俊顕彰碑（安房科学農業研究所で山中進治の教えを受ける。獣医）
この碑文の中にも「農村に科学を取り入れるべし」との山中進治の教えに共鳴したとある

安房科学農業研究所の実績は、平群村全地域の青年が所属し、土壌・播種品種施肥・生育状況・収穫などの違いなどが、こと細かく集計されていることから目覚しい成果を上げたことが推測される。研究熱心な青年に囲まれ、さぞや教え甲斐があり、充実した日々を過ごしたことだろう。

山中文庫付設研究所も、山中進治という指導者を失い活動を停止せざるをえず山中文庫も、遺児はまだ青年に達しておらず、運営継続・維持が困難であった。

貴重な蔵書の散逸を憂い、惜しむ人たちによって、昭和10年日本青年館図書室山中文庫の蔵書の一部が寄託・保管されることとなった。その趣旨はあくまでも全国の農村青年たちの研究に役立てるためであった。

II 山中文庫蔵書目録



岩波書店が蒐集した千葉県関連蔵書目録の表紙。この「山中進治作製蔵書目録が「国書総目録」の基礎資料となった。

1 還ってきた山中文庫の蔵書

(1) 財団法人日本青年館から寄贈

小糸川倶楽部が、平成19年来返還を切望してきた山中文庫の蔵書が、関係各位の協力を得て、ついに平成25年3月5日、君津にかえってきた。

山中文庫は山中進治氏の逝去後、散逸をおそれた法政大教授（農学博士）故小野武夫や大日本連合青年団常務理事：田澤義鋪等の計らいにより、代々木の日本青年館に寄託されていた。



しかし、蔵書の中には太平洋戦争を挟んだ永い年月と度重なる引越し等で散逸したものもあるが今回帰還したのは、主に和綴じの蔵書（江戸時代の農書、往来物）など、地下倉庫で眠っていたが大変貴重な書籍である。

< 蔵書を見ると進治の手で丁寧に分類され、ラベルが貼られている >



(2) 山中文庫蔵書帰還（逆寄贈）までの経緯

- 「山中文庫と進治」研究のルーツは、学生時代に山中文庫・進治を知り興味をもった新井孝男氏で、昭和54年頃、周南公民館を核に小松光一、新井孝男、大野鉄夫氏ら数名で「山中文庫研究会」を始め、「山中進治先生年譜表」づくりと、日本青年館理事（青年団研修の講師）と山中文庫のことで連絡し合うなどの活動が始まった。
- S55. 9. 4：故晝田氏（元木更津図書館職員）が関係機関の好意で岩波書店辞典部から蔵書目録を入手し、その後、共同研究の意図で新井孝男氏へ。
- S55. 9. 11：日本青年館図書原簿（山中文庫）の入手（晝田氏から新井氏に）
- S62. 4：君津市史編纂事業スタート：市内旧家等の所有する文書等の借用（山中家所有の苑芳等・・・）（編纂委員より山中文庫蔵書返還の提起あり）
- H10年頃？：突然？、日本青年館より、山中家へ「山中文庫の蔵書」を返しても良いからの打診あり。返還箇所は公的機関とする⇒君津市対応できず。

- H13. 9. 20 : 周南公民館報「ひろば」で「周南文化のルーツを探る⑤」山中進治・山中文庫を特集（館報編集委員：山中家で取材・・・）
- H14. 10. 17 : 周南公民館、生活史講座「山中進治先生—その事績と時代」
- H15. 7. 15 : 八重原公民館、自然と人間を考える「山中進治先生と村づくり」新井孝男氏（君津市環境部）種々資料配布・・・小糸川倶楽部：九島、河井、元岡、和田、受講。
- H16 : 山中進治作製目録（山中進治作製農書著述年代調べ）を新井氏より入手
- H19 : 小糸川倶楽部会員の元岡氏 日本青年館（掛谷公益事業部次長）へ山中文庫蔵書の返還についてTELで打診・交渉・・・
- H19 : 「山中文庫」を活動テーマに取り上げ、「山中進治作製目録」を基に、蔵書の「解題集」作成開始。
- H21. 4 : 君津市生涯学習課（当時の担当部署）へ返還願いの提起
- H21. 10. 21 : 生涯学習課に返還依頼書の提出を重ねて要請
- H21. 12. 14 : 日本青年館所蔵「山中文庫蔵書」の現物調査(君津中央図書館副館長)山口博行・(教育部生涯学習課) 矢野淳一 日本青年館側回答、君津が提出した寄贈依頼書を見て上司と検討していきたい」又、対象書籍は、山中文庫蔵書の古農書等の和書とし、それらが入った「段ボール8箱」を確認した。
- H22. 1. 25 : 日本青年館理事長小里貞利様へ「寄贈願い」提出。君津市立中央図書館館長佐藤利則（担当：副館長山口博行）
- H22. 6. 3 : 再度、返還要請を生涯学習課に働きかける。
- H23. 12. 12 : H22年1月25日提出の「寄贈願い」について、日本青年館側はどのような感触を持っているかの確認及び、山中文庫蔵書全冊の表紙を写真撮影。君津市立中央図書館：三浦館長・藤平職員、小糸川倶楽部：九島・川上
- H24. 3. 6 : 君津市へ陳情（渡辺和子さんの紹介で、小林市議会議長他）
- H24. 4. 2～H24. 4. 13 : 市役所1階ロビーにて 山中文庫パネル展開催
- H24. 7. 3～H24. 7. 29 : 君津市中央図書館企画展示室にて山中文庫パネル展
- H24. 7. 31 : 日本青年館理事長小里貞利様へ、君津市長名で寄贈依頼書提出。
- H25. 1. 28 : 日本青年館より、**山中文庫蔵書224部 君津市へ寄贈された。**

（3）山中文庫コーナーの新設

- H25. 3. 5 : 袖ヶ浦郷土資料館で燻蒸を終え君津市立中央図書館へ「78年ぶり

の里帰り」 連絡を受け都合のついた会員で出迎え。感無量。

- H25. 7～：山中文庫蔵書224部のダイジェスト版 編集開始（写真撮影・目録作成） 管理上一般公開は出来ないため特別な許可を得て。
(今まで不明だった書名、著者名、発刊年月日等、次々と明らかになった、)
- H25. 10. 3～H25. 10. 6君津中央公民館文化祭「山中進治・山中文庫の紹介」を展示。
- H25. 12. 5：君津市立中央公民館に「山中文庫コーナー」が新設される。

・山中文庫の紹介パネルを常設展示。



- H26. 3. 4～16：君津市市立中央図書館企画展示室で、山中文庫蔵書224部の全部のお披露目展示がおこなわれた。



*古農書の実物展示（写真は、『農業全書』）

(4) 「山中文庫蔵書」のこれから・・・

念願の山中文庫蔵書が帰って来た。山中進治が直接手に触れた本を目にし、手に取り、進治の思いの一端に触れられたような感じがした。寄贈された蔵書224部の中には、日本中の図書館を見渡しても、山中文庫にしかない貴重な書籍もある。(農家必備等で国書総目録による)

しかし、如何せん私達の力では、この蔵書を読み解く事は不可能である。現状では、燻蒸を終え、特別書庫に保管されていて気軽に閲覧はできない。又、総合的な活用方法も見えていない。小さな小糸川倶楽部には大きすぎる課題である。これから、皆さんと共に、この貴重な蔵書の活用方法について知恵を出し合いたいものと考えている。

君津市立中央図書館との協議で、山中文庫蔵書も図書館の蔵書検索システムに組み込み、インターネット検索が可能となった。これにより世界中から ⇒ 山中文庫蔵書の検索が可能となった。

山中文庫の蔵書は、書籍名をご覧になれば、その多くは「国書」で貴重なものであると理解されよう。山中進治の、蔵書蒐集・山中文庫創設の目的、科学的農業の浸透・活用、郷土愛・人間愛、環境エコ等の活動に情熱を注いだ事績を多くの人に知ってもらい、理解していただきたい。皆様方のご支援とご協力をお願いする。



左側 : 周南村青年団建立 山中進治先生事蹟記念碑

右側 : 山中文庫創立10周年記念碑

* 石碑の後方は山中家の長屋門。ここに山中文庫と付設農芸研究所があった。

山中進治：略年譜（周南公民館「山中進治研究会」作成より）

年	記 事
明治21年 (1888)	1 1月13日出生(父弥吉・母ぶんの長男) 周准郡周南村尾車の農家：名主の家に誕生
明治28年	7歳 4月 周南尋常高等小学校入学
明治36年	15歳 3月 周南尋常高等小学校卒業
明治37年	(進学許されず農業手伝い：父、弥吉 ⇒ 百姓の長男には学問は要らぬ)
明治38年 (1905)	17歳 4月茂原農学校入学。全校ストライキの責任を取り放校処分となる。その間農村の実態調査、『農村往尋録』自費出版。その出来ばえの優秀さゆえ復学許される
明治41年	20歳 3月茂原農学校卒業。5月天羽実業補習学校(現天羽高校)教師嘱託
明治42年	1月同上退職。2月周南尋常高等小学校代用教員、9月竹岡小学校代用教員
明治43年 (1910)	22歳 5月中島中尾武三郎三女ミネと結婚。12月周南小学校夜学会設置、教師委託され青少年の指導にあたる
明治44年	3月 同夜学会の講義録『農業講義』をガリ版印刷で発行
大正2年	6月長男 治家誕生
大正3年	26歳 4月東京農業大学入学 (学生寮舎監任じられる)
大正6年 (1917)	29歳 3月東京農業大学卒業。卒論『日本農学生成論概論』8月静岡県浜名郡立蚕業学校(現静岡県立城北工業高等学校)教諭兼舎監に任ぜられる
大正7年 (1918)	4月13日長女 静枝誕生。4月17日父弥吉没。家督相続のため帰郷。7月周准農学校(現上総高校)教師
大正9年 (1920)	1月25日 農事に関する文献の収蔵、郷土の人々の学問研究の手助けのため 山中文庫を自宅長屋門に設立・公開
大正12年 (1923)	2月次女美智野誕生 6月「志業を発表して諸賢の援助を求む」(東農大機関誌「科学の農業」)。周准農学校退職。12月文庫内の一部に実験室、3反の試作圃、兎舎、鶏舎兼肥料舎外を設置、 農芸研究所開設
大正13年	4月 山中文庫付設農芸研究所機関誌「苑芳」第1号発刊
昭和2年 (1927)	38歳 1月安房郡平群村農業補習学校教諭。12月「農産研究の体系一都会に遠き畑地農業の研究要綱」(科学の農業)へ発表
昭和3年 (1928)	10月付設農芸研究所組織変更, 所員分散分担制、8部門へ。「苑芳」12号より「芳苑」に改題
昭和4年	5月 安房科学農業研究所創設 。10月 山中文庫創立10周年式典・記念行事挙行。記念碑建立 (農業史関連文献中心図書3265部、依託図書282部、標本類392点収蔵 : 図書3,000、私設図書館に充満・・・等・・・新聞紙上に取り上げられた・・・)
昭和7年	4月 次男多聞誕生
昭和8年 (1933)	2月12日 大日本連合青年団常務理事田沢義鋪(よしはる)安房科学農業研究所視察。2月23日 大日本連合青年団常務理事田沢義鋪 天皇へご進講、安房科学農業研究所(指導者 山中進治)の業績を取り上げ、天聴に達す。 10月25日急逝(46歳) 12月周南村青年団、山中進治先生事蹟記念碑建立
昭和10年 (1935)	山中文庫及び、農芸研究所は後継者なく閉鎖された。農学博士小野武夫氏の斡旋で、大日本連合青年団の郷土資料陳列室(現日本青年館一明治神宮の森一図書資料室)に主任大西伍一氏を煩わし、同所内に山中文庫として一括保存することとなった。

2 2 2 4部の蔵書目録

ここには、私たちが今回特に力を入れて作成した目録三部を続けて紹介する。

平成25年1月、永年の熱意がかない「山中文庫蔵書2 2 4部、4 1 3冊」が、日本青年館から君津市に寄贈された。2 2 4部の蔵書に『国書総目録』に採録された書籍が29部、採録されて当然と考えられる書籍が22部、合わせて51部もあり、これらは「大変貴重な書籍」で君津市の文化遺産といえる。

この2 2 4部を、山中進治の分類方法で分類したのが下表である。

No.	分野名	部数	No.	分野名	部数
1	修 養	61	6	地 理	2
2	農 業	71	7	社会学	17
3	文 学	16	8	衣食住	8
4	科 学	12	9	郷土資料	21
5	史 学	11	10	図書学	5

この表から言えることは、日本青年館へ寄託した書籍は、農業書が主ではなく、あらゆる分野の書籍を含んでいるとも。

(1) 山中文庫蔵書解題

(備考(注釈)はネット検索：Wikipediaフリー百科辞典他より)

日本青年館に所蔵当時、表紙のみの撮影許可をとり、目録の作成を心みたが、解読不能のものが多数あった。今回、図書館の許可を得て、この2 2 4部の蔵書の書名、冊数、著者、版元、出版年等を確認し、内容を調べ紹介することとした。(P20～43)

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
1	1	1	おがさわら	小笠原諸礼調法記(童子専用・増補繪入)	1	速水春暁齋 画圖	天保9年(1838)	京都菱屋板屋 治兵衛堀屋 大阪堺屋 新兵衛ほ か板	童蒙向けの小笠原流礼法書の一つ。巻頭に和漢の礼法の由来を略述し、以下「素礼の事」から「御厨子・黒棚の図」まで約80項目に分けて、基本事項を図解入りで平易に解説する。出版:国書総目録には享和3年(1803)もある。*出版年:国書総目録には 享和3年(1803) とある
2	1	2	おきなもん	翁問答 改正 三 (3冊括り)	3	中江藤樹	?	小林新兵衛	江戸時代初期の儒学者 おもな著書に『翁問答おきなもんど』『鑑草かがみぐさ』『孝経啓蒙こうきょうけいもう』『論語郷党啓蒙翼伝ろんごきょうとうけいもうよくでん』『大学考だいがくこう』などがある。 *出版年:国書総目録には慶安3年(1651)とある
3	1	3	おんなだ	女大学 (教尊)	1	貝原益軒	?	東都書林 甘泉堂梓	女大学(おんなだいがく)は、江戸時代中期から女性の教育に用いられるようになった教訓書である。ここでいう「大学」とは、教育機関の大学ではなく、四書五経のひとつである大学のことを言う。貝原益軒が著した『和俗童子訓』を元に作られたと見られ、1716年(享和2年)に刊行され、以来太平洋戦争前まで女子教育の教本的な扱いをされた。儒教によって女性の誠を19か条にまとめた。これらを幼少のころからよく教えこむことが肝要で、嫁入り道具を立派にすることより、こうした教育のほうを女性を幸せに導くのである、と説き、冒頭には女性は容姿よりも内容が大切であると記載している。
4	1	4	おんなてい	女庭訓往来全	1	?	嘉永5年(1852)	松栄堂	原本の出版地:江戸(東京) 出版者:松栄堂 出版年(西暦):1855 出版年(和暦):安政2(庭訓往来倭文鑑、テイキンオウライシズカガミ) *出版年:国書総目録には安政2年(1855)とある
5	1	5	かくちちよ	格致重寶記 此書地方反例?完	1	?	?	?	山中進治の考証あり…
6	1	6	ぎこうこう	義公黄門仁徳録 全:五巻 (津田親清所持と墨書入あり)	5	呑産道人[撰]	?	津田左右吉 旧蔵 (日本史学者)	光圀の伝記資料としては、正伝である『義公行実』をはじめ『桃源遺事』『久夢日記』など様々なものがあり、宝暦年間にはこれらの伝記資料を基に実録小説である『水戸黄門仁徳録』が成立し、黄門漫遊譚の起源となっている。 *出版年:国書総目録には天保8年(1837)写
7	1	7	きっかぞく	菊花俗談全	1	松籟軒 南甫 [他]	?	写し	*現物を精査 「山中 生」の書き込みあり…武陵城西世田谷隠士 *出版年:国書総目録には宝暦年間とある
8	1	8	きっさよう	喫茶養生記	1	栄西禅師(明菴栄西)号:道号・明庵 尊称:栄西禅師	?	?	『喫茶養生記』は上下2巻からなり、上巻では茶の種類や抹茶の製法、身体を壮健にする喫茶の効用が説かれ、下巻では飲水(現在の糖尿病)、中風、不食、瘡、脚気の五病に対する桑の効用と用法が説かれている。このことから、茶桑経(ちやそうきょう)という別称もある。書かれた年代ははっきりせず、一般には建保2年(1214年)に源実朝に献上したという「茶徳を誉むる所の書」を完本の成立とするが、定説はない。 *出版年:国書総目録には承元5年(1211)とある

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
9	1	9	きゅうばく	舊幕府聖堂 釋奠圖五部	1	?	?	?	舊(旧)山口藩明倫館之図・舊幕府学問所 構内総絵図
10	1	10	ぎょうそへ	翹楚編全 (源鵬撰)	1	荏戸善政	?	?	上杉鷹山事蹟 寛政2年序の写本 青山 延寿書入 *国書総目録は寛政元年
11	1	11	きんしんお	謹身往来 寶蔵全	1	?	国書総目録には刊 年不明: 山中文庫 とある	永寿堂 西村與八 藏梓	謹身往来宝蔵? 商売往来宝蔵? *田 中徳八氏所書? *出版年:国書総目録には 天保4年とある
12	1	12	くすの きま	楠 正成 一卷書 全	1	山鹿素 行 序文	大正6年 (1917)	小楠公菩提 寺 宝篋院	竹岡書店:楠正成一巻之書は写真 と同一 **東郷元帥閣下題字あり...
13	1	13	こくしこ う	(國史講習 録第14卷) 古文書學	1	文学士 伊木寿 一	大正13 年 (1924)	出版地 東京 国史 講習会 発行	伊木 寿一(いぎ ひさいち、明治16年 (1883)3月3日 - 昭和45年(1970)11月28 日)は、日本の歴史学者。専門は日本古 文書学。文学博士。●大正5年 初代長 坂金雄が国史講習会を組織し、国史講 習録および国史界(のち中央史壇と改称)を刊行、出版社としての第一歩を踏み 出す。『日本古文書学』雄山閣 昭和5 年(1930年) *古文書學 / 伊木壽一述 東京:国史講習会, 1924.6 2, 112p; 22cm. -- (国史講習録; 第14卷)
14	1	14	こじょう そ	(改正)古状揃 餘帥全 写(図)	1	?	?	東都 衆富閣梓	*出版年:国書総目録には天保14年とある が、山中のみ
15	1	15	ごせい ばい	御成敗式目 詳解全	1	高井蘭 山翁述 和泉屋 金右 衛門	文政10年 (1827)	江戸 西村屋 与八	貞永(じょうえい)式目とも。1232年、執権 北条泰時の指導の下に制定された鎌倉 幕府の基本法典。51カ条。守護・地頭の 職務内容や民事・刑事・訴訟手続法など 多様な内容を持ち、土地の取得時効法な ど従来の公家法・荘園法とは異なる独自 の武家法理が成文化された。*出版年: 国書総目録には文政7年とある
16	1	16	ごせい ばい	御成敗式目	1	北条泰 時	嘉永5年 (1852)	東都書肆 青雲堂	鎌倉時代に制定された武士政権のため の法令(式目)のことである。貞永元年8月 10日(1232年8月27日:『吾妻鏡』)に制定 されたため、貞永式目(じょうえいしきもく) ともいう。*出版年:国書総目録には享祿2 年とある
17	1	17	さいば い	栽培精理	1	愛媛県 平民志 賀雷山	明治15年 9月 (1883)	東京有隣 堂穴山篤 太郎	実物の内容確認 : 熟欧米両州の農業 に係る情勢を視察するに現時極めて開 進の域に在りと...
18	1	18	さんぼ うじ	算法地方大 成(租税の 部~量地之 部 五)	4	[編著 者] 秋田 義一	天保8年 (1837)	江戸: 千鍾房	和算家、「算法 地方大成」(天保8年 1837)の著者。「算法地方大成」の第5巻「 量地之部」で、量地測器 とその使用法を 説明した。千葉県中央図書館:有り*出 版年:国書総目録にも天保8年とある
19	1	19	じかた おう	地方往来全 第34号	1	市野 嗣 郎	明治3年 (1870)	青松軒 (東京)版	最初に「夫地方者国之根本也」で始めら れている。続いて検地、検見、道具、廻船 、普請、凶年不作による難渋、参勤交代 、訴状、身分職分の名称など、語彙は簡 潔であり、農業生活に必要な一般的・日 用的なものをくまなく取り上げている。* 出版年:国書総目録は不明

一連No.	分野		かな	書名	冊数	著・編者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
20	1	20	じつごきよ	実語教・童子教 天保12年版	1	?	天保12年(1841)	江戸鶴屋(仙鶴堂)	『実語教 童子教』文化十一年・江戸鶴屋(仙鶴堂)板による。実語教と童子教は、往来物、すなわち中近世を通じて広く長く行われた初等教科書の、なかんずくいわゆる教訓科往来の代表的な古典の一つである。従来の最古本は元禄初年であった。今回、発見した貞享5年板はさらに遡る最古本として貴重であろう。貞享5年9月、京都・万屋彦三郎板。『実語教童子教』本文中の任意の語句に略注ならびに挿絵を頭書に施した絵抄本。*出版年:国書総目録にも天保12年で全く合致。
21	1	21	じぼげんり	字母源流	1	東川埜廷賓 口授[他]	(18--)[写]	?	国立国会図書館デジタル化資料(荘蝶庵訂正 字母源流諺解; 著者: 東川埜廷賓 口授[他]; 出版年月日: [18--][写]; 著作権状況: 保護期間満了...容量・大きさ(extent): 1冊; 27cm; 内容記述: 題簽書名: 荘蝶庵字母諺解卷末書名: 字母源流諺解)
22	1	22	じゅうじゅう	十住心論(秘密曼荼羅十住心論)八	4	空海	830年(寛文7年)	中野小左衛門	『十住心論』(じゅうじゅうしんろん)、正確には『秘密曼荼羅十住心論』は、空海の代表的著述のひとつで、830年ころ、淳和天皇の勅にこたえて真言密教の体系を述べた書(天長六本宗書の一)。10巻。
23	1	23	じゅぎょう	授業編一~八	4	江村北海	天明3年辛丑(1783)	京都書林文錦堂他	授業編総目. 卷之一. 幼学 習句読. 学書. 卷之二. 読書[自一則至三則]. 卷之三... [1713~1788]江戸中期の儒学者・漢詩人。名は綬。播磨(はりま)の人。宮津藩に仕えたが、のち退任し、京都に住み、漢詩文の普及に尽くした。著「日本詩史」「日本詩選」など。
24	1	24	じょうざん	常山文集附録 行實	1	中村顧言 栗山潜鋒 酒泉竹軒	享保8年(1723)	?	元禄13年(1700年)に光圀が没すると、翌14年、3代藩主徳川綱條の命により、中村顧言・栗山潜鋒・酒泉竹軒とともに『義公行実』を編集。のち享保8年(1723)に、4代藩主徳川宗堯の命により、さらにこれを修訂し『常山文集』の付録として印刷した。また享保9年に、『義公行実』の付録として『西山遺事』を著している。出版年:国書総目録には享保3年とあり、享保8年はない。
25	1	25	しょうへい	昇平江都往来	1	禿箒子	享和元年(1801)版	江戸:藤岡屋慶次郎	(B-52は泰平江都往来である) 序文書名「昇平江都往来」。自遣往来 江戸 奥村喜兵衛 明和5(1768)刊自遣往来: [別題](江戸往来) *(実物の内容確認)
26	1	26	しょうがく	初学古状揃	1	?	安政4年(1857)	書林玉山堂	(吉井小学校:池田若松氏の卒業証書あり) 参考目録:国書総目録4巻520頁 日本古典席総合目録 ID235405 外題:改正新板/初学古状揃万宝蔵 外題注記:題簽 見返し題:初学古状揃 出版年:国書総目録は天明3年がある。
27	1	27	じょくこんこう	女訓孝経全 [別題] 女訓孝経教寿	1	鄭陳 = 妻/八隅山人(和解)	嘉永4年(1851)	江戸:須原屋茂兵衛他	東京学芸大学 附属図書館所蔵資料要約(Abstract), : [頭書]孔子/越後国蒲原郡孝女/孟母/本朝二十四孝 [卷末]和歌三神像/慈鎮 和尚五常の歌/三夕之図/六歌仙/十二月和名/六玉川 * 出版年:国書総目録も嘉永4年
28	1	28	しんどうし	新童子往来 万家通	1	?	弘化2年(1845)	書肆浪花心齋橋敦賀谷九兵衛	司馬温公乃... 実物の内容確認

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
29	1	29	しんろん	新論上・下 2巻	2	正志会津 恒蔵 先生	安政4年 (1857)	江戸書林 玉山堂	江戸 山城屋佐兵衛・・・
30	1	30	せいざん	西山遺事 (巻の下と巻の 上・下あり)	3	?	?	?	実物の内容確認
31	1	31	せんし ゆう	撰集抄	4	著者未 詳	?	?	鎌倉時代の仏教説話集。9巻。西行述作 と伝えられてきたが、著者未詳。文永年 間(1264～1275)ごろまでに成立。神仏の 靈験、高僧の法徳・発心談など百余話を 収める。*出版年:国書総目録には寛文8 年とある。
32	1	32	せんし んど	洗心洞割記 全 (せんしん どうさつき)	1	大塩中 齋 (大塩平 八郎)	明治30年 (18 97)	今古堂	学問は陽明学を学び、知行合一を信じて 、自宅で洗心洞という私塾を経営し、頼 山陽などとも交際を持った。*出版年:国 書総目録には天保4年がある。
33	1	33	ぞうこう ほ	増廣本草綱 目 一	14	李 時 珍	民国12 年3月 (1923)	上海商務 印書館	増廣本草綱目三種 民國五年上海 鴻寶 齋書局石印本 遼寧 *東西アヘン(阿 片)の文化史。四枚の花弁に薄いピンク 色のくまのあるケン花の特徴を表したも ので、『本草綱目』(李時珍、1590年)にも 同内容の記述がある。
34	1	34	そくりよ う	測量集成 明治12年 に著名な三 冊の書物を 執筆してい る。それが「 明治 小学 塵劫記」「算 法玉手箱」「 近世名家算 題集」の三 書であった る。	6	福田理 軒 著 花井喜 十郎編 述	?	東都書肆 須原屋 茂兵衛他 (書肆: しよし :本屋)	江戸時代後期、和算家は幕府や諸藩の 勘定方のほか、天文方や水利工事の技 術者として活躍し、併せて子弟を持ち、学 問や技術を後世に伝えた者も多い。幕末 期の大阪に生まれた福田理軒(泉1815- 1889)と福田治軒(半 1849-1888?)親 子は、その和算家であった。そして、後 に江戸に出て、測量技術者を養成した教 育家として名を成した。父子のことを語 るため、理軒の兄福田金塘のことから話 を進めよう。大阪は「天下の台所」と呼 ばれ、商業・経済の中心地として栄えて いた。もちろん学問に対する理解もあり 、同時に井原西鶴や近松門左衛門・・・ 我が国最初の学会である「東京数学会 社」設立にも尽力し数学研究の最高機 関であった、この学会は明治10年9月 から明治17年6月まで続き、後に会名 を変更し「東京数学会」となり、現在 の「日本数学会」に繋がるものである。 *出版年:国書総目録には安政3年と ある。
35	1	35	たいこ うひ	太閤秀吉出 生記 完	1	南畝 誌 (太 田南 畝)	天明8年 (1788)	?	「太閤素生記」と呼ばれているテキスト はいくつかの写本が伝来していますが、 本来はタイトルのない文章です。国立公 文書館にあるこの写本は、「太閤秀吉出 生記」という表題がつけられています。塙 保己一の主宰していた和学講談所から 内閣文庫へと伝わっていた本です。大田 南畝(おおた なんぼ、寛延2年3月3日 (1749年4月19日) - 文政6年4月6日 (1823年5月16日))は、天明期を代表す る文人・狂歌師であり、御家人。勘定所 勤務として 支配勘定にまで上り詰めた 幕府官僚であった一方で、文筆方... *出 版年:国書総目録には安永6年とある。
36	1	36	たいせい	泰西勸善訓 前編: 蒙中	1	箕作麟 祥 訳 述	?	?	本書は、緒言によれば 1867年パリで刊 行されたボンヌの著述を翻訳したもので 、全3冊6編からなる。

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
37	1	37	だいにほ	大日本枝折 国盡下	1	西野古海	明治	東京書林山 中市兵衛他	大日本枝折改正国づくし(だいにっぽん しおりかいせいくづくし)123・
38	1	38	たろう はい	太郎は如何に して教育すべ きか	1	アドルフ・ マチアス著 大村仁 太郎訳	大正元年 (1912)	同文館	太郎は如何にして教育すべきか
39	1	39	ちゅう こう	(皇朝政要) 中興鑑言 完	1	三宅緝 明	出版年不 明	浪華書肆 寶富堂	潜鋒の『保建大記』が、なぜ朝廷が権力 を失ってこれが武家の手に移ったかの分 析ならば、観瀾の『中興鑑言』は、なぜ後 醍醐帝の建武中興が失敗し、「南朝」なる ものが滅亡したかの分析です。「正統は 義にあつて、器にあらず」とした観瀾は、「 神器」の授受によって南朝から北朝へと 皇統が続いたとは考えず、「義」なき南朝 は滅亡したのだと断定しました。*出版年 :国書総目録は天保7年。
40	1	40	ちよう せい	長生花林抄 (染井の植木 屋伊藤伊兵 衛親子によ る『錦繡枕』 (後『長生花 林抄』と改題)	1	伊藤 伊 兵衛(染 井翁)	?	松會 (しょう かい) 三四 郎	1692年(元禄5年)刊の『錦繡枕(きんしゅう まくら)』という図鑑がありました。300年 ぐらい前の書物ですが、花の形などを絵 入りで説明しています。著者は伊藤伊兵 衛。世襲制で最も活躍したのは三代目三之 蒸・五代目政武。*巻 末に、「陸奥八戸廿三日町、伊藤吉太郎」の 印有り。明治18年(1885)、八戸の二十三日 町に書籍や楽器、体育用品の店を創業した。 26年(1893)には八戸で初めての活版印刷部 を創設し、「商報」を配布したと言われている。 大正期に入ると県営の巡回文庫の活動がみ られるが、それに先駆けて明治43年(1910)、 2台の伊吉巡回文庫で三戸郡下、32ヵ町村を くまなく巡回している。*出版年:国書総目録 は享保18年
41	1	41	ていき んお	庭訓往来 絵入 (公開者 :国立国会 図書館)	1	榎本 直衛	嘉永5年 (1852)	東都書林 山城屋 佐兵 衛	庭訓往来(ていきんおうらい)とは、往来 物(往復の手紙)の形式をとる、寺子屋で 習字や読本として使用された初級の教科 書の一つである。南北朝時代末期から室 町時代前期の成立とされる。著者は南北 朝時代の僧玄恵とされるが、確証に乏し い。『絵入庭訓往来』(1688)の二月往状 (弾正忠三吉から大監物宛て)の部分で、 テーマは詩歌の会となっている。近世に なつてはじめて絵入りの『庭訓往来』が登 場したが、本書はその初期の例で、本文 中の用語を図解でわかりやすく説明して ある。なお原文は漢文であるが、書き下し 文にあらためた。 *出版年:国書総目録は天文5年。
42	1	42	てんこ うか	天工開物 二 ・三・四・五	4	宋 応 星	崇禎十 (1637)年	?	明(みん)代末の産業技術書。1637年に 宋応星(そうおうせい)が書いた。すでに 伝来していた西洋の科学技術について の記載は、火器を除いてきわめて少なく、 中国在来の産業技術が3巻18部門に分 けて記載…
43	1	43	でんし んろ	傳心録	1	?	天明3年(1783)	?	和本江戸天保版儒学書「伊洛三子伝心 録」?小倉百歌伝註 百人一首伝心録? *出版年:国書総目録は安永3年。

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
44	1	44	どうもう くん	(諺解) 童蒙訓	1	呂本中 (りよ- ほんちゆう) (東萊先 生)	1084?~ 1145 大正15 年	?	諺解書(ケンカイショ:書物などの、俗語や 口語を用いたわかりやすい解釈) * 呂 本中:中国、宋代の思想家。字(あざな)は 居仁。東萊先生と称された。程顥(ていこう) ・程頤(ていいい)の学問を学び、また、博 学で、詩文にも長じた。著「春秋解」「童 蒙訓」「師友淵源録」など。* 出版年:国 書総目録は明和4年。
45	1	45	なんし ゆう	南洲翁遺訓	1	土居十 郎 編	?	?	西郷隆盛の遺訓集である。遺訓は41条、 追加の2条、その他の問答と補遺から成る [1]。「西郷南洲翁遺訓」、「西郷南洲遺訓」 、「大西郷遺訓」などとも呼ばれる。* 南 洲翁遺訓 土居十郎編 広島 阪本武雄 明24年4月 他。* (進)の書き込み有
46	1	46	なんて いよ	南亭餘 堯~伍	5	上杉 治 憲	寛政5年 (1793)	?	(現物を精査)出版元, 井上俊人 [写]. 刊行年月, 弘化丁未 [1847]
47	1	47	にほん しゅ	日本首府沿 革論 (東 京地学教会 報告)	1	?	?	?	日本首府沿革論? (河井庫太郎と未完 の『大日本府県志』「明治二十三年十 月十一日印. 刷井出版」とある。このうち 卷之二「日本地名種類」. と卷之三「都府 沿革」は、それぞれ河井の「日本地名種 類論」(1886b)および「日本首府沿革論」 ...
48	1	48	ひやく しょう	百姓往来。 農民教訓状	1	千葉県 中央図 書館:龍 章堂閑 斎/書 で有 り	?	?	【作者】不明。【年代】江戸後期書。【分類】 産業科。【概要】異称『百姓往来』『農民 教訓書』。特大本一冊。農家の童子が守 るべき人倫や心掛けを記した往来。流布 本の『百姓往来』†(禿箒子作)とは全くの 異文。* 国書総目録は明和3年。
49	1	49	ひやく しょう	(新板)百姓 往来 全	1	浪華 禿 箒子 撰 ・再訂	嘉永3年 (1850) 再校	本細工所 葉月堂 蔵版	『新版絵抄 百姓往来全』浪華禿箒子撰・ 再訂、裳華房伊勢屋半右衛門(仙台)刊 、嘉永元(1848)年 百姓に関する往来物 。(B-41、71:百姓往来である)
50	1	50	ぶしど うか	武士道家訓 集	1	有馬祐 政 秋山 梧庵編	明治39 年 (1906)	博文館	[目次]. 標題紙; 目次; 貞永式目; 建武 式目; 建武追加; 早雲寺殿二十一箇条; 細川頼之訓戒; 今川壁書; 奉公覚悟之 事...。* 児玉陸軍大将題字あり
51	1	51	ふなか た	船方往来 全	1	?	万延2年(1861)	?	天神教訓状・諸職往来・船方往来(書 名別名:寺子教訓諸職往来、船方往来 出版元:吉文字屋市左衛門:勝尾屋六 兵衛) * 国書総目録は不明。
52	1	52	ほけん たい	保建大記 (上・下合 冊)	1	?	正徳4年 (1714)	水戸府下 澹伯齋 安積覚 跋	江戸時代前期に水戸藩の朱子学者、 栗山潜鋒が著した史書。尊王論の重要な 書。1123年から1192年までを記述し、皇 室が衰微し、武家が興隆したのは、皇室 の不徳の結果と、当時の上皇や天皇を激 しく非難した。尊王論なのに...
53	1	53	みんか ぶ	民家分量記 再板(1 ~5)	5	常盤潭 北(とき わたん ぼく)	安永6年 (1777) 再刻 (安永 再版)	京都書林 勝村文徳 堂	常盤潭北(ときわ たんぼく 1677(延宝 5)~1744(延享元))は那須郡烏山町(現在の那須烏山市)生まれ、農民教化に 尽くした享保期の俳人です。門弟である 上層農民、在郷商人に求められて行った 教訓的講話を著述、板行したものです。 享保11年(1726)原本 * 国書総目録は 享保6年。

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
54	1	54	もろこしき	唐土訓蒙圖彙 人物五・*器 木十一・器 用七	4	伊予吉 田藩 平住 専安	享保3年 (1718)	?	『唐土訓蒙圖彙』(もろこしきんもうずい)は、中国(唐土)の知識を数多く取り入れた江戸時代中期の絵入りの類書(百科事典)。本書は伊予吉田藩にて御殿医を勤めた平住専安(生年不詳 - 享保19年8月7日(1734年9月4日))が享保年間に著した書に、大坂生まれの有名な絵手本画家で浮世絵師である橘守国(延宝7年(1679年)-寛延元年10月(1748年))が挿絵を入れて、平易な百科辞典としての体裁をとっている。「訓蒙」とは啓蒙する事、「圖彙」とは絵入りであることを意味する。したがって学問の初心者、婦女子などに向けて広く学問を奨励しようと著された書である。実際、当時のベストセラーであったようで、何度も版を重ねている。
55	1	55	やせんか	夜船閑話	1	白隠慧 鶴 禪 師	宝暦7年 (1757)	京都寺町 小川 源兵衛	白隠の『夜船閑話』という本の名前についても、伊豆山格堂氏は次のように言っておられます。「書名は、夜船(よぶね)の乗り合い衆のむだ話という意味であるが、「夜船(やせん)は、或いは「白川夜船(しらかわよぶね)」の語に掛けたものかも知れない。 *国書総目録は宝暦7年。
56	1	56	やまと ほん	(宝永6年板) 大 和本草	8	貝原益 軒	宝永6年 (1709)	京烏丸 小野善助 蔵板	貝原益軒の著作としては「養生訓」がもっとも有名であるが、彼の主著は「大和本草」であろう。宝永6年(1709)に刊行された。80歳のときのことであった。彼は若いころ医学を学び、黒田藩には儒者として仕えたが、優れた本草学者でもあり、本格的な本草書を日本ではじめて書いている。これが「大和本草」である。 *国書総目録も安永6年で全く合致。
57	1	57	ゆうぞんろ	猶存録 全	1	?	?	小堀彦蔵 写し	内藤 知康, 善讓師の行信論(一) - 『行卷両一念猶存録』の検討(一) - 川添泰信, 法然門下及び真宗の出世本懐の問題, 普賢 保之, 親鸞における滅罪論の再検討。...大正十年月五日床中にて山中生 の書き込み有 *国書総目録は正徳5年。
58	1	58	ようがく こう	幼學綱要 (1~7)	7	元田永 孚 (も とだなが ざね)	明治16 年 (1883)	1887年に版權 が宮内省から 吉川弘文館に 移された。	明治天皇の勅令を受けた侍講元田永孚によって編纂され、1882年(明治15年)12月2日に宮内省より頒布された勅撰修身書。歴史学・教育学の分野においては、教育勅語の原点をここに求める説が通説とされている。
59	1	59	りくゆ えん	六論衍義大意	3	范 鉉(和訳: 室鳩巢)	康熙年間 (1662 年 - 1722) 弘化4年 1847	京都 新町通 商量軒 勝田蔵	六論衍義(りくゆえんざ)は、中国明の洪武帝、六論の解説書。范鉉著、康熙年間に成立。琉球人程順則が中国福州より琉球へ持ち帰り、薩摩藩より徳川吉宗に献上される。室鳩巢が幕府の命により『六論衍義大意』(和訳)を著している。後に寺子屋の教科書として普及した。 *国書総目録は享保7年。
60	1	60	りょうち しな	量地指南 前編	3	村井昌弘 編述	?	野田弥兵 衛	測量の仕方 *国書総目録は享保17年
61	1	61	りんり のも	(教育) 倫理の基	1	?	明治34年 (1901)	榊原 文盛堂	実物の内容確認

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
62	2	1	えんげ いこ	園芸考 全	1	横井時 冬	明22.12	大八洲学 会	第一編: 檀原朝以来奈良朝末に至るまでの作庭を叙す。第二編: 桓武帝平安定懸以来鎌倉幕府の...
63	2	2	かがく の	科学の農業 (三冊)	3	東京農大	明治	東京農大	東京農業大学学士会の機関誌
64	2	3	かだん こう	花壇綱目上 ・中・下	3	水野勝元	享保元年 (1716)	大阪心齋 橋筋順慶 町 柏原屋 与	日本最初の刊本になった園芸書。広範囲に渡った木草花の記載があり当時の園芸事情を知ることができる。花卉(かき)200余種についてその形状や栽培法を記述したもの * 出版年: 国書総目録には寛文年間とある
65	2	4	かふ	花譜: 上中 下	1	貝原篤 信 (貝原 益軒)	?	?	* 植物についての益軒の著述は寛文12年(1672)に「校正本草綱目」の翻刻がなされたときに、その5巻に「品目」「名物付録」を執筆したのに始まる。この頃から自宅で植物栽培を行ってきたと考えられる。元禄7年(1694)には「花譜」が、宝永元年(1704)には「菜譜」が発行された。「大和本草」の刊行はこれに続く宝永6年(1709)のことである。「花譜」と「菜譜」は「大和本草」とともに、300年前にどのような花が植えられ、どのような野菜が栽培されていたかを示す重要な文献である。* 出版年: 国書総目録には元禄7年とある
66	2	5	かんの うこ	勸農固本録 : 下 別名: 算法 入勸農固本 録: 下	1	万尾時 春	?	大阪書林 心齋橋筋 順慶町 柏 原屋清右 衛門版	書名別名: 算法入勸農固本録 下? その内容は一、郷村 諸事、二、土地位付併作物仕付之事 三、検見併取調付之事 四、年貢収納之事 五、検地仕様之事 六、地普譜之事 七、山林竹木仕立様之事 八、公事訴訟之事 九、役人 平日 ... 測量の方法 * 出版年: 国書総目録には享保10年とある
67	2	6	かんの うし	勸農捷経	1	?	?	?	実物の内容確認
68	2	7	かんの うび	勸農備要 田峻年中 行事 全	1	佐藤信 淵原著	明治10 年 (1877)	東京書林/ 有鄰堂	☆【明治期】『勸農・備要 田峻年中行事: 島村泰補註・内容不明(実物の内容確認)
69	2	8	こうえ きこ	廣益国産考 壹・三・五 ・七(表紙の 色: 青)	4	大蔵永 常(豊 後国日 田、現在 の大分 県日田 市生まれ)	安政6年 (1859)	京都: 越後 屋治兵衛 江戸: 山城 屋佐兵衛 大阪: 河内 屋和助	江戸時代の三大農学者の一人(宮崎安貞・佐藤信淵) 彼の生涯最後の集大成である。全8巻よりなり、1859年(安政6)に刊行された。一之巻では、国産(特産)奨励を述べた総論のあとに、紙、コウゾ(楮)をはじめ、30余りの特産の解説と、その加工についての記述が続く...。挿絵も美しく、宮崎安貞の『農業全書』とともに江戸時代二大農書といわれる。* 出版年: 国書総目録には天保15年とある
70	2	9	こうえ きこ	廣益国産考 壹・二・三・四 (表紙の色: 赤)	4	同上	同上	同上	同 上

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
71	2	10	こうさくに	耕作日記全	1	縣信緝 (1823-1897)	官許 明治8 年 1月(1875)	東京 須原屋 量平	縣信緝著 耕作日記? 内容不明(国立国会図書館) (菅文庫:耕作日記あり) *菅文庫は水戸の史学者菅政友の蒐集した蔵書の大部分を収め、漢籍が約500部、2000冊、国書が約3500部、8000冊、その他よりなっている。本文庫は本学(茨城大学)創立後の昭和26(1951)年、当時の大学設立期成会が菅家より購入し、本学に寄贈されたものである。
72	2	11	さいしん	最新園芸講座(非売品)	1	編輯者 石井勇 義	昭和4年 5月	実際 園芸社	実物の内容確認
73	2	12	さくていき	作庭記	1	橘俊綱	?	?	平安時代に書かれた日本最古の庭園書である。江戸時代中期までは「前栽秘抄」呼ばれた。この本は寝殿造の庭園に関することが書かれており、その内容は意匠と施工法であるが図は全く無く、すべて文章である。作者や編纂時期については諸説あるが、現在、橘俊綱であるとする説が定説となっており、所収されている岩波書店『日本思想大系』第23巻にも橘俊綱『作庭記』としている。*出版年:国書総目録には寛政7年とある
74	2	13	さくていし	作庭抄論	1	?	明治20年	?	作庭記抄論? いや ⇒ 作庭記?
75	2	14	さくぶんき	(農学校用)作文教科書巻三	1	青木存 義江幡 辰三郎 共編	大正5年 3月	東京株式 会社 興 文社	実物の内容確認
76	2	15	さんすい	(皇国最古園方書)山水並野形図 全	1	?	昭和3年 4月	発行所 山本浩 然館	山水並野形図』と『作庭記』を一冊にまとめた。平安朝末期から鎌倉時代の最古の庭園書、作庭記は問題の多い内容を蔵している。謎に満ちたこの二冊の造園書はほぼ同時代の公表であり、未だに研究に値するといえよう。二冊とも原本の所蔵は前田家という事実が驚いた。『山水並野形図』の記録に多くの園方書があると記され、同時代の多くの造園書があることが想像できる。
77	2	16	しこていよ	四庫提要農学輯存 上巻	1	江起鯤	中華民国 9年 (1921)	上海新学 会社蔵版	実物の内容確認
78	2	17	しゅぎくよ	種菊要法全	1	菊友館 著	嘉永元 年 (1848)	?	実物の内容確認 (写天保13年 馬角齋主人)
79	2	18	しゅじゅし	(新刻)種樹書 全 南方草木状 全:上 中下 参 巻	1	明:宗 本著 嵇含 (西晋の 植物学)	享保11 年 (1726)	寶文堂	園芸技術の研究—『種樹書』唐の郭澤駝 *書名、稻生若水遺稿(39-42) 田園経済. 書名ヨミ、イノウジャクスイコウ. 責任表示、稻生若水著. 備考、内容:新刻農桑輯要(7巻)、田家五行(2巻・附)、経歴最要、附東方朔探春歴記(銭唐沈来聘以珍訂)、新刻種樹書、農圃四書(4巻/銭塘鐘名臣鼎揚訂) ... 中国最古の植物誌『南方草木状』 **教由記の書き込みあり...
80	2	19	しゅじゅひ	種樹秘要 明治14年10 月18日版權免 許	1	佐藤信 淵	明治14年 10月 (1881)	寅賓楼蔵梓	実物の内容確認 *出版年:国書総目録には文化6年とある

一連 No.	分野		かな	書 名	冊 数	著・編 者	年 代	版 元	備 考 (注釈)
	No.	一連							
81	2	20	しゅじゅひ	種樹秘要	1	佐藤信淵	明治14年 10月 (1881)	織田完之	種樹秘要 / 佐藤信淵著；織田完之訂く シュジュヒョウ> 東京：織田完之, 1885.7 明治18年刊。所蔵図書館 3 *内容不明 (実物の内容確認)
82	2	21	しょうがくの	校刻小学農業書	1	静岡県 士族塚 原苔園	明治12 年 (1879) 明治14 年 (1881) 再版	博文堂 東京府平 民：原田庄 左エ門	茅野村 村田建治 の所有？、「農家の 小学子弟に、農業の大概を知らしめん為 に」編纂したもので、塚原が著述したもの を文部省編輯局の内田嘉一に依頼して「 小学教則綱領」に基づいて訂正し、旧幕 臣であった塚原と同様に御用絵師として 幕府に仕えていた狩野良信が挿絵を描 いています。
83	2	22	しよく がくけ	植学啓蒙	3	松本駒 次郎 抄訳	明治13年 (1880)	大阪：文栄 堂	実物の内容確認 *出版年：国書総目録 は不明
84	2	23	じょこう ろ	除蝗録 全	1	大蔵永 常	文政9年 (1826)	黄葉園 蔵	・稲作を中心とする主穀農業に関する著 書：老農茶話, 耕作便覧, 豊稼録, 再板 豊稼録, 農具便利論, 再種方, 除蝗録各 論, 農家肥培論, *別タイトル：農家調宝 記附録；除蝗録：鯨油による稲作害虫防 除法 *国書総目録には文政9年
85	2	24	しんみ んか	親民鑑月集	1	松浦宗 案？	？	？	清良記(親民鑑月集)土居水也武将土 居清良の一代記のうちの1巻である農書「 親民鑑月集」。田畑耕作の起源、農民の 心構え、品種と採種論、土と肥料、農業 経営の話などを、明快に親しみやすく説 く。*国書総目録には永禄7年
86	2	25	すいり しん	(図解)水理 真寶上	2	市川義 方	明治28 年 (1895)	博文館	[角]図解 *明治時代の土木技術者。 文政9年生まれ。慶応4年京都府の技師 となり、木津川改修工事や相楽郡の童仙 房(どうせんぼう)開墾などにたずさわる。 明治10年ごろから木津川水源の砂防工 事を担当し、積苗工などの新工法で成果 をあげた。通称は武兵衛、精記。著作に「 水理真宝」「砂防工演義」。
87	2	26	すぎな えあ	すぎ苗赤枯病 ノ駆除、予防 ニ関スル試験 ・すぎ苗赤枯 病ノ研究 (第2回報告)	1	山林技 師今枝 直規	？	？	赤枯病はスギ類の苗木によく発生する。 放置すると、木が生長してからも溝腐病 が発生してくる。木が枯死することは少な いが、木材としての価値は無くなってしま う。そのため、林業においては重大な病 害とされ、発病株は処分される。
88	2	27	せいこ ろく	製葛録(?)	1	大蔵永 常	弘化2年(1845)	越前屋三 右衛門・ 河内屋重 太郎	文政11年(1828)大蔵永常(1768~18 ?)によって書かれた農学書の一つであ る。貝原益軒の菜譜や大蔵永常の製葛 録に記されている通り*国書総目録には 文政11年
89	2	28	せいよ うの	西洋農家訓 上	1	パロー, ウーセ著; 神田豊訳	明治11 年 (1878)	静岡：大森 弘三郎	実物の内容確認

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
90	2	29	せいよ うそ	西洋蔬菜栽培法(非売品)	1	財団法人米澤図書館 開拓使?	大正3年 6月 明治6年 (1873)	佐藤 活版所 開拓使 蔵版	明治6年(1873)発兌(開拓使蔵版) ★キャベツのウンチク★1874年、内務省勸業寮がのちの三田育種場で欧米から取り寄せた種子で栽培試験を行ったのが、本格的な生産の始まりとされる。試験地は北海道に移され、北海道開拓使が発行した「西洋蔬菜栽培法」に、キャベジの名で記載された。大正時代に品種改良が進められ、寒冷地に適することから、栽培は北海道のほか、東北地方や長野で拡大したが、洋食需要が限られた戦前にはそれほど普及しなかった。
91	2	30	そうもく い	草木(午)手 入大器	1	?	?	?	実物の内容確認
92	2	31	そうもく そ	草木育種: 後編:上草 木育種:六	2	阿部喜 任	安政2年 (1855)	須原屋茂 兵衛(江戸)他	草木育種(後編下)/阿部喜任<ソモクソダテグサ/アベヨシトウ>.<刊本> 解説.江戸時代の植物学書として有名な『本草図譜』の著者、岩崎常正の著になる植物栽培の啓蒙書の続編で、弟子の阿部喜任による著作。*国書総目録は文化15年
93	2	32	そうもく ゆう	草木幽微経 全壹卷南 方草木状 上中下参 卷	1	?	?	?	風水文献所在目録:草木幽微経一卷. 格致叢書 *詩地理攷.巻第1-6/王 応麟[撰]シチリコウ(詩地理考校注 (中国語):王 応麟,張 保見,《詩地理考》 は《詩経》の地理問題に考述を加える最も早い専著)
94	2	33	そうもく ろく	草木六部耕 種法	19	佐藤信 淵	明治7年(1874)	名山閣・清 風閣梓	作物を根・茎・皮・葉・花・実の六部に分け、各々その需めるところに従って、その耕種の方法を論じており、信淵の著書で最も高く評価されている。*国書総目録は天保3年
95	2	34	そさい えん	蔬菜圖	1	?	?	?	実物の内容確認 : 蔬菜圖解説.河村九淵著.興農園,1899.2.・・・
96	2	35	そだて ぐ	育草 (育草上巻)	1	?	?	?	実物の内容確認
97	2	36	たいせい	泰西農學 初編:上	1	ゾーマ ス・フレ ツェル 緒方儀一 譯	明治3年 (1870)	須原屋 茂兵衛	(1871),泰西農学の導入と老農技術の展開・開拓使が七重開墾場を設立(現・亀田郡七飯町),北海道農業研究始まる。明治5... (1874),・内務省勸業寮内藤新宿出張所に農学掛を設置,農業技術行政はじまる。... 世界初のハイブリット実用品種)。
98	2	37	つきや まさ	築山山水作 法 全	1	?	?	?	享保28年(1735年)の『築山庭造伝』の元になったといわれる『築山山水伝』に「枯水形」の記述がある。*国書総目録は正徳4年
99	2	38	ていぼ うこ	堤防溝洫走 一〜四	4	佐藤信 有(佐藤 玄明 窩翁)	明治9年 (1876)	東京府平 民 牧野 吉兵衛	(隄⇒堤)防溝洫志「堤防溝洫志(ていぼうこうきょくし)」(治水方法編纂)には甲州川除術(かわよけじゅつ)として紹介し全国に奨励しました。竜王堤を信玄堤(しんげんづつみ)と呼ぶようになったのは江戸時代からです。
100	2	39	てきさ んし	適産調将来心 得 上・下巻 (第2冊)	2	石川 理紀之 助	明治34年 (1921)	東京 有隣堂	実物の内容確認

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
101	2	40	でんえんる	田園類説 完	1	小宮山 昌世谷 本教	?	?	[小宮山昌世著](1689-1774); 谷本教 [編](1689-1752)と田園類説/谷本教 (1689-1752)がある。江戸時代中期に成 立した地方書(じかたしよ)の一つ*国書 総目録は文化14年
102	2	41	とびい しに	(庭造草木) 飛石庭之図	1	茶道要編	?	?	実物の内容確認(寄贈者:井上誠一氏) 同姓同名?ゴルフコースの設計者
103	2	42	にわつ くり	庭作秘書	1	?	天正19年	?	庭作秘伝之書 実物の内容確認
104	2	43	のうか えき	農家益 前 篇	3	大蔵永常	享和2年 (1802)	皇京書林 河南四郎兵 衛他	実物の内容確認 *出版年:国書総目 録は享和2年
105	2	44	のうか かん	(繪入) 農家貫行 上	1	蓑 正高 (蓑 笠之助)	?	?	江戸中期の幕府代官。通称は庄次郎、笠 之助。松平光長の家臣小沢庄兵衛の長 男、江戸生まれ。享保1(1716)年猿楽師で 宝生座配下の蓑(巳野)兼正の養子となり、 同3年に家督を相続。農政、治水に通じ、 田中丘隅の娘を妻とする。同14年幕府に 召し出され、大岡忠相の支配下に入り、相 模国足柄上・下郡の内73カ村を支配、酒 匂川の普請なども行う。元文4(1739)年代 官となり扶持米160俵。支配地はのちさら に加増され、計7万石となった。延享 2(1745)年勘定奉行の支配下に移るが、寛 延2(1749)年手代の不正のため罷免され *国書総目録は元文元年
106	2	45	のうか ぎよ	農稼業叟 1・3・4・5	4	大蔵永 常	文政元年 (1818)	浪華 豊讃堂 蔵版	本書は稲と草綿の耕種法を詳しく述べ播 種耕耘から作物は雌種を撰ぶべきことが 図解で示し曝稲の法、駆虫の法等の経 験が述べてある。文政十二年に大蔵永常 がこの本の後篇ともいべきものを著述し た。この書は漆、綿、紅茶、油桐、玉蜀黍 の栽培、製造のことから水損地に再び稲 を栽培するの法、貯穀並土蔵足築の法、 開産の心得、治水の工案等各条に亘っ て図を挿入して説述したもので、附録共 で五冊からなっている。*国書総目録は寛 政5年
107	2	46	のうか ぎよ	農稼業事 後編:2・3	2	大蔵永 常編録	?	?	同 上 *国書総目録は文政13年
108	2	47	のうか ぎよ	農稼業事 後編:1・2・3・ 4・5	5	大蔵永 常	?	文栄堂	同 上 *国書総目録は文政13年
109	2	48	のうか くろ	(小学讀本) 農学路志留 遍全・初 編×2・読編 ×1	3	堤 正勝	明治11 年 (1878)	皆山閣堂 版	明治初年以降30年までの間に発行され た農業教科書並びに各学校において用 いられたと思われる農事関係参考書の一 つ。草の類(麻苧・藍・紅花等)・四木(茶 ・漆等)・野菜・果木・家畜について栽培 ・飼育方法などを説明している。明治13 年周南小学校創立当時四級生使用 農 学教育上調査すべき蔵書 大正2年 胤 次との墨書あり

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
110	2	49	のうか こ	農家心得種 全一冊	1	手塚敬 義	天保14 年	東都書林 文溪堂上 梓	農民生活の指導を目的とするもので、 物質と精神の両面に渡り、前者は消費の 合理化から、救荒対策に及び、後者はも っぱら処世教養に関するもので、経営上 の注意から当時のいわゆる童蒙訓の類 に及ぶ。 民家育草、文章早引、文章かなづかい、 田家茶話、日用助食竈(かまど)の賑ひ(全)、 徳用食鑑、農家心得草、植物能毒集、 山家薬方集、勸善夜話各論。救荒必 覧 以上は共に農家、農民の福利と生活 向上をはかり、同時に、国家的社会経済 の発展を促す目的であり、その理想とす る所は、生産の拡充と農家生活の向上充 実にあった。*国書総目録は天保14年
111	2	50	のうか だい	(御家)農家 大學全	1	玄水堂 先生	?	江戸須原 屋茂兵衛	別タイトル: 農家大學・著者標目: 玄水 堂・版元? 江戸須原屋茂兵衛、文政13 [1830] (74)も同じ (*農家大学 → 御家農家大學 全 / 玄水堂書? 東京 大学 経済学部 図書館所蔵のみ) ** 昭和10年6月 安房龍泉寺宿にて:山中 教由誌の書き込みあり... *国書総目録 は文政13年
112	2	51	のうぎ よう	農業横坐案 内 全	1	?	安永6年 (1777)	?	実物の内容確認 *国書総目録は安永6 年 *由教記す:学長横井博士邸に開き し際...大正5年2月の墨書あり
113	2	52	のうぎ よう	農業国語新 讀本 (第 五卷)	1	文学士 村上 辰午郎	明治41 年	東京 興文社	第五期国語読本は、大東亞鵬の最中 、出版。され一、二年生用の『コクゴ』と 三、四、五、六年生用の『初等...て いる』と第三期『公学校用国語読本(第 一種)』(下の表では、新読本と称して いる)十二巻の課数とページ数を、比較 した表をあげておく(一七)...
114	2	53	のうぎ よう	(再板)農業 全書 卷之 1・2・3・4・7	1	宮崎安 貞	天明再 版	京都の 書堂 柳枝軒	元禄10年刊行された農書。出版されたも のとしては日本最古の農書である。全11 巻あり、1巻から10巻は、元福岡藩士の宮 崎安貞著。11巻は貝原益軒の兄貝原樂 軒著。(中国の「農政全書」を参考) *国 書総目録は元禄10年
115	2	54	のうぎ よう	農業禁枝折	1	藤 将 信	?	?	実物の内容確認
116	2	55	のうぎ よう	農業萬作書	1	?	元文2年	?	実物の内容確認 (紀元2397年明和5年 豊後佐伯中野村 川崎光左衛門と...)
117	2	56	のうぎ よう	農業餘話 (上下二冊) *千葉県立中 央図書館:滝 本誠一/編 1929年が有 り	2	(摂州高 槻農民) 小西篤好 (藤右エ 門蔵版)	文政11 年 (1828)	?	著者小西の農業に関する実験談をまと めた板本二冊本で、上巻は専ら米のこ とを述べ、下巻は綿、麻、野菜等から 牛馬のことに至るまで述べ、最後は 菓材の部として専ら樹木のこ とを述べたものである。* 国書総目録は文化6年

一連No.	分野		かな	書名	冊数	著・編者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
118	2	57	のうせうし	農桑輯要 卷五(農桑輯要七卷全2冊)	1	繆啓愉 「ボク」のほかに「ビョウウ」「ビョウウ」の読みもある	元(1273) 清:光緒25年(1899:明治32年) 漸西村舎刊(大原漢籍文庫蔵)	農桑輯要7卷[3]; 著者:元司農司撰; 出版者:杭州府刊; 出版年月日:乾隆42; 出版年月日:1777年	農桑輯要(のうさんしゅうよう)は中国・元の繆啓愉が著した官撰の農書。成立は1273年であり、元が金を減ぼして南宋に対しても攻勢を強めている中で書かれた書であり、当時はその戦乱の影響で黄河流域の生産性が落ち込んでいたという時代背景の下、各地配布し農業指導に用いる為の官書であった。また、一般的に元王朝は「商業重視・農業軽視」の政策を取っていたと考えられているが、長い中国の歴代王朝でも官が主導して著された農書は史上初めてであり、この書の存在が元王朝の政策においても農業重視の姿勢が図られていた事を示している。
119	2	58	のうせい	農政教誡六箇条	1	佐藤信淵	明治15年6月(1883)	東京有隣堂穴山篤太郎	国会図書館近代デジタルライブラリー[21]は映像悪し・・・判読難し
120	2	59	のうせいざ	農政座右上	2	小宮山昌秀	?	東京東崖堂	実物の内容確認 * 出版年:国書総目録は文政12年
121	2	60	のうせいほ	農政本論 初編:中 後編:上・中・下	3	佐藤信淵	天保3年(1832)	刊行:1871年(明治4)	江戸時代後期に佐藤信淵によって書かれた農政・財政に関する提言。文政12年(1829年)から天保3年(1832年)にかけての時期に薩摩藩の重臣であった猪飼氏に対する意見として執筆された。初中後の全3編・各編上中下の全3巻の計9巻構成となっている。* 国書総目録は文政12年
122	2	61	のうせいほ	農政本論 初・中・後編:上・中・下	4	同上	同上	有隣堂穴山篤太郎	同上(写真No.73と・・・)
123	2	62	ばいようひ	(活版) 培養秘録 元・亨・貞・利	4	佐藤信淵	天保11年(1840年)	山口県聚珍堂	四巻補遺二巻の全四冊 無刊記、文化14(1818)年自序山口県聚珍堂版二号大活字版和装本縦22.7cm、横15.0cm *5巻、補遺2巻:明治6 織田氏蔵。大原農書文庫の農業基礎学613にあり。* 国書総目録は文化14年
124	2	63	はとむぎさ	薏苡栽培調理法 完	1	奈良専二(東京千鍾房蔵)	明治19年(1886)	北島茂兵衛	科名:イネ科/属名:ジユズダマ属和名:鳩麦/生薬名:薏苡仁 * 薏苡仁は『神農本草経』の上品に収載されている生薬で、その薬効は「筋急し、拘攣して屈伸ができないものや、久風湿痺を治し、気を下す。」と記されて ...
125	2	64	ぶこうさん	武江産物誌 (武江:武蔵国江戸の意)	1	岩崎常正	文政7年(1824)	?	江戸とその周辺の動植物誌。野菜并果・蕈(キノコ)・薬草・遊観(花の名所)・名木・虫・海魚・河魚・介・水鳥・山鳥・獣の各類に分け、それぞれの品に漢名を記し、和名を振仮名で付け、多くは主要産地を挙げる。合計で植物約520品、動物約230品。薬草類は採集地別で、道灌山(上野駅の北)の119品が群を抜いて多く、ついで堀之内・大箕谷(おおみや、現杉並区)と尾久(JR山手線田端駅の北)が各29品。鶴には本所・千住・品川、鶴(コウトリ)には葛西、紅鶴(トキ)には千住の地名がそれぞれ記されている。江戸とその周辺の動

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
126	2	65	ぶどう さい	葡萄栽培書 一	4	イ.エ.カリエール 大久保 学而 訳	明治12 年 (1879)	東京府下 穴山篤太 郎	岡山大学附属図書館 資源植物科学研究 所分館 大原農書文庫 *内容不明(現物を精査)
127	2	66	べいこ くほ	米穀豊達農 業傳全	1	徳島桑造	明治11 年	東京:北畠 茂兵衛	実物の内容確認
128	2	67	やさい はく	野菜摺録巻 :中・下	2	?	?	新学会社 蔵版	実物の内容確認
129	2	68	ようさ ん	養蚕得手	1	錦織俊 介	明治23 年5月	印刷人 宮 田六左衛 門	実物の内容確認
130	2	69	ようさ んい	養蚕輯要 全一冊 写本	1	玉井市 郎治述	?	不明	実地新験生糸製方指南: 養蚕輯要補後 編. Front Cover. 館三郎 ... Title, 実地 新験生糸 製方指南: 養蚕輯要補後編. Author, 館三郎. Publisher, 吉田屋清兵 衛, 1874. *国書総目録は文化10年
131	2	70	ようさ んひ	養蠶秘録 (中・下) (扶桑国 第一産)	2	(但馬 国養父 郡 藏 垣村) 上垣伊 兵衛守 国	享和3年 (1803)	江戸書林 須原屋 茂兵衛他	養蚕秘録. 上,中,下巻 / 上垣守国 作 ; 平安画工:法橋西村中和,速水春暁斎 画 宝、平安彫工:樋口源兵衛 *暦3 (1753)年に蔵垣(兵庫県養父郡大屋町) で生まれ(生家はこの建物の約500m東) ました。18歳の時に奥州(今の福島県) へ行き蚕種を購入し研究をはじめ、20歳 の時から養蚕を但馬、丹波、丹後地方に 広めました。その後、享和2(1802)年『養 蚕秘録』(上・中・下巻)を著しています。 『養蚕秘録』は、蚕の起源から種類、伝説、 飼育法等を絵入りで解説したもので、フ ランス、イタリア等で翻訳されている。 *国書総目録は享和3年
132	2	71	ようさ んひ	(扶桑国第一 産)養蠶秘録 上	1	上垣 守 国	享和3年 (1803)	有隣堂	写真No.85と同一 *国書総目録は享和3年
133	3	1	あさく さぶ	(第5)浅草 文庫古板書 目	1	(ネット では大槻 如電)	明治21 年 (1888)	著作兼出 版人:岡山 県士族 木 畑道夫	慶長より元禄まで 五百種 表紙に浅草文 庫の印有・・・*浅草文庫(あさくさぶんこ)とは、徳川幕府の学問所と将軍の紅葉 山文庫の書籍を蔵書とした、明治時代 初期に東京に開設された明治期の一種 の公立図書館。表紙に「岸田・君」の墨 書あり。実物の内容確認
134	3	2	あめり か	亞美理駕人 渡来日記並 献上物 寫	1	?	?	?	実物の内容確認
135	3	3	いせも のが	伊勢物語傍 注 上	1	賀茂季 鷹	?	[出版者不明],[出版地不 明]	*検索:注記すべき記述なし 実物の内 容確認 出版:国書総目録には安永5年(1776)
136	3	4	うきよ しん	有喜世新聞 (自第248号 ~第294号 明治11年11 月1日~12月28 日迄)	1	著者/ 作者 三 益社	明治14 年 (1881)	東京	有喜世新聞 (自第248号~第294号)(明治11年11月1日~12月28日迄) *岡 本綺堂 有喜世新聞の話明治十五年— —たしか五月ごろの事と記憶しているが、 その当時発行の有喜世新聞に こういう雑 報が掲載されていた。京橋築地の土佐 堀では 小鯰 (いな) が多く捕れるとい うので、ある大工が 夜網 (よあみ) に行 くと、すばらしい 大鯰 (おおぼら) が網 に ...

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
137	3	5	おんないま	(新刻 改正) 女今川初音 錦 (児女教 讀)	1	?	天保年 間	和泉屋 市兵衛	新刻改正女今川初音錦 [天保改正女今川操苑園] (おんないまがわはつねのにしき [おんないまがわみさおのはなぞの]) △天保年間(江戸・和泉屋市兵衛)※家政学院大・玉川大・学芸大・昭和女子大・筑波大・ノートルダム清心 女今川春の錦 (おんないまがわ…
138	3	6	こぶん しん	(増評) 古文眞寶讀 坤 ・乾	2	?	明治13 年 (1880)	松崎 求古堂	古文眞寶讀本: 増評. ... 書名ヨミ, コブ ンシンボウドクホン, 書名別名, 古文眞 寶讀本. 増評. 卷冊次, 後集, 出版元, 松 崎求古堂. 刊行年月, 明13.11, 版, -. 形 態, 2冊 *内容不明(実物の内容確認)
139	3	7	しんび ろく	心扉録	1	齋藤甲 花	明治38年 (1905)	左久良 書 房	実物の内容確認
140	3	8	すがわ らじ	絵本菅原実 記 全	1	秋雨仙 史 識	明治19年 (1886)	愛知県 平 民: 戸田為 次郎	実物の内容確認 **表紙に彌吉・京 (みやこ)の印あり…周南村尾車359番 山中所有の書き込みあり…*国書総目 録は文化7年
141	3	9	つれづ れく	(新訂) 徒 然草 讀 本・国文新 抄徒然草 全二冊	2	金子元 臣・山 内素行 ・吉川 秀雄	明治42 年 (1909) 大正6年 (1917)	明治書院 ・育英書 院	新訂 徒然草讀本: 金子元臣編 明治書院 菊 1 122P 和装 題箋欠、ウラ表紙 から数 ページ小痛み、状態並明42, 1575円. 中 学校国語科用用 ・国文新抄徒然草: 著 作者 山内素行・吉川秀雄
142	3	10	のうか ひつ	農家必備	1	小泉 氏計	安政6年(1859)	?	鷹山公の「かてもの」の抄…享保18年 ⇒元文4年 *国書総目録も安政6年とある
143	3	11	はいか いさ	増補改正 俳諧歳時 記 菜草 (山中彌吉・ 京、の名前 あり)	1	曲亭馬 琴 翁 編纂	明治18 年 (1885)	積善館	江戸時代の享和3年(1803)、曲亭(滝沢)馬琴が編纂した解説つき季寄、『俳諧歳時記』が刊行された。この48年後、幕末の嘉永4年(1851)には、藍亭 青藍がこれを大幅に増補改訂して、『俳諧季せいらん寄』増補 俳諧歳時記 菜しおり草』を刊行した。この『菜草』は、解説の充実と検索の簡便さ(いろは順)ぐさから江湖の支持を受け、明治・大正期、繰り返し活字版が刊行されている。
144	3	12	ぶんし ようき	文章軌範詳 説 初	2	細田謙 蔵	明治25年 (1892)	静観書院 編輯所	実物の内容確認
145	3	13	ぶんし ようき	文章軌範精 義 正編: 上	1	文学士 漢学科 専攻久 保天隋 (くぼてん ずい)	明治35 年 (1902)	博文館	久保天随の用語解説 - 1875-1934 明治-昭和 時代前期の漢文学者。明治8年7月23日生まれ。大正9年宮内省図書(ずしよ)編修官。「帝国文学」などに寄稿、漢籍の注釈, 評論, 随筆, 漢詩, 中国戯曲研究などで知られる。
146	3	14	ぶんば ん	文範	1	保科孝 一	明治38年 (1905)	学海指針 社	模範となるような文章。また、それを集めた書物?。 **教由の書き込み有
147	3	15	りんこく げ	林国月令	1	?	?	?	実物の内容確認 *国書総目録は天保2年
148	3	16	れつじ よ	列女倭歌集: 上・下	1	?	?	?	実物の内容確認 *贈呈: 山中進治学 士 大正8年8月10日 井上誠一の書き込 みあり…実物の内容確認

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
149	4	1	かくぶつに	格物入門 卷一水學 ...	5	良・本 山漸吉 訓点	明治2年 (1869)	雁金屋 清吉	格物入門. 第1-7巻 / 丁【イ】良 著 ; 本 山漸吉 訓点 このタイトルで早稲田大学 蔵書目録を検索●. 著者/ 作者 ... * 為 記念贈呈: 山中進治君 大正8年8月10 日 井上誠一の書き込みあり... 実物の 内容確認
150	4	2	きゅうりつ	究理通 卷之二	2	尾形 一 貫	明治5年 6月 (1872)	東京書鈴 木喜右衛 門	究理通(初篇2巻) 尾形一貫: 訳編 鈴 木喜右衛門: 刊 1872年に刊行された書 物では、まだ「究理」が用いられていた。 * 国書総目録は文化7年
151	4	3	じゅじ れき	(改正)授時 曆儀 元・亨・利・ 貞	4	渋川 春 海	寛文12 年(1672 年)	京都寺町 天王寺 屋市郎兵 衛	授時曆法は、元の郭守敬(かくしゅけい) (1231-1316)等によって1280年に完成 し、翌年から元朝で採用された。その後、 約40 0年間に渡って使われた。郭守敬は 器機に精通し、精密な観測をおこなうこと に貢献し、授時曆法の精度をあげた。1 回帰年の長さを365.2425日とした。貞享 曆法は渋川春海によって考案された初め ての日本の曆法であり、貞享2年(1685) から施行された。
152	4	4	しよがく	(理学入門) 植學啓原 全	1	宇田川 榕菴	?	菩薩楼蔵 版無刊記	* 価格: 126,000円 植物学の考え方を広める ために経文の形式を取った『菩多尼訶経 』(ぼたにかきょう)全1巻を書き、さらに本 格的な植物学書『理学入門植学啓原』(しよがくけいげん)全3編を書きました。こ れらが日本で初めての植物学の書物でし た。(山中進治: 大正6年2月 壱日購入) * 国書総目録は天保4年
153	4	5	しよぶつ	植物学 上・中・下	3	韋廉臣 輯訳 李 善蘭筆 述	慶応3年 川越 屋 松 次郎	?	岡山大学附属図書館 資源植物科学研 究所分館 大原農書文庫 自然科学400蔵 書? * 内容: 検索なし(現物を精査) *[角]翻刻 * 贈呈: 山中君 大正八年八 月十日 井上先生の墨書あり
154	4	6	しよぶつ	(帝国百科全 書第114編) 植物病理 学	1	大森順 造・山 田玄太 郎	大正3年 11月第 八版	東京博文 館蔵版	明治37年9月初版 気象の影響に基 づく病害... 第一章: 光、第二章: 温...
155	4	7	せい うこ	晴雨考 全	1	尾張医 学館門 人 吉 雄常三 ?	天保11 年 (1840)	?	**扉: 尾張医学館門人 吉雄常三 考 定とある... 幕末、あちらこちらで出版さ れた易と経験による気候書。1年間に渡る 天気予測が1冊にまとまっている。 便利だろう... 1年間の天候があらかじめ わかるのならば。天が人に影響を及ぼす 。仙台の場合は、嘉永年間から発行され ている。* 国書総目録は天保年間
156	4	8	はくぶ つし	博物新編譯 解 第二: 上・下	1	合 信著 大森 秀三譯	?	雁金屋 清吉他	博物新編譯解(ハクブツシンペンヤクカイ) * 国書総目録も不明
157	4	9	はくぶ つし	博物新編演 義	2	英国: 合信著 堀野良 平 訳撰 者: 陳修 堂	明治8官 許 (1875)	尾張 慶雲堂	提供元データベース, 近代デジタルライ ブラリー. タイトル, 博物新編演義 卷1, 2 [第2冊] 2. タイトルの読み, ハクブツシ ンペン エンギ. 作成者(著者), 合信著. 作成者(著者), 堀野良平訳. 陳修堂 撰

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
158	4	10	はくぶ つし	(プリニウスの) 博物誌 読編 上・ 下	2	プリニウ ス	?	?	1世紀ローマの博物学者、政治家プリニウス(22 / 23 - 79)が著した書。全37巻。地理学、天文学、動植物や鉱物などあらゆる知識に関して記述している。数多くの先行書を参照しており、必ずしも本人が見聞、検証した事柄だけではない。怪獣、巨人、狼人間など今日から見れば荒唐無稽な内容も含まれるし、学問的に体系的な書とは言い難い。古くから知られていたが、特にルネサンス期の15世紀に活版印刷で刊行されて以来、ヨーロッパの知識人たちに愛読され、引用されてきた。科学史・技術史上の貴重な記述を含むほか、芸術作品について
159	4	11	ひでん かき	秘伝花鏡	1	子訂輯 ;平賀 先生校 正	?	共同刊行: 五車楼(京 都)ほか	中国清代の草木・鳥・虫に関する書 (理学・自然科学-植物学) *国書総目録も不明
160	4	12	りがく てい	理学提要	1	広瀬元 恭訳	安政三 年 (1856) 丙辰初 夏 官許	平安 時習堂 蔵版	本書は安政三年に平安(京都)時習堂の出版で広瀬が「イスホルディング」の医科用物理学書を翻訳したものである。これらの物理書は江戸時代末期における教科書として学習する者を益することが多かった。内容は首巻、題言、度量考、総論、初編-一卷大気、二巻水、三巻土、後編、温素、火素、越列幾の里失帝夕、瓦児波尼私繆斯、磁石力、天体を漢文体で説述してある。京大・東京農大他。 *国書総目録は嘉永7年
161	5	1	きんこ しだ	近古史談 卷之四	1	大槻清 崇	明40年9 月10日第 38版	大阪: 鈴木常 松	実物の内容確認 *国書総目録は安政元年
162	5	2	きんこ しだ	近古史談 後編完	1	大槻清 崇	大正4年4 月15日53 版	積善館 本店	実物の内容確認 *国書総目録は安政元年
163	5	3	こくげ い	(補三) 国芸文志 卷一	1	?	?	?	曹操、諸葛亮を除く兵法書の著者は、侯康『補三国芸文志』から以下の人物が確認できます。曹丕『兵書要略』10巻賈ク『鈔孫子兵法』1巻王昶『兵書』沈友『孫子兵法注』2巻 ※沈友、字は子正。呉郡人。呉の處士。(劉表死去の前後の)蔡提督 ...
164	5	4	ごごし ゆう	新刻古語拾 遺 全 (古語拾 遺)	1	齋部廣 成・渡 辺重石 丸訓点 撰	大同3年 (808) 2月13 日	出版者 不明	明治3年3月、京都大学教官渡辺重石丸(刻印「国前直」「重石麻呂」)序。明治3年3月、重石丸附言(凡例)。奥書「大同三年十三日」。本文最終丁裏に刻印「気吹舎蔵版印」(左下に「生伊勢神都大西小太郎刻」)。巻末に「伊吹酒屋先生及門人著述刻成之書目 塾蔵版」1丁あり。平田先生の命により重石丸が訓点を施した読本。古語拾遺の別名: 新刻古語拾遺全 *大同:日本の元号の一つ。延暦の後、弘仁の前。806年から810年までの 期間を指す。この時代の天皇は平城天皇、嵯峨天皇。 *国書総目録は大同2年
165	5	5	こだい せい	(國學小叢 書)古代政 治思想研究	1	謝无量	中華民 国13年9 月再版	? 商務印 書館	国学小叢書(60種)同時代の学者の中国学研究の著作を主とする。《古代政治思想研究》は1923年初版。謝无量文集(8)-実用文章義法 中国古田制考 古代政治思想研究 [謝无量 著]

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
166	5	6	つうかん	通鑑 第一 (二冊あり?)	1	?	?	?	写真No.113にも一冊あり
167	5	7	つうかんだ	通鑑 第一	1	?	?	?	資治通鑑(しじつがん). 司馬光が編んだ中国の歴史書? 本朝 通鑑(ほんちようつうがん)は、江戸幕府により編集された漢文編年体の歴史書?
168	5	8	でんけごぎ	(新刻)田家五行全(上・下)	1	大正6年1月29日東京... 教由記すとあり	?	?	1部の農業気象と占めた待つことの方面の著作です。作者元朝の婁元礼。北京図書館チベットはこの本の明が大本を刻んで、題“田舎屋の子の婁元礼の鶴の空は述べます”;《古今の書籍集積:理学は集成します 籍の典を経験する(468)・諸子部・5の専門家類》載明陳氏《図書目録を継ぎ足す》はまた陸の泳ぎ《田家の5行》が巻くことを記録します;注釈は話す:“明の陸の泳ぎの撰。
169	5	9	とうようれき	(中學教程)東洋歴史附く図全	1	中等学科教授法研究会	明治31年(1898)	水野書店 杉山書店	原本の出版地:東京出版者:水野書店,杉山書店 出版年(西暦):1898 出版年(和暦):明治31
170	5	10	にほんがい	(増補)日本外史一〜六	6	頼氏蔵版	明治44年(1911)	東京市京橋育英舎	*内容不明(現物を精査)校刻日本外史,頼襄子成*国書総目録は文政10年
171	5	11	にほんせい	日本制度通二	2	萩野由之・小中村義象	明治23年3月出版	京橋区南伝馬町吉川半七	日本における歴史書であり、中国の制度の沿革および、対応した日本の制度の関係を各項目別に記述した書物である。撰者は伊藤東涯(1670年 - 1736年) ... 成立は享保9年(1724年)であるが、子の伊藤善韶(東所)校訂本として、寛政9年(1797年)に公刊された。
172	6	1	あずまのみ	吾孀路記	1	貝原益軒・谷重遠 茨木柳枝軒[編]	?	平安城書林 正宝堂 蔵	貝原 益軒(1630-1714) 谷重遠(1663-1718) タニ、シゲトオ共著 *道は親不知子不知として 海道の岩間を通る難所なり。今も潮干たる時は ... この中道は前述の吾孀路記によると、「明暦元年(1655年)朝鮮の信使来りし時始めて開く」とある。 * 出版書写、国書総目録:享保6年(1721) 現物は不明
173	6	2	よこはまち	横濱地名方角全	1	神奈川県平民尾崎富五郎編輯	明治11年9月(1879)	尾崎富五郎	横浜案内?
174	7	1	かいこくへ	海国兵談(政論書:全16巻)	1	林子平	明治6年10月再刻(1873)	東京小石川大門町書林 青山清吉発行	林子平がロシア勢力南下の情勢を踏まえて、対外的防備策を論じた兵書。全16巻。1787年(天明7)に第1巻を自力で板刻・出版し、91年(寛政3)に全巻の出版を終えた。表題の《海国》とは、子平が国防的観点からとらえた、日本の地理的特質にはほかならない。子平は本書の中で、海国にはそれにふさわしい軍備を要するとして、海軍を設立し、全国の海岸に砲台を設置することを緊急課題にあげる。なかでも彼が重視したのは日本の中枢部というべき江戸沿海の防備で、江戸湾頭に有力諸侯の配置を提案するが、江戸湾防備の緊急性を説いたのは、彼が最初である。*国書総目録は天明6年(1786)

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
175	7	2	かない よう	家内用心集 巻中(サブ タイトル: 民家要術)	1	頓宮 咲 月 宮 負 定雄	享保15 年 (1730)	[京都] 京師書林	夫婦のあり方、お金の使い方、子供の教育、火事の時の注意など江戸時代における庶民の日常生活の倫理、心得を具体的に説いた生活指導書。「民家要術」を同時収録。[尾形利雄解説、平野満校訂] *国書総目録も享保15年
176	7	3	かない よう	家内用心集 六	1	頓宮 咲 月 宮 負 定雄	享保15 年 (1730)	[京都] 京師書林	No.146と同じ ⇒サブタイトル, (付・民家要術)
177	7	4	ぎよそ んけ	漁村経営論	1	八田知英 (富津尋 常高等小 学校訓導)	大正13 年 5月	手書き 教本	富津町漁村教育資料
178	7	5	こうせ いし	荒政輯要 上・下	2	王志伊 撰	嘉慶10 年 (1806)	唐本・木版	飢饉の対策書。人主・役人の心得、救済・善後策など。田原藩士渡辺登 蔵書記載あり。(蘇藩署蔵版:)
179	7	6	ごゆい じよ	御遺状百箇 条	1	村野藤 三郎 (写)	?	?	*内容不明(現物を精査) *国書総目録は安政3年
180	7	7	こんど うひ	混同秘策 前・後	2	佐藤信 淵	明治21 年 3月 (1888)	東京京橋 区南伝馬 町 穴山 篤太郎	国学思想の影響を受け、日本が「世界を混同し万国を統一する」ための必要な政治改革法を述べている。この中で、政治機構を3台6府14省(省は地方の「国」をまとめた行政組織)とし、より確固たる中央集権制度を示している。*国書総目録は文政6年
181	7	8	しんさ くしょ	新策正本 (6巻)上	3	頼山陽 先生 (杉本貞 健)	安政2年 (1855)	京師 五書房 合梓	山陽の没後、杉本貞健がこれを惜しみ、山陽の遺児である支峰・三樹の兩人に請うて、安政二年(1855年)に「新策正本」として刊行している。*国書総目録は安政2年
182	7	9	だいが く	大学或問	2	了介 熊澤 先 生	天明8年 (1788)	凌霄閣 蔵版	発行書肆:江戸本石町 山崎金兵衛他...
183	7	10	とうしよ うぐ	東照宮 御遺状百箇 条 (久野山御 神庫)	1	?	弘化三 年 二月 (1846) 中旬謹 寫之	?	徳川家康の作とされる「御遺状御宝蔵入百箇条」(注釈付き)の謂れに、徳川斉昭が序文の形で疑問を付したものの。冒頭に、斉昭謹案ニ、右様天下の... 東照宮(徳川家康)から文昭院(家宣)までの間の主要法令を集めたもの。
184	7	11	ないよ うけ	内洋経緯記	1	佐藤 信淵	明治13 年 9月	東京 有隣堂	責任表示:佐藤信淵述 責任表示:佐藤信昭 記 責任表示:織田完之校 出版地:東京 出版者:
185	7	12	ぶっか よろ	物価餘論 上・中・下	3	佐藤 信 淵	明治9年 (1876年)	東京京橋区 南伝馬町 穴山篤太郎	天保11年(1840年)丹波 綾部侯の諮問に応じて「物価余論」を献じ、同年領内を遣. 視して「遊歴記事」を著わし、... *国書総目録は天保9年
186	7	13	ぶつる い	(東坂)物類 相感志	1	宋 蘇 軾	元禄3年 (1690)	京東洞院 林九兵衛	『物類相感志』は蘇軾が郷野市井で流传する生活の知恵を整理した作品。本書は漫画で『物類相感志』を解説。身体・衣服・飲食・疾病・薬品・文房・花竹・禽魚など12項目で構成。
187	7	14	ほうき ん	法禁 中之 巻	1	御目付 中 下 野主水 ?	明和元 年11月 (1764)	?	実物の内容確認 法令や禁止令。また、法で禁ずること。*本朝文粹[1060頃]二・陸奥勅符「加之蛮貊之情、非法禁之所用」*吾妻鏡-文治四年[1188]八月三〇日「随又去年十二月、殊被下絲綸畢、而荒樂之輩...弘化3年の墨書あり

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
188	7	15	ほうとく が	報徳外記 卷之上・ 下	2	斎藤高 行 撰 述	明治18 年 (1885)	静岡県土 族中上喜 三郎	諸藩の危機を救い、立ち直らせた実績は多くの人々に語り継がれている。その二宮門下の逸材であり、二宮尊徳の片腕・斎藤高行の『報徳外記』*国書総目録は安政元年
189	7	16	みんか しよ	民家生要記	3	源 卯	寛延4年 (1751)	西村 市 郎右衛門	内容:検索不可 検索なし(現物を精査) (成田山仏教図書館蔵書)*国書総目録も寛延4年
190	7	17	ろくむ さい	六無齋遺筆	1	編輯者 伊勢齋 助	明治38年 (1905)	仙臺 印刷所	実物の内容確認
191	8	1	かてもの	かてもの (糶物) (非売品:山中進治が東北探訪旅行で米澤に立ち寄り求めた)	1	上杉治 憲 (鷹山)	原本: 享和2年(1802) 蔵書:大正3年版	財団法人 米澤図書 館 佐藤活 版所	かてもの(「かて物」とも)は、寛政12年(1800年)に当時の米沢藩重臣荻戸善政(のぞきよしまさ、大華)が、執筆した飢饉救済の手引書。2年後に前藩主上杉治憲(鷹山)の命によって刊行された。*糶物:主食である穀物とともに炊き合わせを行う食物。転じて、飢饉などで食糧不足に陥った際に主食を節約するための代用食となる食物(救荒作物)のこと。「糧物」とも。
192	8	2	こうし ゆう	庚子遊草	1	?	嘉永甲寅 8月	?	嘉永甲寅(嘉永7年:1854)・庚子遊草序:天保庚子之春從駕於江戸...
193	8	3	しゅふ そさ	酒譜 疏食 譜	1	?	?	?	実物の内容確認
194	8	4	ずいえ んし	(校正)隋園食譜(清朝中国の詩人・散文作家。食通としても知られ、「随園食単」は有名。)	1	袁 枚 (えんばい) (1716-1798)	民國11 年 (1922)	掃業山房 発行	*随園食単 *丸谷才一の「食通知つたかぶりの、石川淳による序の劈頭の「隋園食譜」とは、岩波文庫に収録されている袁枚の「随園食単」のことだろうか。当然読んだ事は無い。王書璋という人の「芥川所蔵の近代中国書から何がわかるか」という論文によると、「隋園食譜」は芥川龍之介の蔵書にも含まれていたとのこと。*袁枚が集めた料理の作り方などが書かれている本である。
195	8	5	つけもの は	四季漬物塩 嘉言(しきつけものしおかげん)別名:漬物早指南	1	小田原 屋 主 人	天保7年 (1836)	東京和泉 屋市兵衛 他	(???指南 全)⇒漬物早指南? 小田原屋は江戸の漬物屋。その主人による漬物指南の書。たくあん漬けや白瓜漬けなど64種類の秘伝が書かれている。**扉:書籍の題名・著者名などが記してあるページ。*国書総目録は天保7年
196	8	6	てんし よく	甜食品 完	1	明(高)	?	?	甜食品の日本語訳:甘煮[アマニ]・甘く煮た食べ物
197	8	7	とくよう しよ	徳用食鏡全	1	大蔵永 常	?	江都書林 衆星閣他 鶴屋喜右 衛門	「徳用食鏡」は見返し、序による出版年は「国書総目録」(岩波書店)による。和装 *国書総目録は天保4年
198	8	8	りょうり つ	(江戸流行)料理通初編・二編・三編	3	栗山善 四郎 (八百善 主人)	文政8年 (1825)	永楽屋東 四郎他	「江戸流行料理通大全」八百善主人=「江戸流行料理通」四代目主人栗山善四郎 *国書総目録は文政5年
199	9	1	あわの すな	安房砂語 全	1	馬毛山 人	文化9年 (1812)	?	馬毛山人とは天保年間に寺子屋を開いた人物(安房郡富山町の犬懸山大雲寺の住職:安房国名所旧跡雑記は習字の手本)・展覧会に出品:出品票に出品者、平群農業補修学校教諭 山中進治とある。

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
200	9	2	いちは らぐ	市原郡賀茂村 ? 油下調帳	1	確認要	?	?	実物の内容確認
201	9	3	いぬか けが	犬掛合戦 全	1	元百人 衆の山 田遠江 介?	寛永8年 (1631) ?	?	(『房総里見軍記』『里見九代記』)。里見家第5代の義豊と従兄弟の義堯との血族同士の争いでした。義豊は8歳の時、父・義通を喪いましたので、叔父の実堯(義堯の父)が後見役となりとなりました。しかし、義豊が成長し、時節が到来しても実堯は国を譲らず、それを義豊が恨みに思い、天文2年(1533年)に実堯を稲村城に急襲し、実堯はこれを防ぎきれず、自害して果てました。翌天文3年(1534年)4月6日、実堯の子・義堯は、父の仇である義豊を犬掛に攻め、義豊は稲村城へと逃走。実堯と同じく、自害して果てました。
202	9	4	えどす なご	(再校) 江戸砂子	4	菊岡沾 涼	明和9年 (1772)	須原屋 伊八	江戸地誌。別名《江戸砂子温故名跡誌》。菊岡沾涼(せんりょう)著。1732年(享保17)万屋清兵衛刊。6巻。府内の地名、寺社、名所などを掲げて解説し、約20の略図を付す。この出版は成功し、同著者で《続江戸砂子》5巻が35年に上梓された。 *国書総目録は享保17年
203	9	5	かずさ まち	上総町郵誌 全七巻	2	小澤治 郎 左 衛門	明治22 年 7月(1889)	?	第一巻:市原二冊・第二巻:望陀二冊・第三巻:周淮・天羽二冊・第四巻 夷隅・第五巻:上埴生・長柄
204	9	6	かめや まご	亀山郷志料 第一輯 (非 売品)	3	田村 實	昭和3年9 月20日印 刷	?	千葉県君津郡亀山尋常小学校内 調査 発表者 田村實 図書:千葉大・東大有り cinii
205	9	7	きみつ ぐん	千葉県君津 郡郡誌 上巻	1	千葉県君 津郡教育 會代表長 谷川良次	昭和2年 10月25日 印刷 30 日発行	千葉 活版所	君津郡誌
206	9	8	きみつ ぐん	千葉県君津 郡郡誌 下 巻	1	同上	同上	同上	君津郡誌
207	9	9	ぐんち ゆう	郡中制法	1	編輯兼発 行者大槻 如電	明38年3 月25日印 刷	東京活版 株式会社	明38年3月25日印刷 明38年3月30日発行 (非売品)
208	9	10	こうこし ゆ	考古拾葉	1	山中進 治?	?	?	千葉県君津郡大貫村内元千種新田開墾の沿革・・・千葉県君津郡吉野村 小熊吉蔵から、東京府下荏原郡世田ヶ谷村 三宿五六 山中進治様 宛の「はがき」が存在する
209	9	11	さぬき じよ	(郷土讀本第 一輯) 佐 貫城戦記	1	?	?	?	寄贈:昭和7年1月30日高木卯之助殿

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
210	9	12	じかた おち	地方落穂集 天・従1～ 5、地:従6 ～9、人:従 10～14	1	・地方 落穂集 十三 巻 作 者不詳	?	?	江戸時代の地方書の一つ。全14巻。従来、明治初年の刊本により1763年(宝暦13)に武陽の隠士、泰路が編したとされていたが、編者は変わらないとしても本書の体裁がととのえられたのは78年(安永7)ころ春木魯石によってであるという説もある。本書は、江戸時代の地方書の第一といわれる《地方凡例録》執筆時の重要な参考書の一つとされたことから明らかなように、地方の万般にわたって記述しており、さらには諸法令なども収録している。・落穂集粗拾録 一卷 安永7年 青木魯石著 *国書総目録は宝暦13年
211	9	13	せんだい	自命 仙台 藩郡部御法 度書	1	?	?	?	郡部御法度書:天保4年10月 吉辰写之 小埜村 佐五郎とある
212	9	14	ちぐさ しん	千草新田草 創次第	1	?	?	?	千草新田草創次第 予科1年山中進治の書き込みあり:新田開墾の沿革
213	9	15	ちよう せん	朝鮮物語 (木村理 右衛門の5 冊の『朝鮮 物語』とは 内容が異な るよう・・・)	1	?	?	?	慶長七年宗対馬守義智江戸に・・・ 木村理右衛門が5冊の『朝鮮物語』を出版したのは寛延3年(1750年)のことです。現存する『朝鮮物語』の刊本は稀であり、刊行後に没収・焼却されたためではないかといわれている。 本書の内容は、1巻と2巻に朝鮮の由来と日本との交渉を略述し、壬辰の倭乱について述べている。3巻と4巻は、1644年(寛永21年)に越前三国の船頭竹内藤右衛門が蝦夷松前に向かう途中、台風に逢い、韃靼国に漂着し、奉天・北京などを回り、朝鮮を経て帰国するまでの出来事を記述し、5巻には朝鮮の地理・官職・言語などを記している。ここに掲載しているのは、シーボルトが持ち帰ったもので、ライデン大学の許可を得て公開しています。
214	9	16	なんそ うの	南総俚俗 完	1	内田邦 彦 稿	大正5年 5月	東京市 伊藤 活版・石 版印刷所	内田邦彦氏の『南総俚俗』一一〇頁に「ある時、蝮病でシの根(茅(かや)の根の事なれどここはその鋭き幼芽の事)の上に倒れ伏したれど、疲弊せるため動く能わざりしを、地中の蕨が隣れに思い、柔らかな手もて蛇の体を押し上げて、シの根の苦痛より免かれしめたり、爾後山に入る者は、奥山の姫まむし、蕨の御恩を忘れたかと唱うればその害を免かる」と載せたるを見て、始めて筋道が分った・・・
215	9	17	ぼうそ うぶん か	房総文庫 1	1	房総文 庫 刊行 會	文化9年 (1812)	房総文庫	房総文庫:1～4
216	9	18	みんか きよ	民家教訓袋	1	徳 雨	明和8年 (1771)	書輯	(氏)民家教訓?(袋)「民家教訓袋」玉川大学図書館蔵(祇徳序・画、明和8年(1771)1月 作・刊 江戸 川村屋源左衛門板2巻2冊),「民間さとし草」東京都立中央図書館(特別文庫室)蔵(寛政12年(1800)秋序・刊1冊) **山中文庫拾周年記念絵葉書・・・書き込み有 *国書総目録は明和8年
217	9	19	ようろう が	(上總國)養 老川下組船 組帳	1	?	?	?	実物の内容確認

一連 No.	分野		かな	書名	冊数	著・編 者	年代	版元	備考(注釈)
	No.	一連							
218	9	20	ようろう が	養老川通船 御取極	1	?	?	?	実物の内容確認
219	9	21	よねざ わの	米沢農家 立教 全	1	竹俣 当綱	天保10 年 (1839)	?	竹俣 当綱:藩政の刷新を目指し、専横著しかった8代藩主・上杉重定の寵臣・森平右衛門を誅殺した。上杉鷹山の安永・明和の改革において、奉行(家老)筆頭として改革政治をリードする。漆・桑・楮の百万本植立や、成島焼、縮織を始めるなど積極的な産業の開発を行う。しかし、天明2年(1782年)、上杉謙信の命日に禁じられた酒宴を行い、その他不行跡を突きつけられて隠居させられる。失脚後も「国政談」「農家立教」など数々の建言書を書いた。*国書総目録は天保15年
220	10	1	ぐんし よい	群書一覽 二・三・四 ・五	1	尾崎雅 嘉(まさ よし)	?	?	【群書一覽】の意味は?国語辞書。江戸後期の解題書(大正15年5月 北条時敬氏寄贈図書 日本青年館図書館とある) *国書総目録は享和元年
221	10	2	ぐんし よい	群書一覽 三	1	尾崎雅 嘉(まさ よし)	?	?	(北条時敬氏寄贈図書?) 北条時敬氏:父は金沢藩士。明治18年(1885)東京大学理学部数学科を卒業し、同年石川県専門学校教諭となる。21年第四高等中学校教諭。このときの教え子に西田幾多郎、鈴木大拙らがいる。第一高等中学校教諭、山口高等中学校教授を経て、29年山口高等学校長。31年第四高等学校長、35年広島高等師範学校長となる。大正2年(1913)東北帝国大学総長に就任。6年学習院長。9年辞職し、同年宮中顧問官、貴族院議員となる。
222	10	3	ぐんし よる	群書類従 卷第四百 九十三 雑部四十 八	1	(検校) 塙 保己 一	?	?	塙保己一が編纂した江戸時代の1819年(文政2年)完成、正編1270種530巻666冊からなる日本最大の国書の叢書。盲目の国学者・塙保己一が古書の散逸を危惧し、41年の年月を掛けて集輯・編纂。幕府や諸大名、寺社など多くの機関や人々が協力して、江戸初期までに刊行された史書や文学作品を所収。その後の歴史学、国文学等に多大な影響を与え、学術研究に貢献している、今なお非常に貴重な叢書である。国文学・国史を主とする一大叢書である。*国書総目録は文政3年
223	10	4	ここん ぎし	古今偽書考	1	清・姚 際恆	文政5年 (1822)	?	民国間蘇州文学山房木活字印本 姚際恆(1647年-約1715年)字立方、一字首源
224	10	5	にほん し	日本書籍考 (に ほんしよじゃく こう)	1	林鷲峰 (向陽 林子)	文化13 年 (1816)	摂陽書林 多田 勘兵衛	推古天皇時聖徳太子...蘇我馬子...十巻あり...『先代旧事本紀』から『太閤記』まで、古今の書物の解説がされています。著者は林鷲峰(向陽林子)。羅山の三男です。その羅山は巻末に「経典題説」を寄せています。それぞれの解説が短いため、内容的に目新しい部分は少ないですが、当時、それぞれの書物がどう受け止められていたか、微妙なニュアンスが伝わってきます。『日本書紀』や『明月記』『今昔物語』『平家物語』など有名な書物が次々と登場し、親しみやすい1冊でもあります。*国書総目録は元禄8年

(2) 国書総目録との照合

*照合結果

山中文庫蔵書224部（書籍名）の内、国書総目録に採録の書籍名は101部で、又、所蔵先が「山中（山中文庫）」とあるものが29部あった。更に、残り72部を入念に確認すると、採録されて当然と思える書籍名が22部あった。

この22部については、次表（国書総目録との照合）の採録が当然欄に **特** を付した。

国書総目録との照合結果を「P44～48」に紹介する。

国書総目録

（君津市立中央図書館 所蔵）



（国書総目録補訂版：岩波書店発行）

(3) 国書総目録に採録の山中文庫蔵書29部の目次と

ダイジェスト版

『国書総目録』に「山中（山中文庫蔵書）」と明記された29部を、特別閲覧でしか目にすることができないので、ダイジェスト版として紹介することにした。その中には、山中文庫のみと表記された蔵書が5冊ある。現在、日本の図書館で所蔵しているのは君津市立中央図書館だけという貴重本である。

* 国書総目録との照合 *

番号	写真 NO	分野 NO	かな	書名	著者	出版年		国書総目録(巻・P) 特 :採録が当然	備考
						山中文庫蔵書	国書総目録		
1	173	1	おがさわら	小笠原諸礼調法記(童子専用増補繪入)	速水春暁	天保9年(1838)	享和3年(1802)	第1巻:P614 山中	天保9年版に山中あり
2	4	1	おきなもん	翁問答 改正入 三・四・五 (3冊括り)	中江藤樹	慶安3年(1650)	慶安2年(1649)	第1巻:P625	慶安3年、4年とある
3	145	1	おんなてい	女庭訓往来 全一冊	?	嘉永5年(1852)	天保13年(1842)	第1巻:P719 山中	安政2年、山中は出版年なし
4	75	1	ぎこうこう	義公黄門仁徳録 全(五巻)	呑産道人	?	?	第2巻:P401	
5	29	1	きっかぞく	菊花俗談 全	松籟軒南甫	大正5年(1916)	宝暦年間	第2巻:P435	
6	123	1	きっさよう	喫茶養生記 2巻1冊	栄西禪師	?	承元5年(1211)	第2巻:P438	元禄7年もあり
7	115	1	ぎょうそへ	翹楚編 全(上杉治憲の事跡:鷹山公)	佐藤信淵	?	寛政元年(1789)	第2巻:P523	明治8年写しあり
8	24	1	きんしんお	謹身往来寶蔵 全	?	?	天保4年	第2巻:P596 山中	山中は刊年不明
9	168	1	こじょうそ	(改正)古状揃餘師 全写 国書には:版	?	?	天保14年(1843)	第3巻:P456 山中	*山中のみ:年代なし、江戸末期あり
10	159	1	ごせいばい	御成敗式目	北条泰時	?	享禄2年(1529)	第3巻:P471	
11	209	1	ごせいばい	御成敗式目詳解 全	高井蘭山	文政10年(1827)	文政10年(1827)	第3巻:P472 山中	天保7年に山中あり
12	72	1	さんぼうじ	算法地方大成 租税の部~量地之部五	長谷川寛闊	天保8年(1837)	天保8年(1837)	第3巻:P846 特	合致だが山中;なし、天理:天保8(版本写)
13	78	1	じかたおう	地方往来 全 第34号	市野嗣郎	明治3年4月	?	第4巻:P19	
14	134	1	じつごきよ	實語教 童子教 天保12年版	?	天保12年(1841)	天保12年(1841)	第4巻:P124 山中	*山中:天保12年版:全く合致
15	204	1	じょうざん	常山文集附録 行實	中村顧言・栗山潜鋒	享保8年(1723)	享保3年(1530)	第4巻:P407 特	享保8年は国書総目録になし
16	117	1	しょがくこ	初学古状揃	?	安政4年(1857)	天明3年(1783)	第4巻:P520 山中	山中:文政再版
17	170	1	じょくんこ	女訓孝経 全	佐藤信淵	嘉永4年(1851)	嘉永4年(1851)	第4巻:P543 山中	慶大・国学院・山中のみ:全く合致
18	7	1	せんしゅう	撰集抄	西行記	?	鎌倉時代	第5巻:P198 特	寛文8年(1668)あり
19	208	1	せんしんど	洗心洞割記 全	大塩平八郎	明治30年1月	天保4年(1833)	第5巻:P205	

番号	写真 NO	分野 NO	かな	書名	著者	出版年		国書総目録(巻・P) :採録が当然 (特)	備考
						山中文庫蔵書	国書総目録		
20	59	1	そくりょう	測量集成 *理軒先生閔・西村泉次編	福田理軒	?	安政3年(1856)	第5巻:P325	
21	122	1	たいこうひ	太閤秀吉出生記 完 (太閤素性記)	市川義方	天明8年(1788)	安永6年(1777)	第5巻:P385 (特)	太閤秀吉出生記は別名 山中なし
22	124	1	ちゅうこう	(皇朝政要)中興鑑言 完	大府儒官観 瀾三宅先生	?	天保7年(1836)	第5巻:P655	
23	62	1	ちょうせい	長生花林抄	染井翁	?	享保18年(1733)	第5巻:P689	
24	136	1	ていきんお	庭訓往来(絵入り)	榎本直衛	嘉永5年(1852)	天文5年(1536)	第5巻:P782 山中	延宝2年版に山中とある
25	135	1	でんしんろ	傳心録	染井翁	天明3年(1783)	安永3年(1774)	第5巻:P836 (特)	国書総目録に天保15年あり 山中なし
26	61	1	どうもうくん	(解診) 童蒙訓 (かいげん)	呂本中	大正15年4月	明和4年(1767)	第6巻:P105	享和8年写し、江戸初期写しあり
27	171	1	ひやくしょう	(新板)百姓往来 全	禿箒子	嘉永3年(1850)	明和3年(1766)	第6巻:P809 山中	寛政9年版:山中あり、刊年不明にも山中
28	146	1	ふなかたお	船方往来 全 (万延2年:1861)	?	万延2年(1861)	?	第7巻:P126 山中	版:山中・東大、活版:千葉県史料近世篇
29	70	1	みんかぶん	民家分量記 再板(1~5)合致あるが	常盤貞尚	安永6年(1777)	享保6年(1721)	第7巻:P607 (特)	享保11年、文化13年、安永6年、山中なし
30	166	1	やせんかん	夜船閑話	白隠和尚	?	宝暦7年(1757)	第7巻:P774	刊年不明・明治29、39、大正4・・・
31	1	1	やまとほん	宝永6年板大和本草	貝原益軒	宝永6年仲秋	宝永6年(1709)	第7巻:P807 (特)	合致だが、山中なし
32	101	1	ゆうぞんろ	猶存録 全 *別名:菊育草	?	?	正徳5年(1715)	第7巻:P843	
33	8	1	りくゆえん	六論衍義大意(中国明の洪武帝の六論・・・)	室鳩巢	弘化4年(1847)	享保7年(1722)	第8巻:P28	天保14年12月刻成
34	106	1	りょうちし	量地指南 前編(三冊)	村井昌弘	?	享保17年(1732)	第8巻:P89	享保18年、文化7年、天保14、刊年不明
35	83	2	かだんこう	花壇綱目 上・中・下	水野勝元	享保元年(1716)	寛文年間	第2巻:P163 (特)	国書総目録には享保元年もある 山中なし
36	183	2	かふ	花譜 上中下	貝原益軒	?	元禄7年(1694)	第2巻:P210	元禄11、天保15、安政3
37	129	2	かんのうこ	勸農固本録 下 算法入・農業・和算	万尾時春	?	享保10年(1725)	第2巻:P352 山中	山中は嘉永年間版
38	180	2	こくさんこう	国産考 巻・三・五・七(表紙の色:青)	大蔵永常	安政6年(1859)	天保15年(1844)	第3巻:P374 (特)	安政6年版があるが、山中なし
39	181	2	こくさんこう	国産考 巻・二・三・四(表紙の色:赤)	大蔵永常	〃	〃	第3巻:P374 (特)	天保15年 山中なし
40	138	2	さくていき	作庭記	橘俊綱	?	寛政7年(1795)	第3巻:P681	

番号	写真 NO	分野 NO	かな	書名	著者	出版年		国書総目録(巻・P) :採録が当然	備考
						山中文庫蔵書	国書総目録		
41	55	2	しゅじゅひ	種樹秘要	佐藤信淵	明治14年10月	文化6年	第4巻:P310	明治14年 10月18日 著作権免許
42	107	2	しゅじゅひ	種樹秘要	佐藤信淵	明治14年10月	〃	第4巻:P310	
43	34	2	しよくがく	植學啓蒙 上・中・下	松本駒次郎 抄訳	明治13年4月	???	第4巻:P532	?? (植學啓原はある)
44	99	2	じょこうろ	除蝗録 全	大蔵永常	文政9年	文政9年(1826)	第4巻:P552 (特)	合致だが、国書総目録に山中なし
45	153	2	しんみんか	親民鑑月集	土居清良	?	永禄7年(1564)	第4巻:P776 山中	*国会図書館と山中のみ
46	49	2	せいかろく	製葛録	大蔵永常	弘化2年(1845)	文政11年(1828)	第5巻:P72 (特)	弘化3年あり 山中なし
47	41	2	そうもくいく	草木育種 後編:上 草木育種:六	樸齋阿部先生	安政2年(1855)	文化15年(1818)	第5巻:P290 山中	国書総目録には文化15年、山中とある
48	179	2	そうもくろく	草木六部耕種法	佐藤信淵	明治7年3月	天保3年(1832)	第5巻:P291	明治27年あり
49	162	2	つきやまさ	築山山水作法 全 (築山山水伝?)	?	?	正徳4年(1714)	第5巻:P743	
50	14	2	でんえんる	田園類説 完	小宮山昌世	?	文化14年(1817)	第5巻:P810	
51	189	2	のうかえき	農家益 (山中は前篇:国書総目録)	大蔵永常	享和2年11月	享和2年(1717)	第6巻:P462 山中	前篇:享和2年、後編:文化8年 合致
52	157	2	のうかかん	(繪入)農家貫行 上 (蓑笠之輔)	蓑 正高	?	元文元年(1736)	第6巻:P462	天明元年、文化元年
53	186	2	のうかぎょう	農稼業叟 1・3・4・5	大蔵永常	文政元年(1818)	寛政5年(1793)	第6巻:P462 山中	文化11年も、文政元年に山中とあり
54	187	2	のうかぎょう	農稼業事 後編:2・3	大蔵永常	?	文政13年(1830)	第6巻:P462 山中	天保8年に山中とあり、安政3年、刊年不
55	188	2	のうかぎょう	農稼業事 後編:1・2・3・4・5	大蔵永常	?	文政13年(1830)	第6巻:P462 山中	天保8年に山中とあり、安政3年、刊年不
56	52	2	のうかここ	農家心得種 全一冊	手塚教義	?	天保14年(1843)	第6巻:P462 山中	天保14山中とあり国会、内閣、京大...
57	19	2	のうかだい	農家大學 全	玄水堂先生	??	文政13年(1830)	第6巻:P462 山中	写:山中のみ、版:山中・国会他
58	17	2	のうぎょうお	農業横坐案内 全 (写?)	?	安永6年	安永6年(1777)	第6巻:P469 (特)	明治22年5月(写?)合致だが山中なし
59	184	2	のうぎょうぜ	(再板)農業全書 卷之1・2・3・4・7	宮崎安貞	天明再板	元禄10年(1697)	第6巻:P468 山中	元禄10年版に山中とあり
60	68	2	のうぎょうよ	農業餘話 上・下	小西藤右衛門 蔵版	文政11年正月	文化6年(1809) 文政11年(1828)	第6巻:P469 山中	合致だが、刊年不明に山中あり

番号	写真 NO	分野 NO	かな	書名	著者	出版年		国書総目録(巻・P) :採録が当然	備考
						山中文庫蔵書	国書総目録		
61	182	2	のうせいざ	農政座右 上・中	小宮山昌秀	?	文政12年(1829)	第6巻:P473	明治の写しもあり
62	73	2	のうせいほ	農政本論 初・中・後編:上・中・下	佐藤信淵	天保	文政12年(1829)	第6巻:P473	
63	76	2	のうせいほ	農政本論 初編:上 初編:中・下 中編・ 後編:上・中・下	佐藤信淵	?	〃	第6巻:P473	
64	80	2	ばいようひ	(活版)培養秘録 元・亨・貞・利	佐藤信淵	天保11年(1840)	文化14年(1817)	第6巻:P567 特	天保11年(1840)もあるが、山中なし
65	20	2	ようさんし	養蚕輯要 全 (一冊写本)	玉井市郎	?	文化10年(1813)	第7巻:P880 山中	写:山中と版:東北大のみ
66	85	2	ようさんひ	(扶桑国第一産) 養蠶秘録 中・下	上垣伊兵衛 守圀	享和3年正月	享和3年(1802)	第7巻:P880 特	合致だが、山中なし
67	95	2	ようさんひ	(扶桑国第一産) 養蠶秘録 上	上垣伊兵衛 守圀	〃	〃	第7巻:P880 特	合致だが、山中なし
68	219	3	いせものが	伊勢物語傍注 上	賀茂季鷹	?	安永5年(1776)	第1巻:P217	
69	35	3	すがわらじ	絵本菅原実記 (菅原実記は別名)	秋雨仙史識	明治19年4月	文化7年(1810)	第1巻:P495	国書総目録に明治19年あり
70	222	3	のうかひつ	農家必備	小泉氏計	安政6年(1859)	安政6年(1859)	第6巻:P462 山中	山中のみ(玉川大にも・・・)
71	151	3	りんこくげ	林国月令 巻五	?	?	天保2年(1831)	第8巻:P101	明治版あり
72	48	4	きゅうりつう	究理通 (初編)上 巻之二	尾形一貫	明治5年6月	文化7年	第2巻:P480	
73	13	4	しよがく	(理学入門)植學啓原 全	宇田川榕菴	?	天保4年(1833)	第4巻:P532	天保5,6,8、刊年不明、明治8年版あり
74	65	4	せいこう	晴雨考 全	?	天保11年(1840)	天保年間	第5巻:P67 山中	尾張医学館門人 吉雄常三考定
75	31	4	はくぶつし	博物新編譯解 二:上・下	合信	?	?	第6巻:P583	大森秀三訳
76	224	4	ひでんかき	秘伝花鏡	子訂輯	?	?	第6巻:P777	
77	18	4	りがくてい	理学提要	広瀬元恭	?	嘉永7年(1854)	第8巻:P23	安政3年も 理学提要後編:安政6年
78	152	5	きんこしだ	近古史談 巻之四	大槻清崇	明治40年9月	安政元年	第2巻:P589	明治12、15年あり
79	172	5	きんこしだ	近古史談 後編 完	大槻清崇	明治40年9月	〃	第2巻:P589	
80	120	5	こごしゅう	(新刻)古語拾遺 全一冊	齋部広成	大同3年(808)	大同2年(807)	第3巻:P399 特	写本であろう 山中なし 江戸初期:内閣
81	211	5	にほんがいは	(増補)日本外史 一～六	頼氏蔵版	明治44年10月	文政10年(1827)	第6巻:P379	文政12年、嘉永元年等あり

番号	写真 NO	分野 NO	かな	書名	著者	出版年		国書総目録(巻・P) :採録が当然	備考
						山中文庫蔵書	国書総目録		
82	58	6	あずまのみ	吾嬬路記	貝原益軒	?	享保6年(1721)	第1巻:P64	
83	193	7	かいこくへ	海国兵談 (政論書:全16巻)	林子平	明治6年10月	天明6年(1786)	第2巻:P19	
84	197	7	かないよう	家内用心集 巻中 四民之部	頓宮咲月・ 宮負定雄	?	享保15年(1730)	第2巻:P192 山中	国書総目録の山中は享保15年
85	212	7	かないよう	家内用心集 六	〃	?	?	第2巻:P192	
86	210	7	ごゆいじょ	御遺状百箇條	?	?	安政3年(1856)	第3巻:P575	写し
87	198	7	こんどうひ	混同秘策 前・後	佐藤信淵	明治21年3月	文政6年(1823)	第3巻:P620	写し
88	202	7	しんさく	新策(正本)上・中・下 (新策正本ともいう)	頼山陽	安政9年(1862)	安政2年(1855)	第4巻:P680 特	
89	201	7	ぶっかよろ	物價餘論 上・中・下	佐藤信淵	明治9年5月	天保9年(1938)	第7巻:P98	
90	203	7	ほうとくが	報徳外記 巻之上・下	斎藤高行	明治18年9月	安政元年(1854)	第7巻:P283	国書総目録:明治18年版ありと・・・
91	223	7	みんかしよ	民家生要記	源 卯	寛延?	寛延4年(1792)	第7巻:P606 山中	宝暦3年版:山中、寛政4年、刊年不明
92	64	8	つけものあ	四季漬物塩嘉減	八百善主人	天保7年	天保7年(1836)	第4巻:P36 特	漬物早指南は別名 合致だが山中なし
93	38	8	とくようしょ	徳用食鏡 全	大蔵永常	?	天保4年(1833)	第6巻:P148	
94	92	8	りょうりつう	料理通 全 初編・二編・三篇 合致だが	八百善	文政8年(1825)	文政5年(1822)	第8巻:P98 特	文政8年、12年、天保6年・・・山中なし
95	5	9	えどすなご	(再校)江戸砂子	菊岡沾涼	明和8年(1771)	享保17年(1732)	第1巻:P473 特	国書総目録には明和9年がある 山中なし
96	3	9	じかたおち	地方落穂集 天:従1~5、地・・・	?	?	宝暦13年(1763)	第4巻:P19	
97	141	9	みんかきよ	民家教訓袋	徳 雨	明和8年正月	明和8年(1771)	第7巻:P606 山中	*版:教大・山中のみ
98	28	9	よねざわの	米沢農家立教 (農家立教)	竹俣当綱	天保10年(1839)	天保15年(1844)	第7巻:P926 山中	山中のみ:写 国書には著者なし
99	15	10	ぐんしよい	群書一覧 二・三・四・五 6巻6冊	尾崎雅嘉	?	享和元年(1801)	第2巻:P707	
100	131	10	ぐんしよる	群書類従	塙保己一	?	文政3年(1820)	第2巻:P708	天保6年もあり
101	10	10	にほんし	日本書籍考(推古天皇時聖徳太子・・・)	羅山子	文化13年(1816)	元禄8年(1695)写	第6巻:P394 特	承応年間版、寛文7年、宝暦11年等

3 国書総目録に採録の山中文庫蔵書29部(ダイジェスト版)：目次

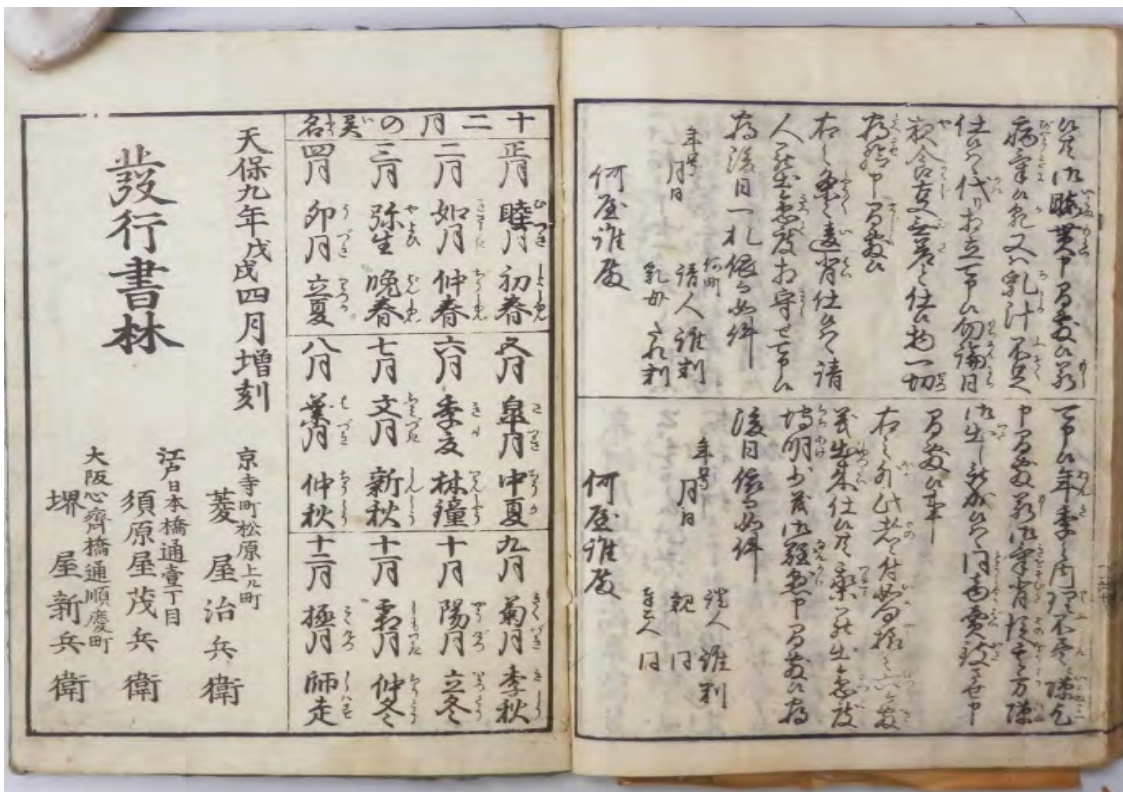
頁番号	分野 NO	かな	書名	著者	出版年		国書総目録 (巻・P)
					山中文庫蔵書	国書総目録	
49・50	1	おがさわら	小笠原諸礼調法記(童子専用増補繪入)	速水春暁	天保9年(1838)	享和3年(1802)	第1巻:P614 山中
51・52	1	おんなてい	女庭訓往来 全一冊	?	嘉永5年(1852)	天保13年(1842)	第1巻:P719 山中
53・54	1	きんしんお	謹身往来寶藏 全	?	?	天保4年	第2巻:P596 山中
55・56	1	こじょうそ	(改正)古状揃餘師 全写 国書には:版	?	?	天保14年(1843)	第3巻:P456 山中
57・58	1	ごせいばい	御成敗式目詳解 全	高井蘭山	文政10年(1827)	文政10年(1827)	第3巻:P472 山中
59・60	1	じつごきよ	實語教 童子教 天保12年版	?	天保12年(1841)	天保12年(1841)	第4巻:P124 山中
61・62	1	しょがくこ	初学古状揃	?	安政4年(1857)	天明3年(1783)	第4巻:P520 山中
63・64	1	じょくんこ	女訓孝経 全	佐藤信淵	嘉永4年(1851)	嘉永4年(1851)	第4巻:P543 山中
65・66	1	ていきんお	庭訓往来(繪入り)	榎本直衛	嘉永5年(1852)	天文5年(1536)	第5巻:P782 山中
67・68	1	ひやくしょう	(新板)百姓往来 全	禿箒子	嘉永3年(1850)	明和3年(1766)	第6巻:P809 山中
69・70	1	ふなかたお	船方往来 全 (万延2年:1861)	?	万延2年(1861)	?	第7巻:P126 山中
71・72	2	かんのうこ	勸農固本録 下 算法入・農業・和算	万尾時春	?	享保10年(1725)	第2巻:P352 山中
73・74	2	しんみんか	親民鑑月集	土居清良	?	永禄7年(1564)	第4巻:P776 山中
75・76	2	そうもくいく	草木育種 後編:上 草木育種:六	櫛齋阿部先生	安政2年(1855)	文化15年(1818)	第5巻:P290 山中
77・78	2	のうかえき	農家益 (山中は前篇:国書総目録)	大蔵永常	享和2年11月	享和2年(1717)	第6巻:P462 山中

頁番号	分野 NO	かな	書名	著者	出版年		国書総目録 (巻・P)
					山中文庫蔵書	国書総目録	
79・80	2	のうかぎょう	農稼業叢 1・3・4・5	大蔵永常	文政元年(1818)	寛政5年(1793)	第6巻:P462 山中
81・82	2	のうかぎょう	農稼業事 後編:2・3	大蔵永常	?	文政13年(1830)	第6巻:P462 山中
83・84	2	のうかぎょう	農稼業事 後編:1・2・3・4・5	大蔵永常	?	文政13年(1830)	第6巻:P462 山中
85・86	2	のうかここ	農家心得種 全一冊	手塚教義	?	天保14年(1843)	第6巻:P462 山中
87・88	2	のうかだい	農家大學 全	玄水堂先生	??	文政13年(1830)	第6巻:P462 山中
89・90	2	のうぎょうぜ	(再板)農業全書 卷之1・2・3・4・7	宮崎安貞	天明再板	元禄10年(1697)	第6巻:P468 山中
91・92	2	のうぎょうよ	農業餘話 上・下	小西藤右衛門蔵版	文政11年正月	文化6年(1809) 文政11年(1828)	第6巻:P469 山中
93・94	2	ようさんし	養蚕輯要 全 (一冊写本)	玉井市郎	?	文化10年(1813)	第7巻:P880 山中
95・96	3	のうかひつ	農家必備	小泉氏計	安政6年(1859)	安政6年(1859)	第6巻:P462 山中
97・98	4	せいうこう	晴雨考 全	?	天保11年(1840)	天保年間	第5巻:P67 山中
99・100	7	かないよう	家内用心集 巻中 四民之部	頓宮咲月・宮負定雄	?	享保15年(1730)	第2巻:P192 山中
101・102	7	みんかしよ	民家生要記	源 卯	寛延?	寛延4年(1792)	第7巻:P606 山中
103・104	9	みんかきよ	民家教訓袋	徳 雨	明和8年正月	明和8年(1771)	第7巻:P606 山中
105・106	9	よねざわの	(米沢)農家立教	竹俣当綱	天保10年(1839)	天保15年(1844)	第7巻:P926 山中

山中文庫蔵書概要一覧(1-1・お)

書名	小笠原諸礼調法記(童子専用増補繪入) おがさわらしょれいちょうほうき	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	速水春暁齋 画圖	
出版年	天保9年(1838)	
出版社・地	京都菱屋治兵衛板・大阪堺屋新兵衛他板	
国書総目録へ採録	国書総目録には享和3年(1803)もある	
注記	国書総目録に天保9年(1838)版に山中とある	
表紙写真(1531)		
		
注釈	童蒙向けの小笠原流礼法書の一つ。巻頭に和漢の礼法の由来を略述し、以下「素礼の事」から「御厨子・黒棚の図」まで80項目に分けて、基本事項を図解入りで平易に解説する。	

写真1-1-1



1-4・お

書名	女庭訓往来 全一冊	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	?	
出版年	山中は出版年なし	
出版社・地	松栄堂	
国書総目録へ採録	国書総目録には安政2年(1855)とある	
注記		
表紙写真(1441)		
		
注釈	原本の出版地:江戸(東京) 出版社:松栄堂 出版年:1855(西暦)、安政2年(和暦)庭訓往来倭文鑑(テイキンオウライシズカガミ)	

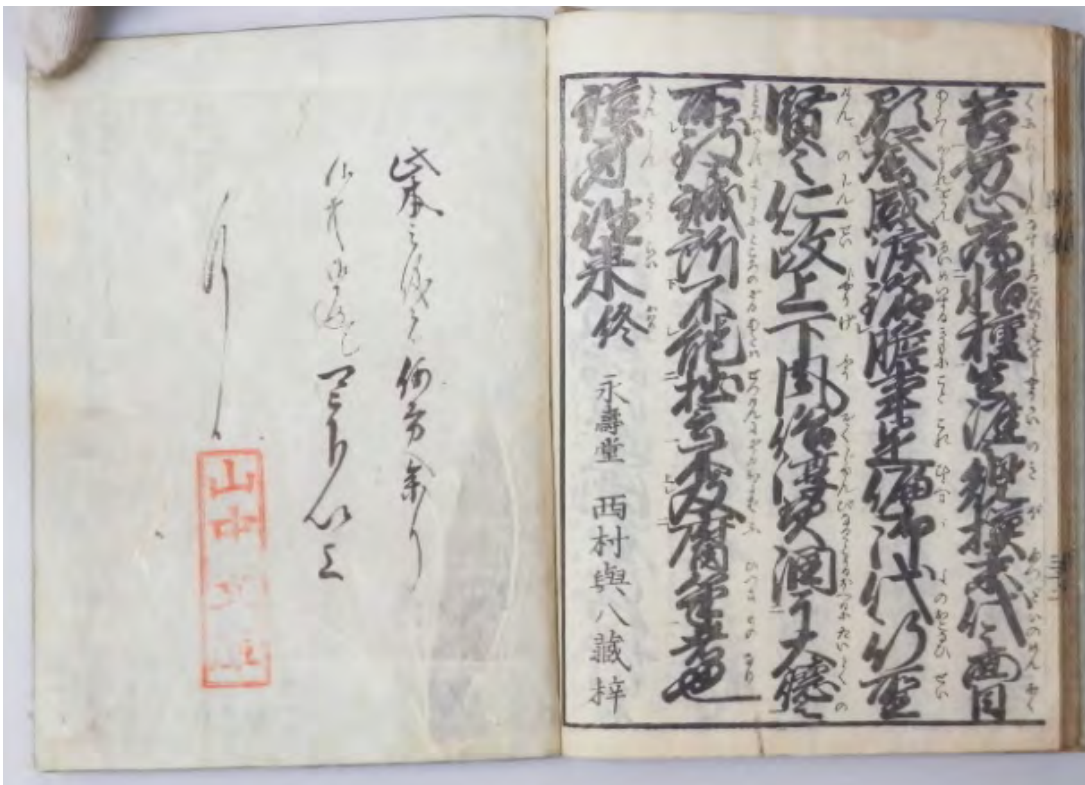
写真1-4-1



山中文庫蔵書概要一覽(1-11・3)

書名	謹身往来寶蔵 全	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	?	
出版年	? 国書総目録には刊年不明、山中文庫とある	
出版社・地	永寿堂 西村興八 蔵梓	
国書総目録へ採録	国書総目録には天保4年(1833)とある	
注記		
表紙写真(994)		
		
注釈	謹身往来寶蔵? 商売往来寶蔵? * 田中徳八氏所書?	

写真1-11-1



1-14・か

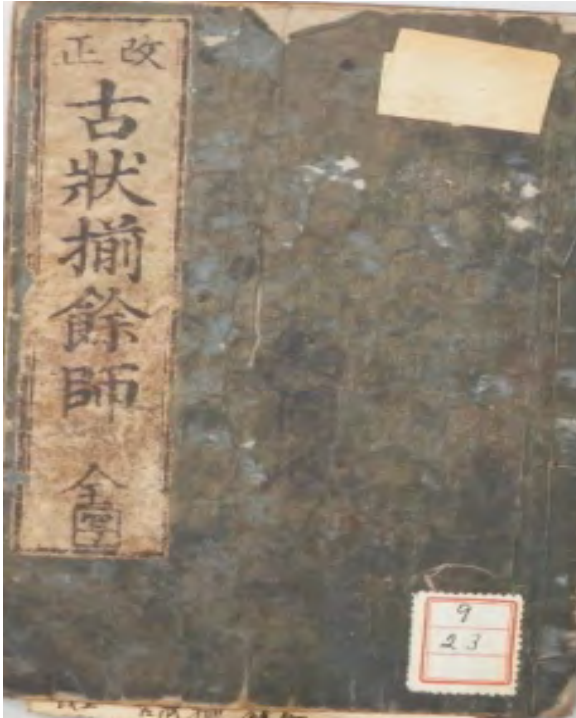
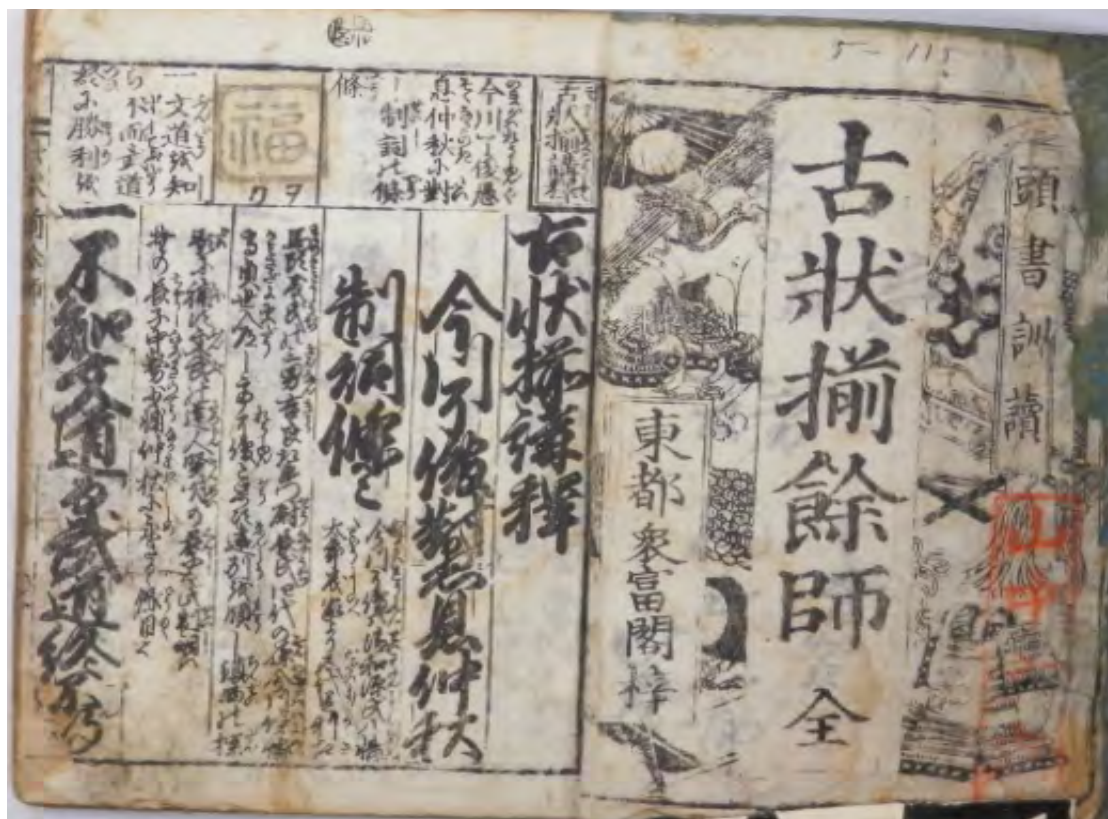
書名	(改正)古状揃餘帥全写(図)	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	?	
出版年	?	
出版社・地	東都 衆富閣梓	
国書総目録へ採録	国書総目録には天保14年(1843)とある	
注記	国書総目録には山中文庫のみとある	
表紙写真(1516)		
		
注釈	所在望月文庫(東京学芸大学附属図書館)*B-42:古状揃餘帥で改正古状揃餘帥と同じではない。	

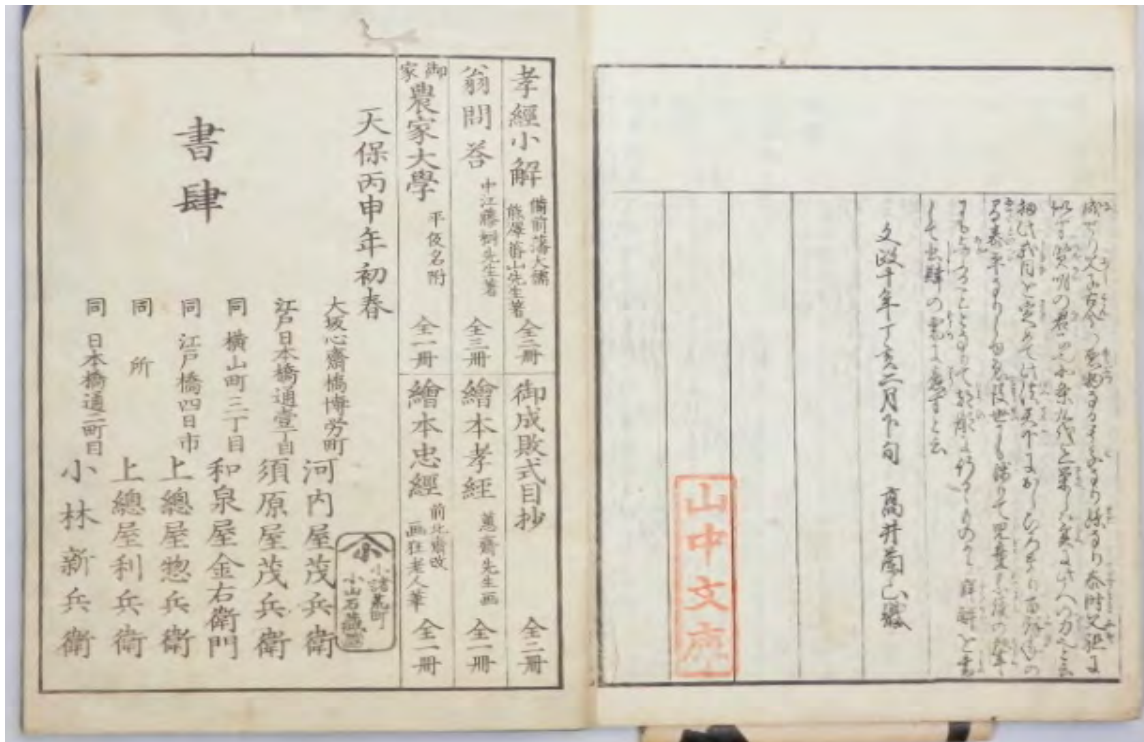
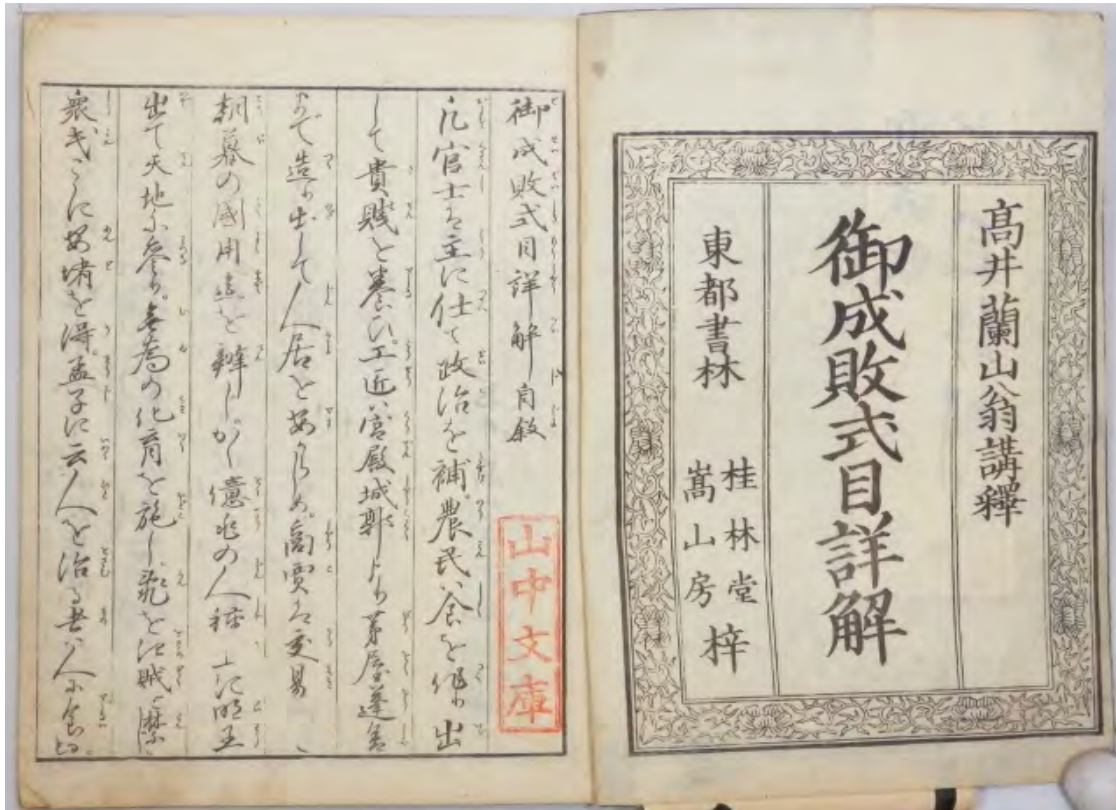
写真1-14-1



1-15・か

書名	御成敗式目詳解全	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	高井蘭山翁述 和泉屋金右衛門	
出版年	天保7年(1836)	
出版社・地	江戸・西村屋与八	
国書総目録へ採録	国書総目録には文政10年(1827)とある	
注記		
表紙写真(1656)		
		
注釈	貞永(じょうえい)式目とも。1232年、執権北条泰時の指揮の下に制定された鎌倉幕府の基本法典。51ヶ条。守護・地頭の職務内容や民事・刑事・訴訟手続法など多様な内容を持ち、土地の取得時効法など従来の公家法・荘園法とは異なる独自の武家法理が成文化された。	

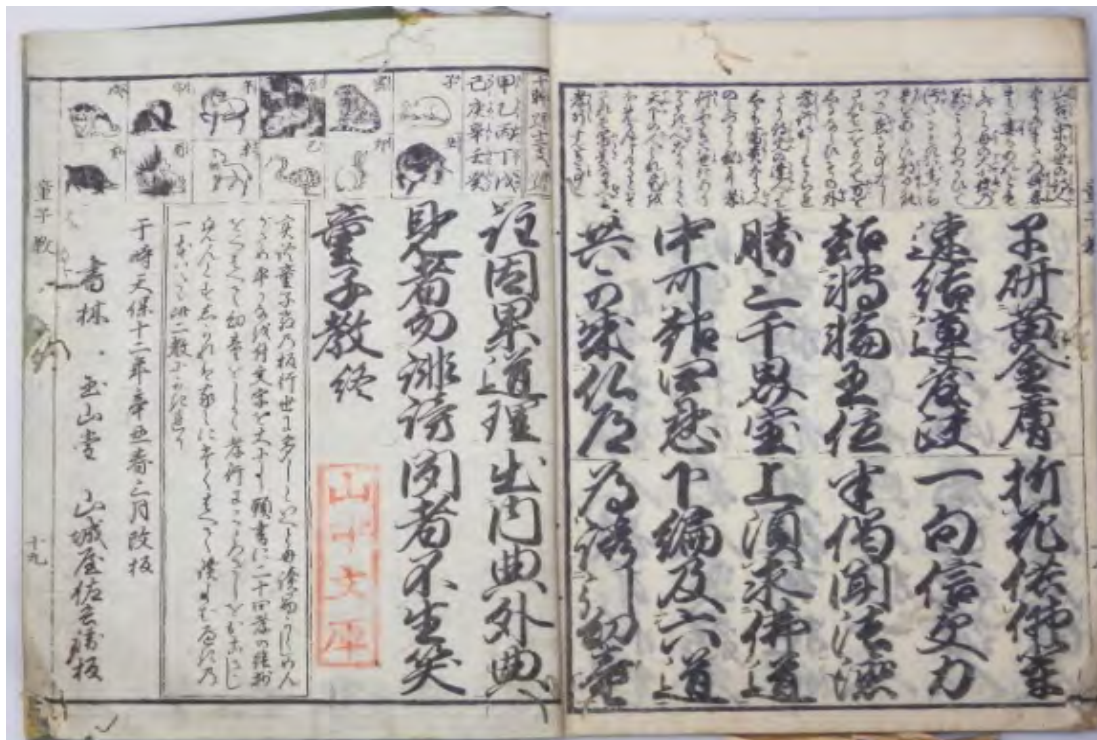
写真1-15-1



1-20・さ

書名	實語教・童子教 天保12年版	
冊数		
別書名		
著・編者名	?	
出版年	天保12年(1841)	
出版社・地	江戸鶴屋(仙鶴堂)	
国書総目録へ採録	国書総目録にも天保12年で全く合致	
注記		
表紙写真(1400)		
		
注釈	<p>「実語教 童子教」文化11年、江戸鶴屋(仙鶴堂)板による。実語教と童子教は、往来物、すなわち中近世を通じて広く長く行われた初等教科書の、なかんずく所謂、教訓科往来の代表的な古典の一つである。従来の最古本は元禄初年であった。今回、発見した貞享5年板はさらに遡る最古本として貴重であろう。貞享5年9月、京都・万屋彦三郎板「実語教 童子教」本文中の任意の語句に略注ならびに挿絵を頭書に施した絵抄本。</p>	

写真1-20-1



1-26・し

書名	初学古状揃	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	?	
出版年	安政4年(1857)	
出版社・地	書林 玉山堂	
国書総目録へ登録	国書総目録には天明3年(1783)がある	
注記		
表紙写真(1347)		
		
注釈	参考目録:国書総目録4巻520頁日本古典席総合目録ID235405 外題:改正新板/初學古状揃万宝蔵 外題注記:題簽 見返し題:初學古状揃 (*吉井小学校:池田若松氏の卒業証書あり)	

写真1-26-1



1-27・し


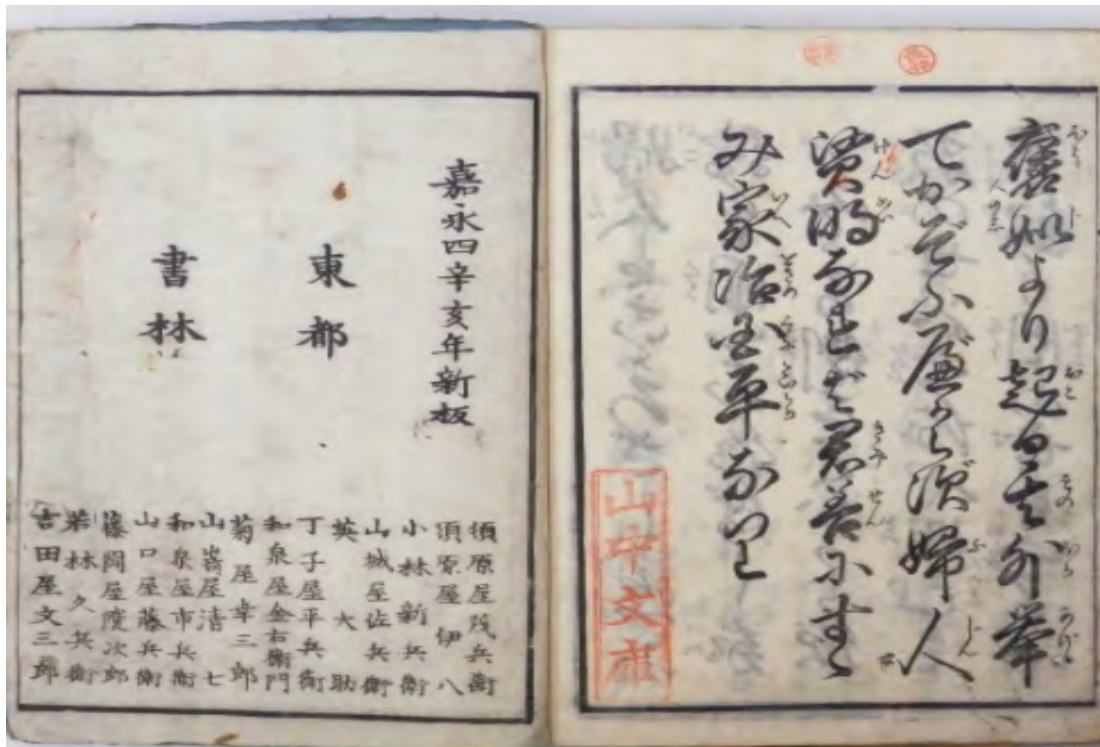
書名	女訓孝経 全[別題:女訓孝経教寿]	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	鄭陳=妻/八隅山人(和解)	
出版年	嘉永4年(1851)	
出版社・地	江戸:須原屋茂兵衛	
国書総目録へ登録	国書総目録には嘉永4年(1851)とある	
注記		
表紙写真(1522)		
		
注釈	東京学芸大学附属図書館所蔵資料 要約(Abstract)、[頭書]孔子/越後国蒲原郡孝女/孟母/本朝二十四孝[卷末]和歌三神像/慈鎮和尚五常の歌/三夕之図/六歌仙/十二月和名/六玉川	

写真1-27-1



山中文庫蔵書概要一覧(1-41・て)

書名	庭訓往来(ていきんおうらい)	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	榎本 直衛	
出版年	嘉永5年(1852)	
出版社・地	東都書林 山城屋佐兵衛	
国書総目録へ登録	国書総目録には天文5年(1536)とある	
注記	公開者:国立国会図書館	
表紙写真(1406)		
		
注釈	<p>庭訓往来(ていきんおうらい)とは、往来物(往復の手紙)の形式をとる、寺子屋で習字や読本として使用された初級の教科書の一つである。南北朝時代末期から室町時代前期の成立とされる。著者は南北朝時代の僧玄恵とされるが、確証に乏しい。「絵入り庭訓往来」(1688)の二月往状(弾正忠三吉から大監物宛て)の部分で、テーマは詩歌の会となっている。近世になってはじめて絵入りの「庭訓往来」が登場したが、本書はその初期の例で、本文中の用語を図解で解かりやすく説明してある。なお原文は漢文であるが、書き下し文にあらためた。</p>	

写真1-41-1



1-49・ひ

書名	(新版)百姓往来 全	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	浪華 禿箒子 撰・再訂	
出版年	嘉永3年(1850)	
出版社・地	裳華房伊勢屋半右衛門(仙台)刊	
国書総目録へ登録	なし	
注記		
表紙写真(1525)		
		
注釈	「新版絵抄 百姓往来全」浪華禿箒子撰・再訂、裳華房伊勢屋半右衛門(仙台)刊、嘉永元年(1848)、百姓に関する往来物。(B-41,71:百姓往来である。)	

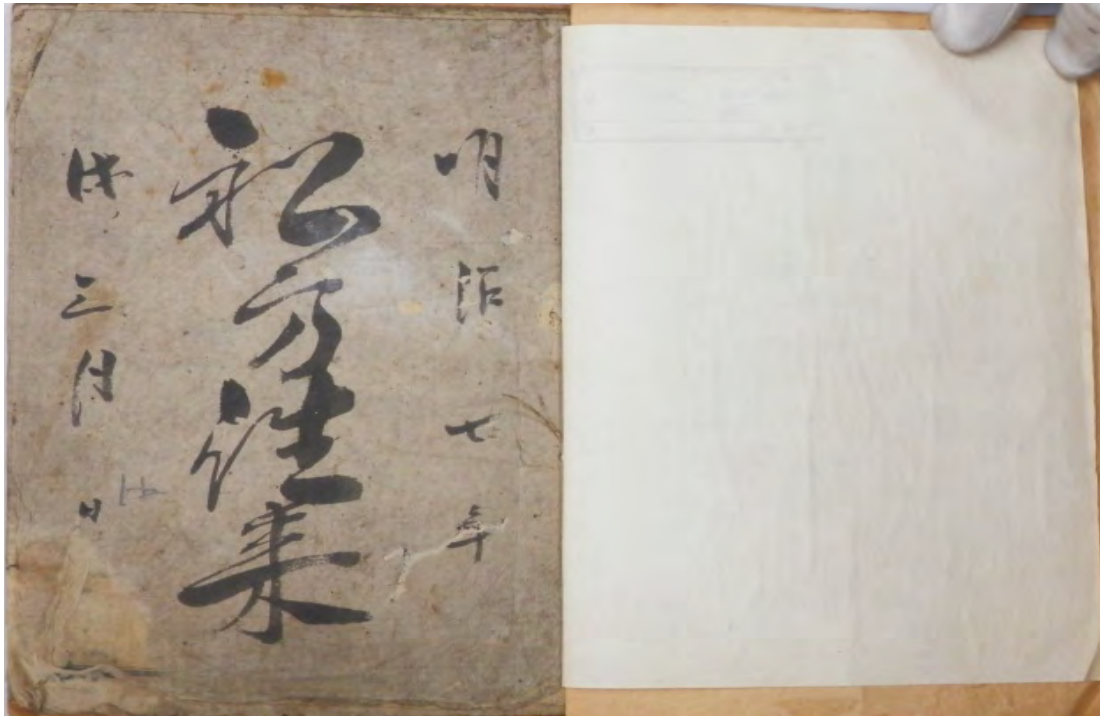
写真1-49-1



山中文庫蔵書概要一覽(1-51・ふ)

書名	船方往来 全	
冊数	1	
別書名	寺子教訓諸職往来	
著・編者名	?	
出版年	万延2年(1861)	
出版社・地	?	
国書総目録へ登録	なし	
注記		
表紙写真(1444)		
		
注釈	天神教訓状。諸職往来。船方往来(書名別名:寺子教訓諸職往来、船方往来。出版元:吉文字屋市左衛門:勝尾屋六兵衛)*内容不明	

写真1-51-1



2-5・か

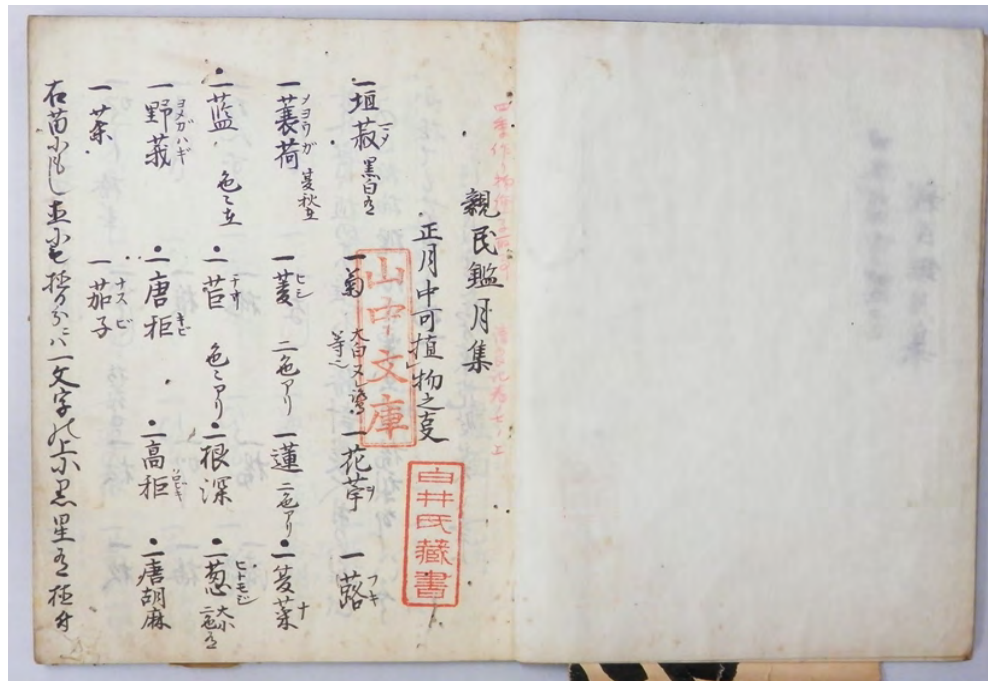
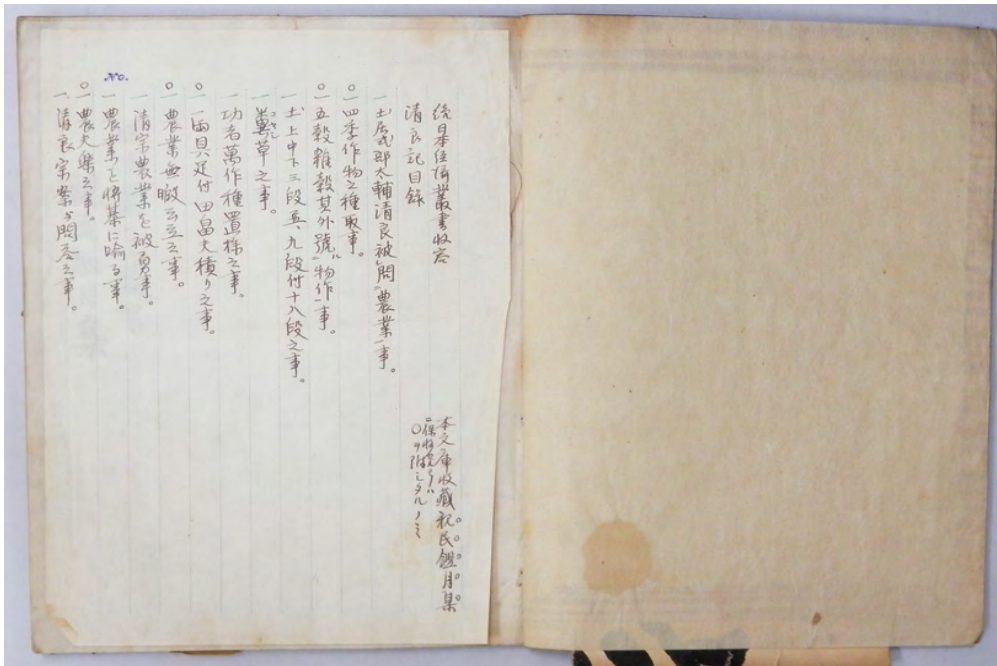
書名	勸農固本録 下	
冊数	1	
別書名	算法入勸農固本録 下	
著・編者名	万尾時春	
出版年	享保10年(1725)	
出版社・地	小川多左衛門	
国書総目録へ採録	国書総目録には享保10年とあり、全く合致。	
注記		
表紙写真(1386)		
		
注釈	書名別名: 算法入勸農固本録 下? その内容は一: 郷村諸事、二: 土地位付併作物仕付之事、三: 検見併取調付之事、四: 年貢収納之事、五: 検知仕様之事、六: 地普譜之事、七: 山林竹木仕立様之事、八: 公事訴訟之事、九: 役人平日... 測量の方法	

<p>心齋橋筋順慶町 大坂書林 柏原屋清右衛門版</p>		<p>三世相圖解 萬歳雜書日用寶 新板全一冊</p> <p>此雜書のいろはの部をい て中をいれしは元三六師 匠ト云ふに後入のりか ふて筆一く記波に諸人家に 並て日用文も益ある事也</p>	<p>懐中本 増補晝夜重寶記 全一冊</p> <p>此本が元文書之を清相場別 方其外添養能廣法某方餘委 男女相生不浴し所なくして不速 よこし中々小て人人家小居く 晝夜に用也入用のりも諸人 等め大に便利なりと云ふ事也</p>	<p>八幡村長島尚賢</p>	<p>勸農固本録終</p>	<p>モ困窮セヌトナリ。委細井田圖考ニ記ス。今日本ノ 法ニ四六民ノ或五五民ノトナリ。各別取箇強ケレ 凡。其代リニ。貢助ノニカタトハ違フテ。極リタル軍 役ヲツトムルナリ。是以和漢時俗ノ宜ニ叶フ法ヲ 考合スヘシ。凡テ此書ハ地方便蒙ノタメ。其固陋ヲ 忘テ。聞觸見觸タルヲ班輯ス。仍其錯誤多カ ラニ識者神之後編ヲ俟而已</p>
--------------------------------------	--	---	---	----------------	---------------	---

2-24.し

書名	親民鑑月集	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	松浦宗案?	
出版年	永禄7年(1564)	
出版社・地	?	
国書総目録への採録	国書総目録には永禄7年とあり、全く合致。	
注記		
表紙写真(1466)		
		
注釈	清良記(親民鑑月集):土居水也武将土居清良の一代記のうちの一巻である農書「親民鑑月集」。田畑耕作の起源、農民の心構え、品種と採種論、土と肥料、農業経営の話などを明快に親しみやすく説く。	

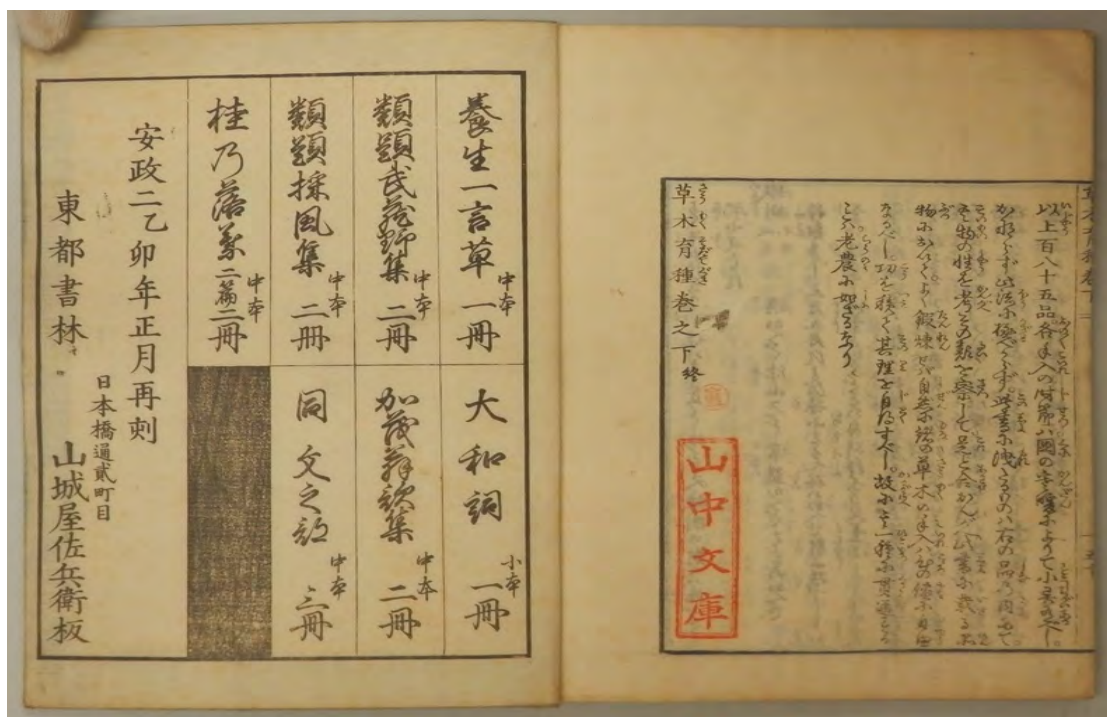
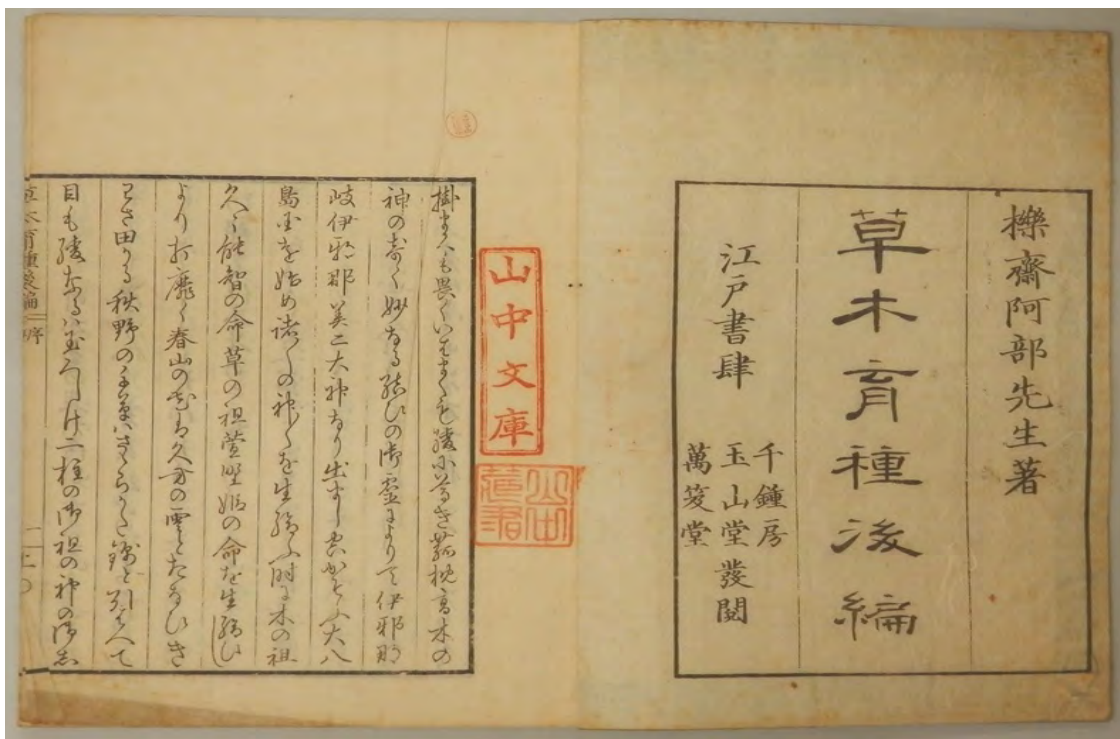
三景2-24-1



山中文庫蔵書概要一覧(2-31-4)

書名	草木いく種 後編 上、草木育種 六	
冊数	2	
別書名		
著・編者名	阿部喜任	
出版年	安政2年(1885)	
出版社・地	須原屋茂兵衛(江戸)他	
国書総目録への採録	国書総目録は文化15年(1818)toaru	
注記		
表紙写真(1055)		
		
注釈	草木育種(後編 下)/阿部喜任<ソウモクソダテグサ/アベヨシトウ>、<刊本>解説、江戸時代の植物学書として有名な「本草図譜」の著者、岩崎常正の著になる植物栽培の啓蒙書の続編で、弟子の阿部喜任による著作。	

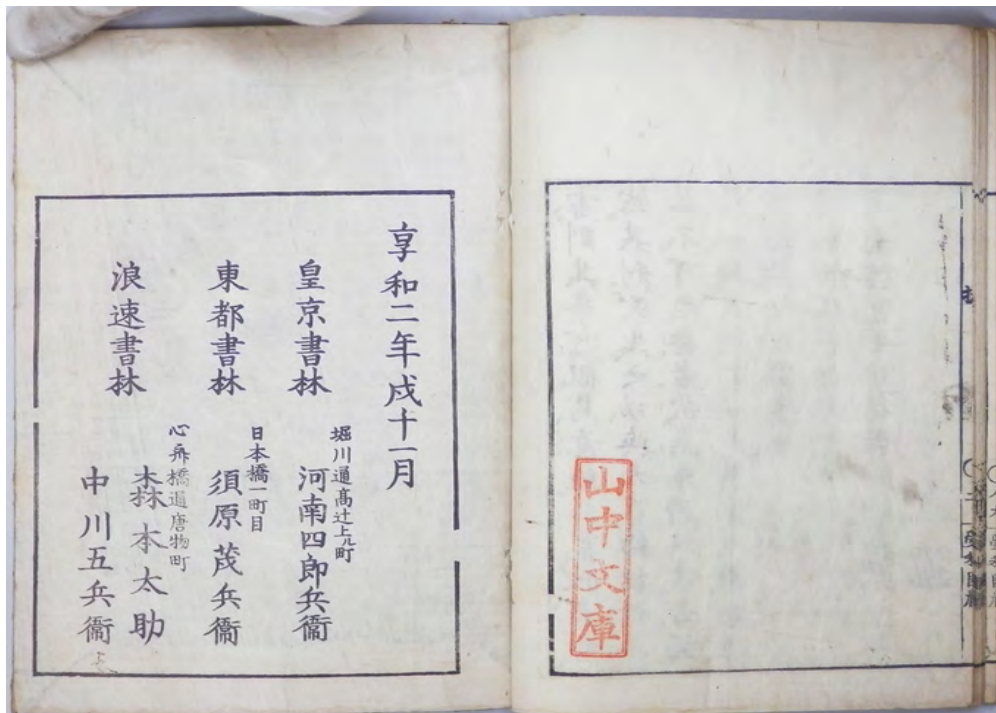
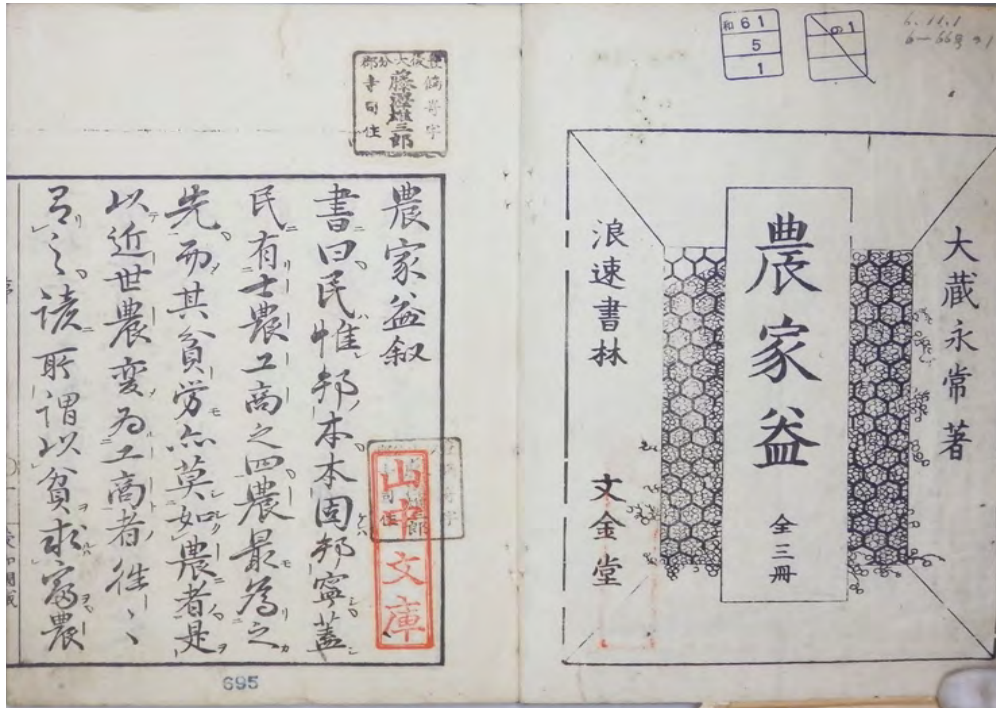
頁 2-31-1



2-43・の

書名	農家益	
冊数	3	
別書名		
著・編者名	大蔵永常	
出版年	享和2年(1802)	
出版社・地	皇都越後屋治兵衛他	
国書総目録へ採録	国書総目録は享和2年	
注記	現物を精査	
表紙写真(1590)		
		
注釈		

図録2-43-1



2-45・の

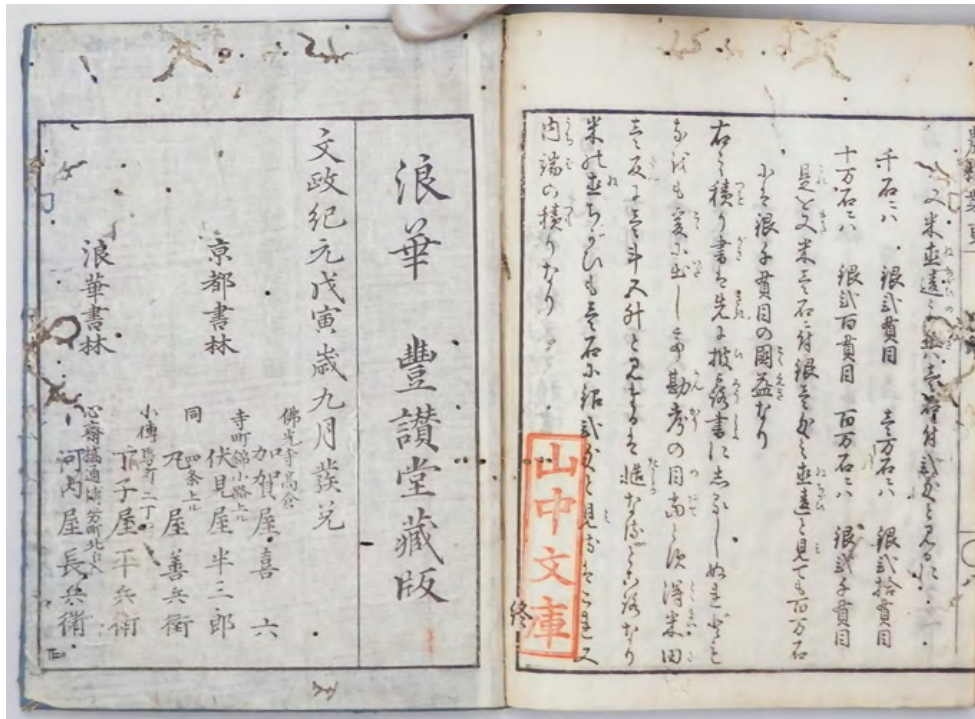
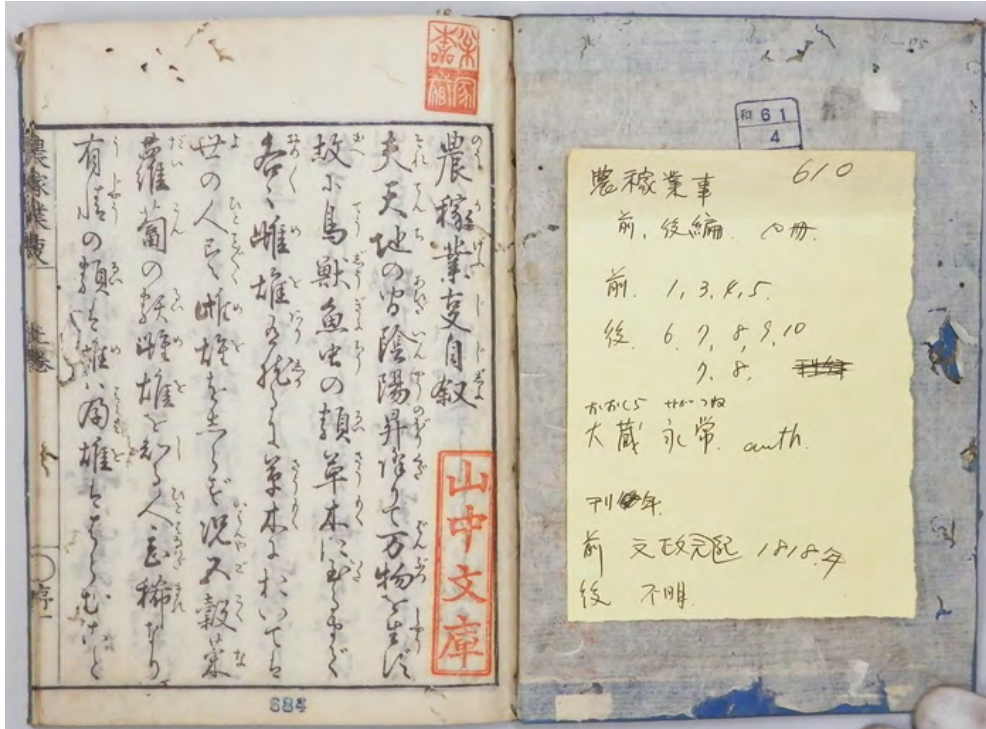
書名	農稼業 1,3,4,5
冊数	④
別書名	
著・編者名	大蔵永常
出版年	文政元年(1818)
出版社・地	浪華 豊讃堂蔵版
国書総目録へ採録	国書総目録は寛政5年(1793)とある
注記	

表紙写真 (1578)



注釈	本書は稲と草織の耕種法を詳しく述べ播種耕転から作物は雌種を撰ぶべきことが図解で示し曝稲の法、駆虫の法等の経験が述べてある。文政12年に大蔵永常がこの本の後篇ともいべきものを著述した。この書は漆、綿、紅茶、油桐、玉蜀黍の栽培、製造のことから水損地に再び稲を栽培するの法、貯穀並土蔵足で、附録并で五冊からなっている。
----	--

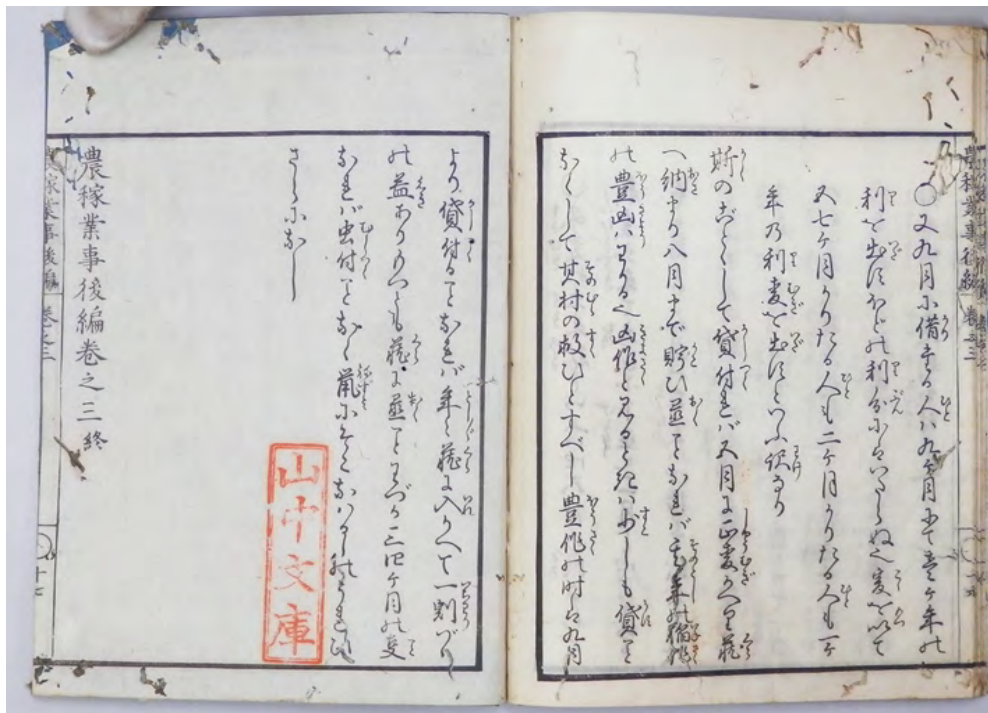
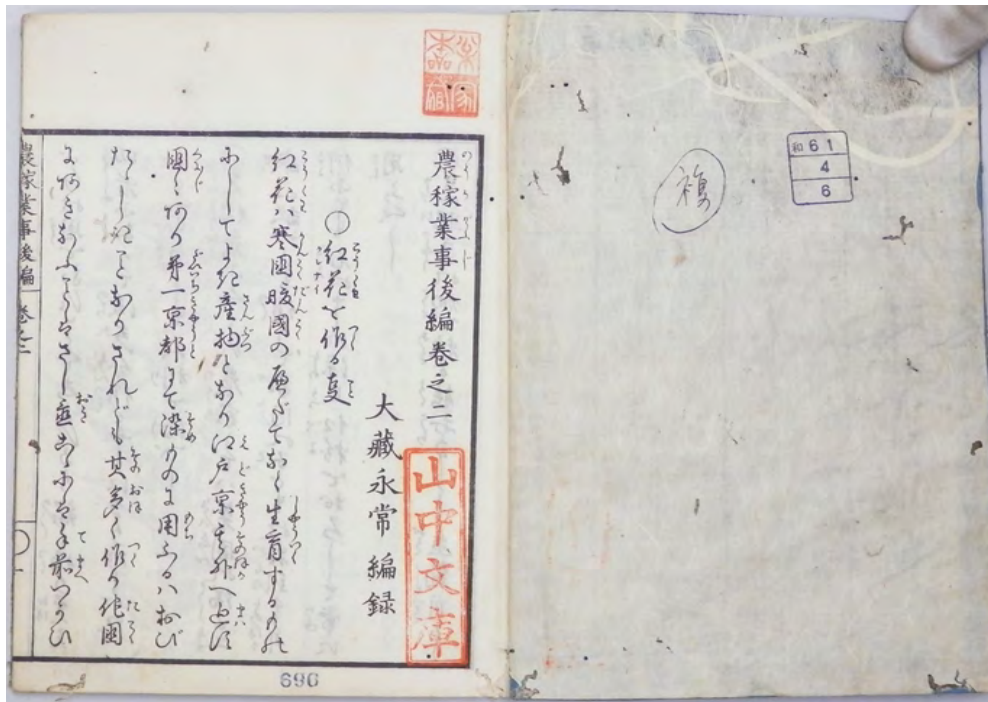
書 2-45-1



2-46・の

書名	農家業事 後編 2,3	
冊数	2	
別書名		
著・編者名	大蔵永常 編録	
出版年	?	
出版社・地	?	
国書総目録へ採録	国書総目録は文政13年(1830)とある	
注記		
表紙写真 (1581)		
		
注釈	2-45に同じ	

写真2-46-1



2-47.の


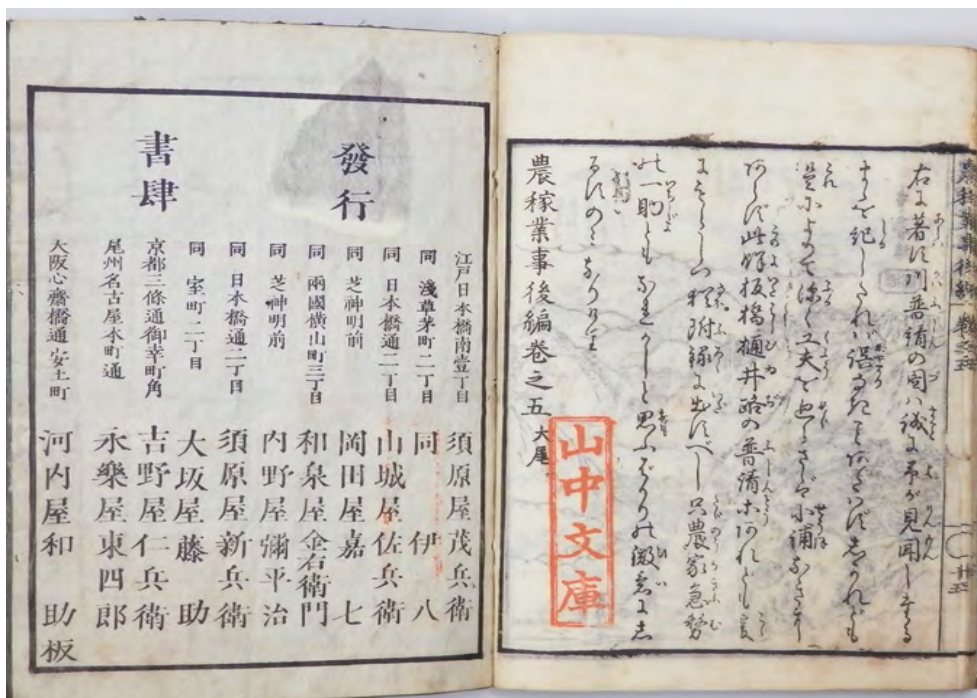
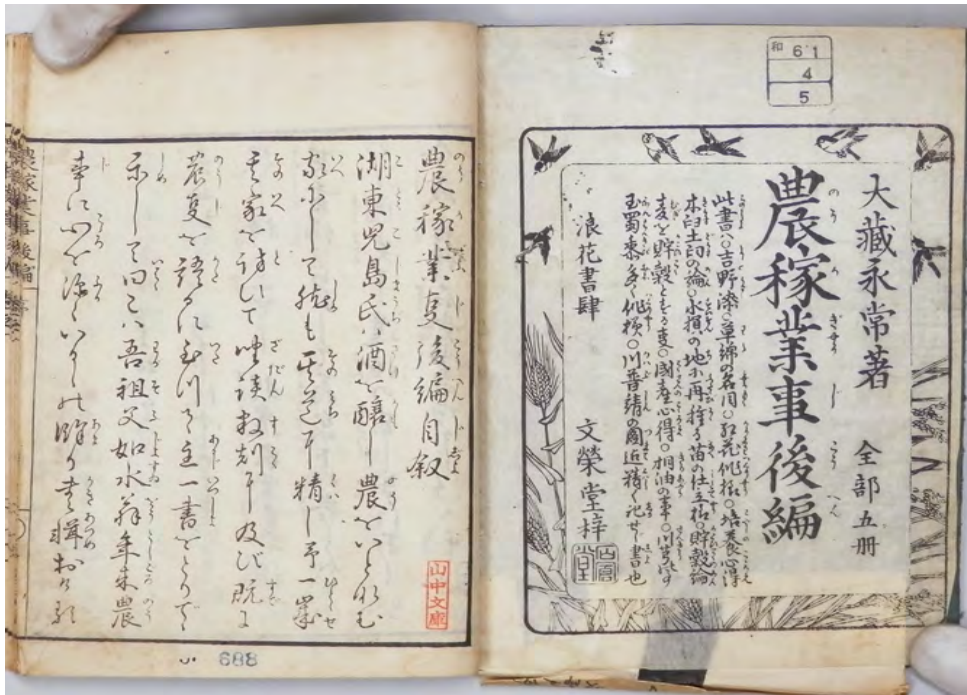
書名	農家業事 後編:1・2・3・4・5	
冊数	5	
別書名		
著・編者名	大蔵永常	
出版年	?	
出版社・地	文栄堂	
国書総目録へ採録	国書総目録は文政13年(1830)とある	
注記	表紙写真(1584)	
		
注釈	2-45に同じ	

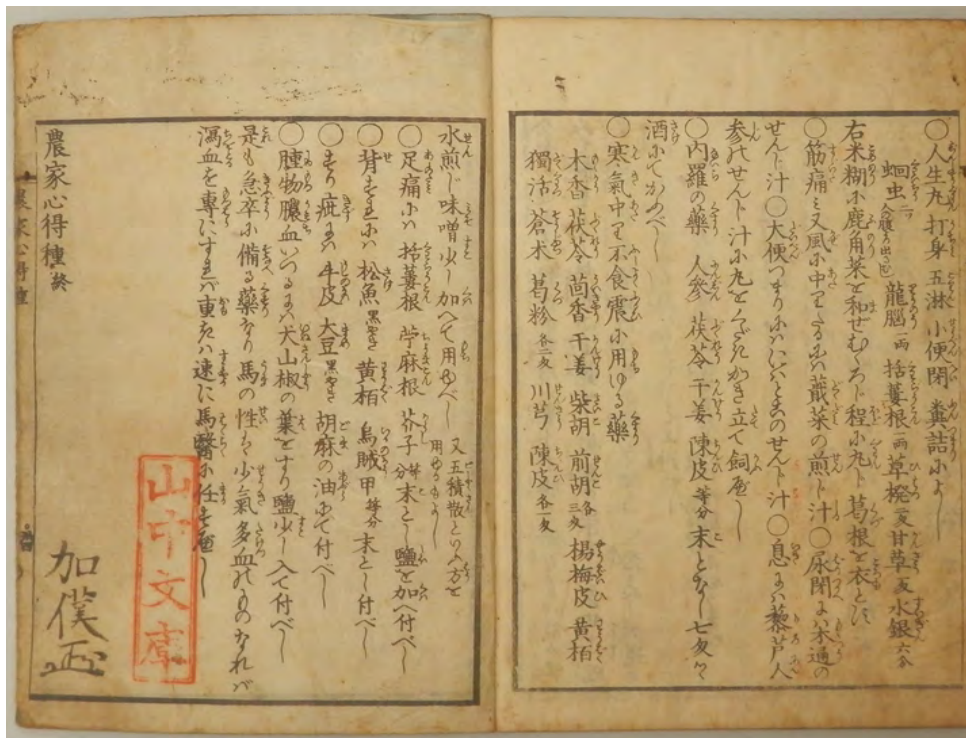
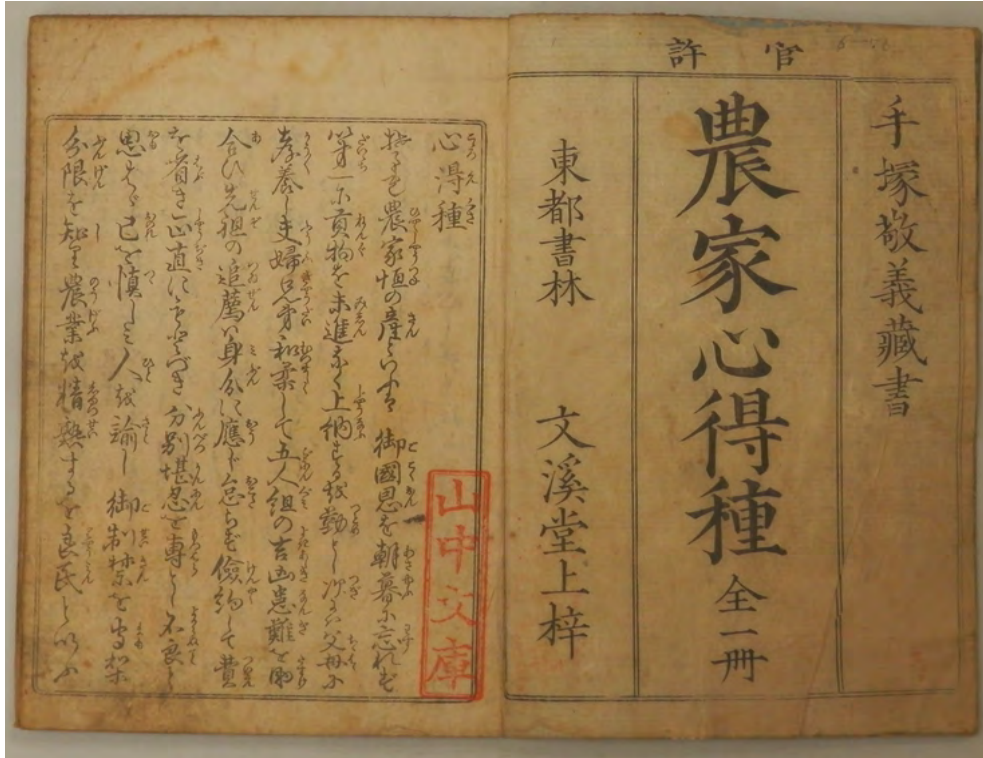
写真2-47-1



2-49.の

書名	農家心得種 全一冊	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	平塚敬義	
出版年	天保14年(1706)	
出版社・地	東都書林文溪堂上梓	
国書総目録へ採録	国書総目録は天保14年	
注記		
表紙写真(1095)		
		
注釈	<p>農民生活の指導を目的とするもので、物質と精神の両面に渡り、前者は消費の合理化から、救荒対策に及び、後者はもっぱら処世教養に関するもので、経営上の注意から当時のいわゆる重農訓の類に及ぶ。民家育草、文章早引、文章かなづかい、田家茶話、日用助食籠(かまど)の類(全)、徳田食鑑、農家心得草、植物能書集、山家薬方集、勸善夜話各論、救荒必覧以上は共に農家、農民の福利と生活向上をはかり、同時に国家的社会経済の発展を促す目的であり、その思想とする所は、生産の充実に農家生活の向上充実にあった。</p>	

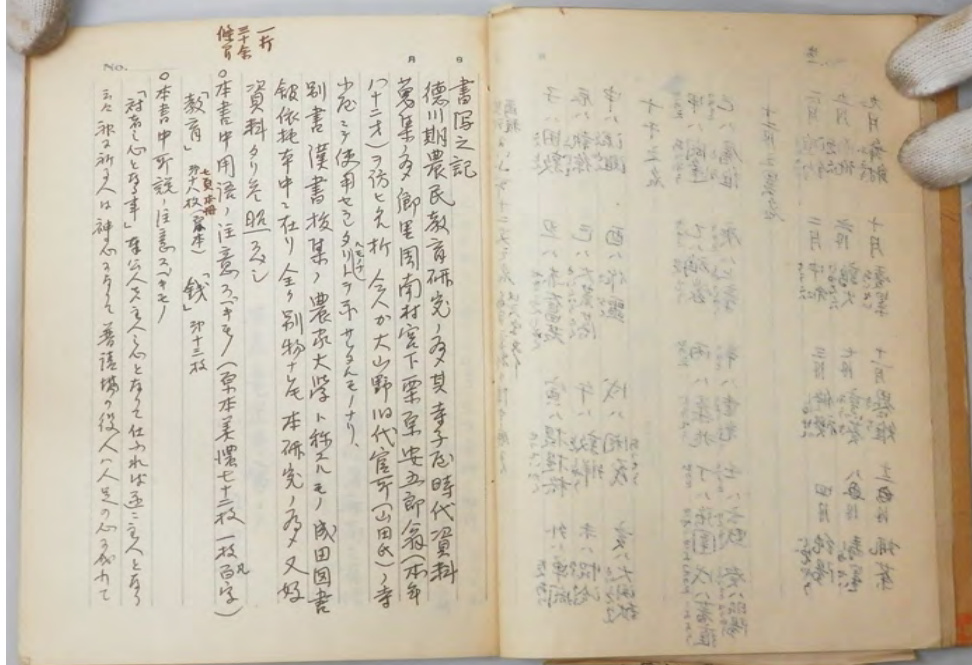
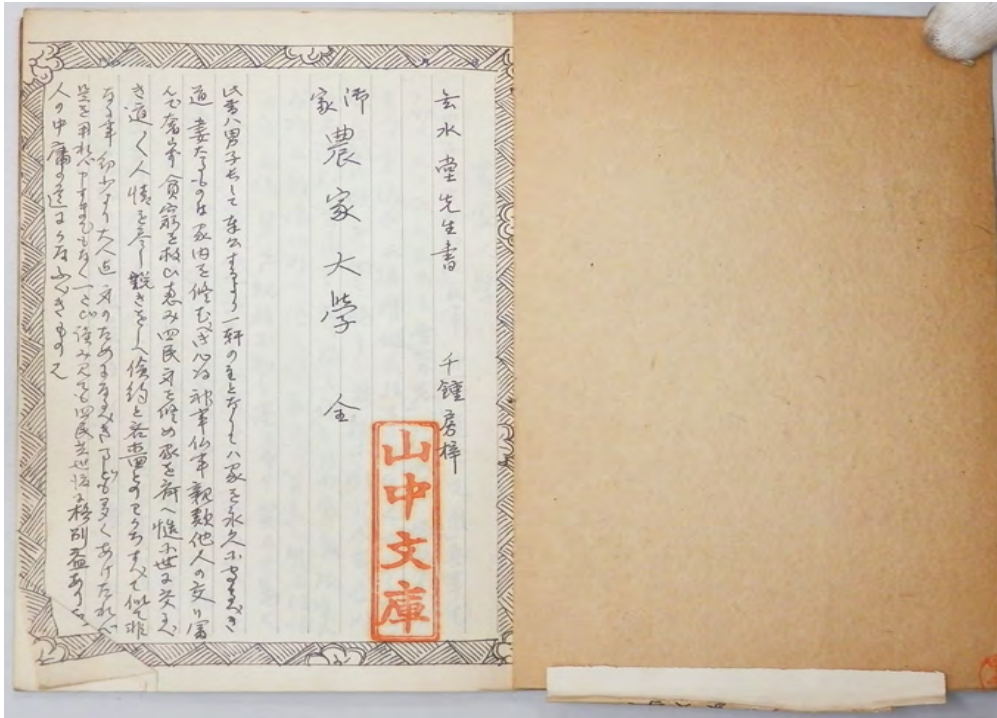
図録2-49-1



2-50・の

書名	(御家)農家大學 全	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	玄水堂先生	
出版年	?	
出版社・地	江戸須原屋茂兵衛	
国書総目録へ採録	国書総目録は文政13年(1830)	
注記		
表紙写真(977)		
		
注釈	別タイトル:農家大學、著者標目:玄水堂・版元?江戸須原屋茂兵衛、文政13年(1830)、(74)も同じ。(＊農家大学⇒御家農家大學 全/玄水堂書?東京大学経済学部図書館所蔵のみ)＊＊安房龍泉寺宿にて:山中教由誌の書き込みあり・・・	

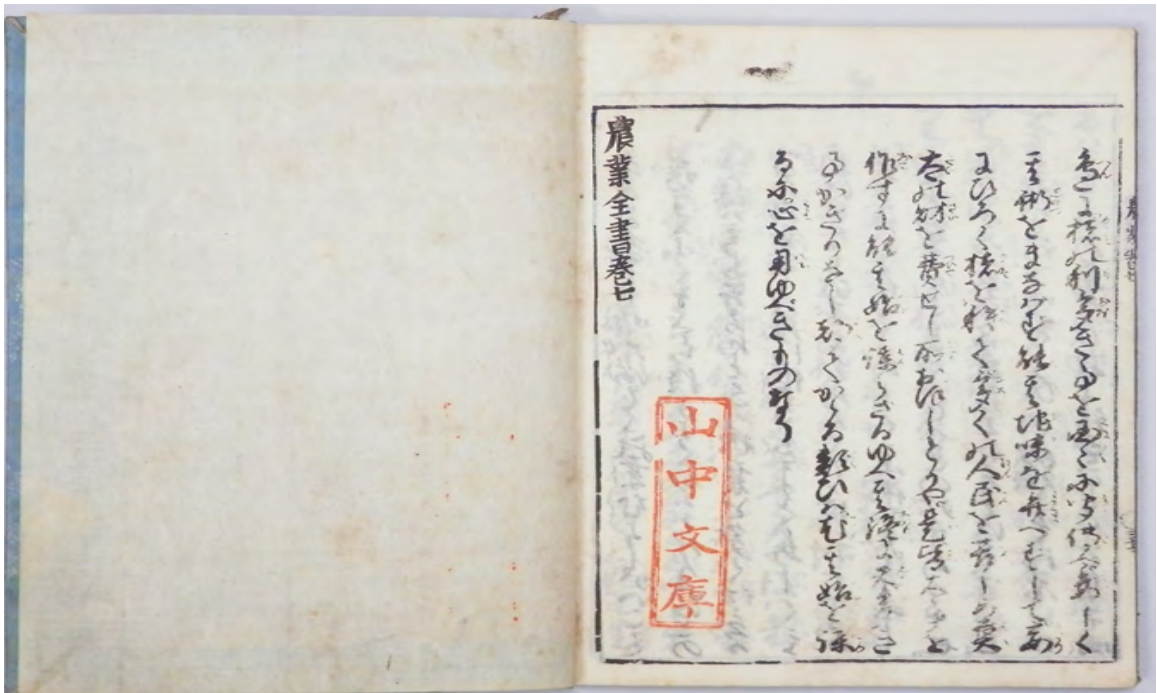
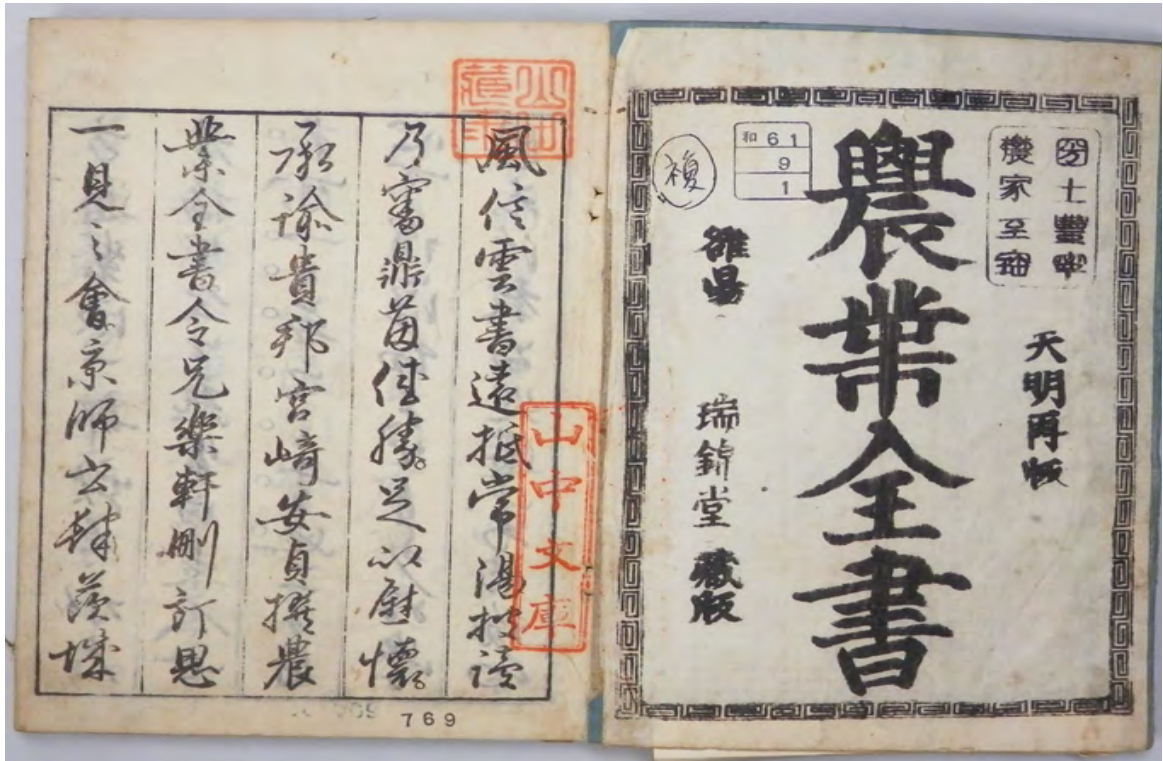
図録2-50-1



2-53.の

書名	(再板)農業全書卷之1・2・3・4・7	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	宮崎安貞	
出版年	天明再版	
出版社・地	京都の書堂 柳枝軒	
国書総目録への採録	国書総目録は元禄10年(1687)	
注記		
表紙写真(1569)		
		
注釈	元禄10年(1687)に刊行された農書。出版されたものとしては日本最古の農書である。全11巻あり、1巻から10巻は、元福岡藩士の宮崎安貞著。11巻は兄貝原楽軒著。(中国の「農業全書」を参考)	

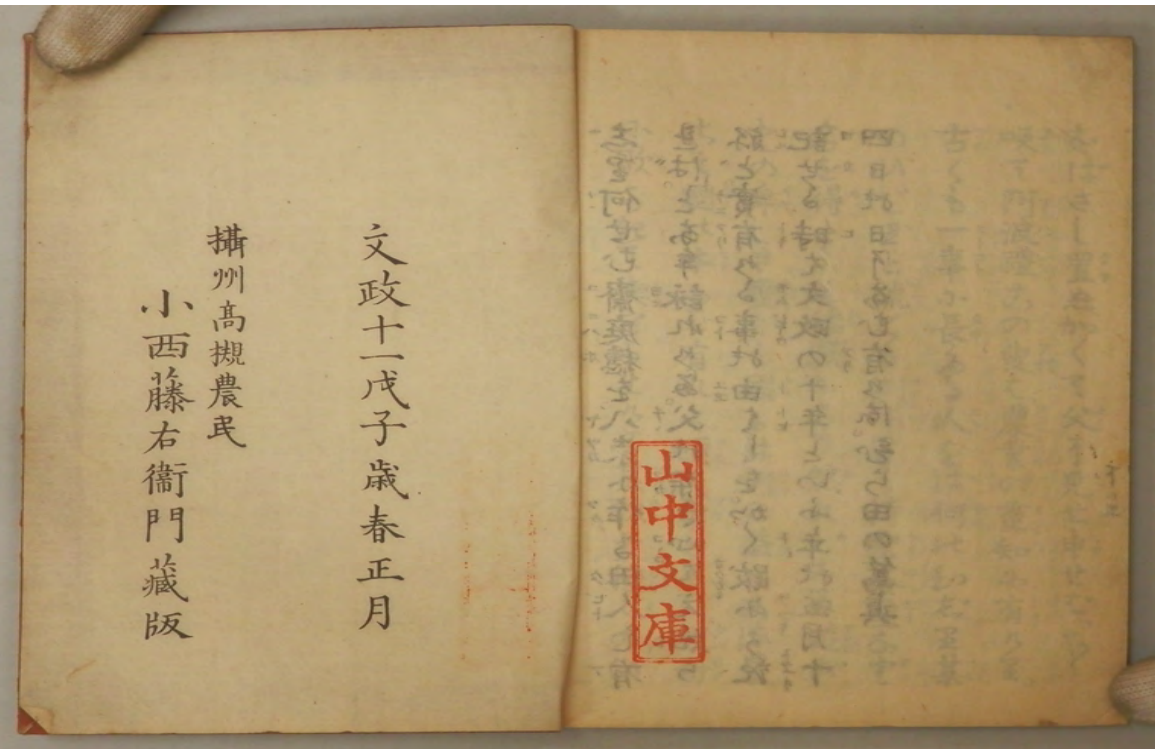
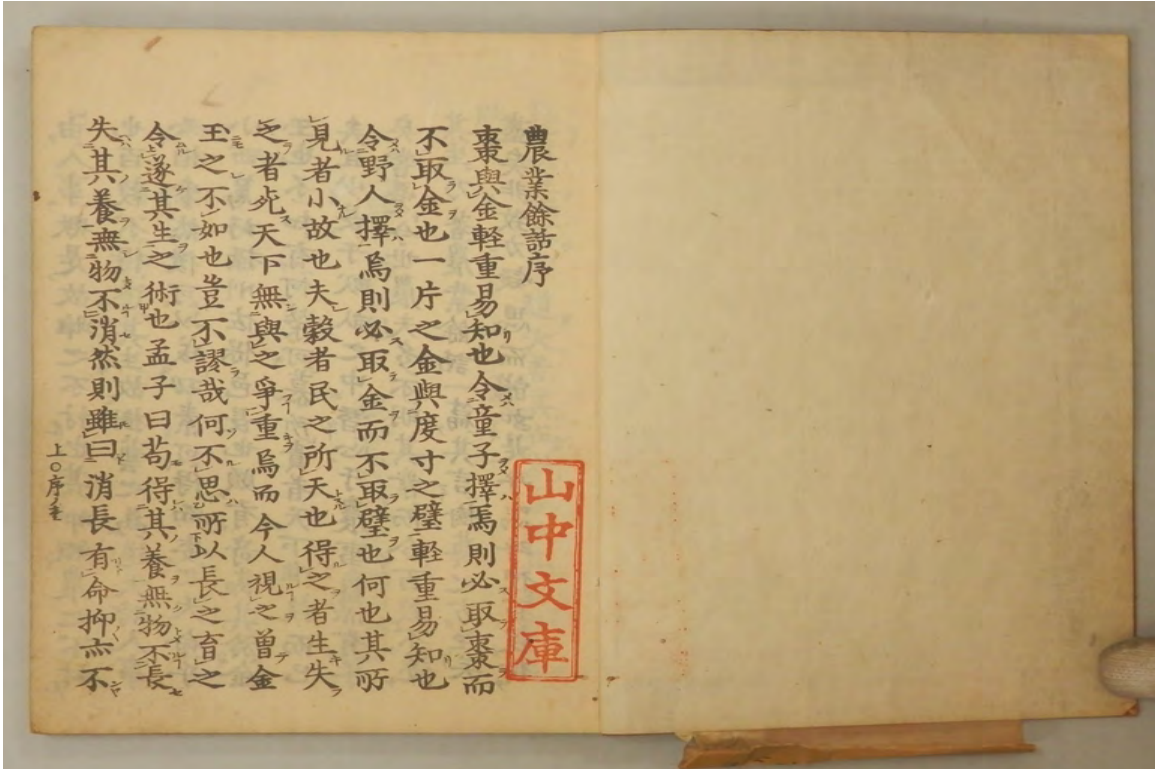
頁 2-53-1



2-56.の

書名	農業餘話(上下二冊)	
冊数	2	
別書名		
著・編者名	(摂州高槻農民)小西篤好(藤右エ門蔵版)	
出版年	文政11年(1828)	
出版社・地	?	
国書総目録への採録	国書総目録は文化6年(1809)がある	
注記	千葉県立中央図書館:滝本誠一/編1929年が有り	
表紙写真(1169)		
		
注釈	著者小西の農業に関する実験談をまとめた板本二冊本で、上巻は専ら米の事を述べ、下巻は綿、麻、野菜等から牛馬の事に至るまで述べ、最後は菓材の部として専ら樹木の事を述べたものである。	

書 2-56-1



2-69・よ

書名	養蚕輯要 全一冊写本	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	玉井市郎治 述	
出版年	?	
出版社・地	不明	
国書総目録への採録	国書総目録は文化10年(1813)である	
注記		
表紙写真(981)		
		
注釈	実地新験生糸製法指南:養蚕輯要補後編.FrontCover:館三郎…Title、実地新験生糸製法指南:養蚕輯要補後編、Author:館三郎、Publisher、吉田屋清兵衛、1874	

3-10-の

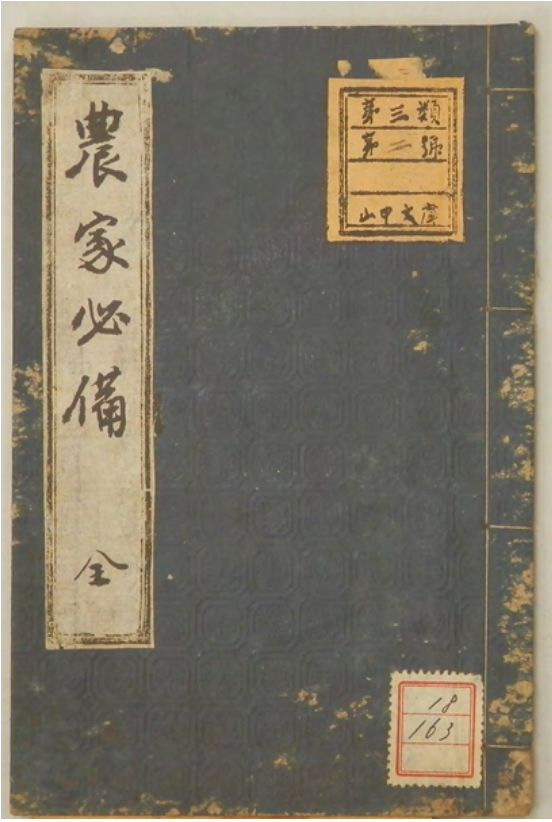
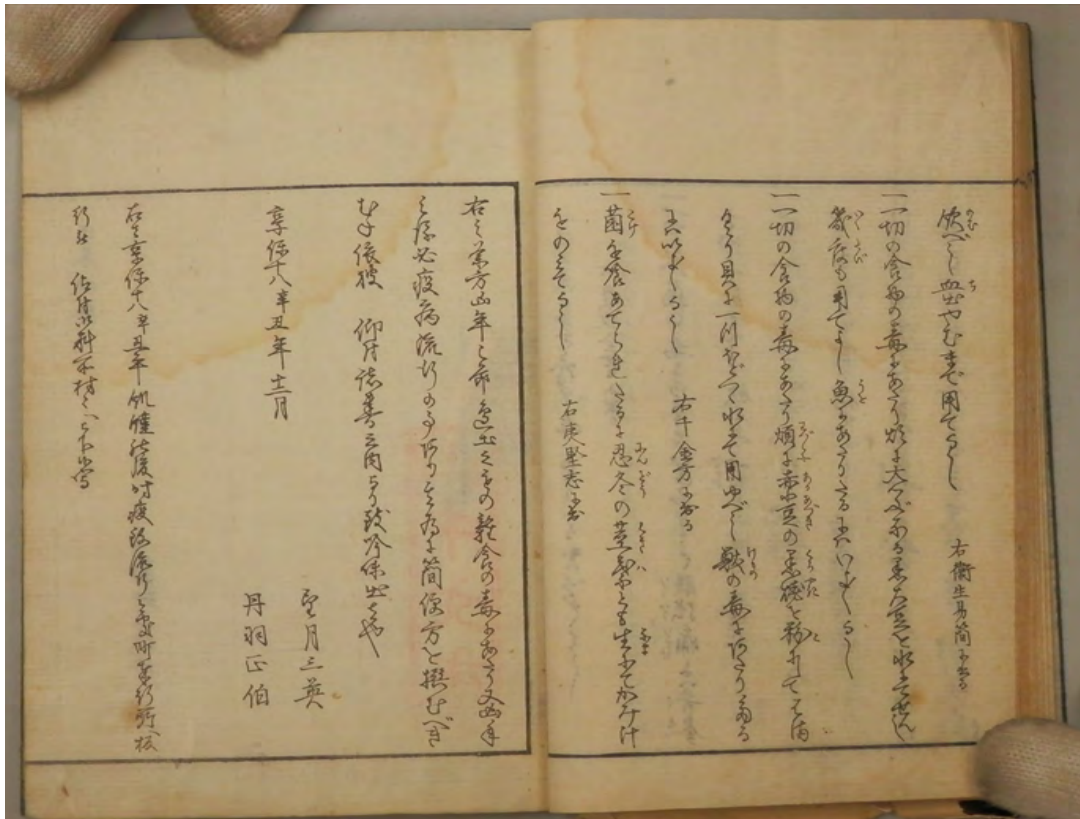
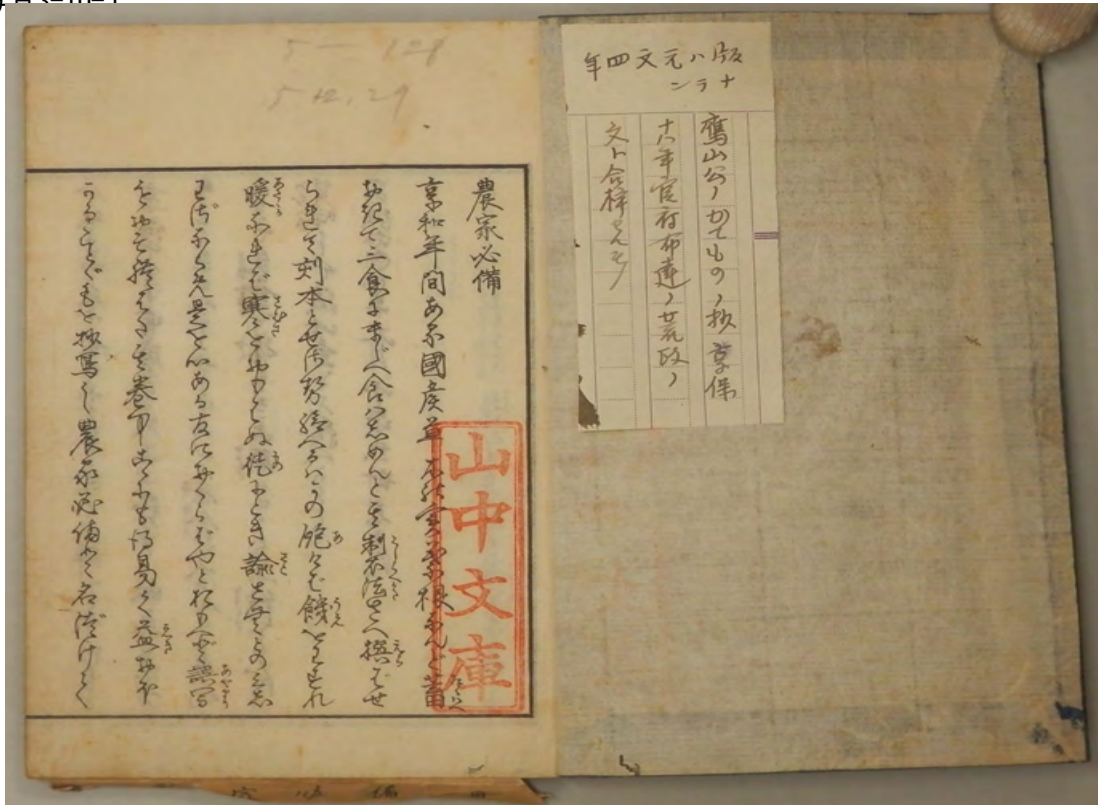
書名	農家必備	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	小泉 氏計	
出版年	安政6年 (1859)	
出版社・地	?	
国書総目録への採録	国書総目録も安政6年とある	
注記	鷹山公の「かてもの」の抄・・・享保18年⇒安政6年	
		
注釈		

写真3-10-1



4-7・せ

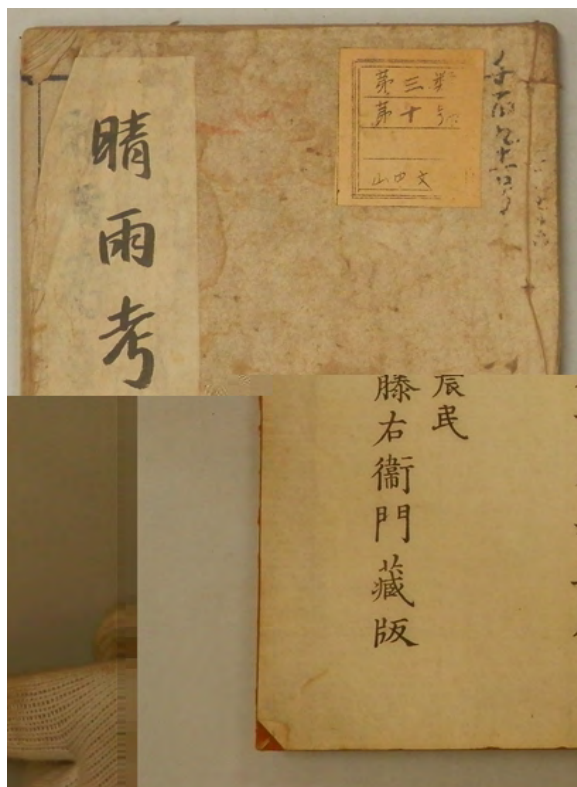
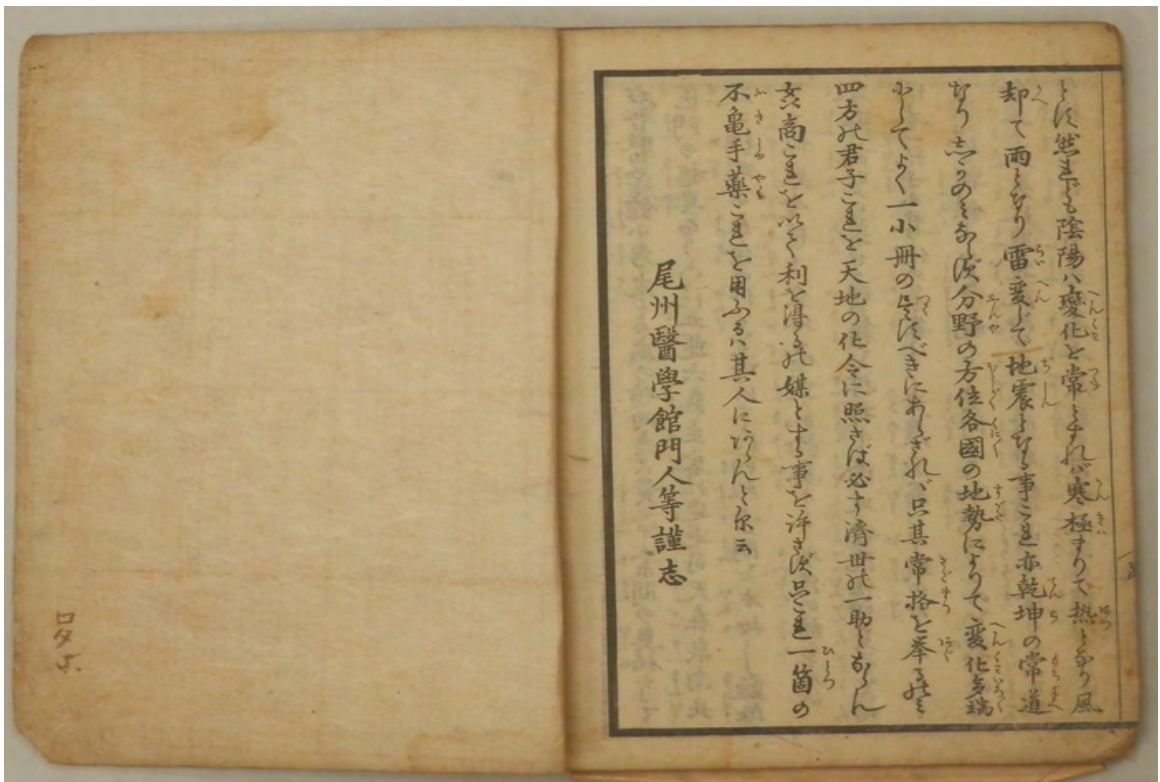
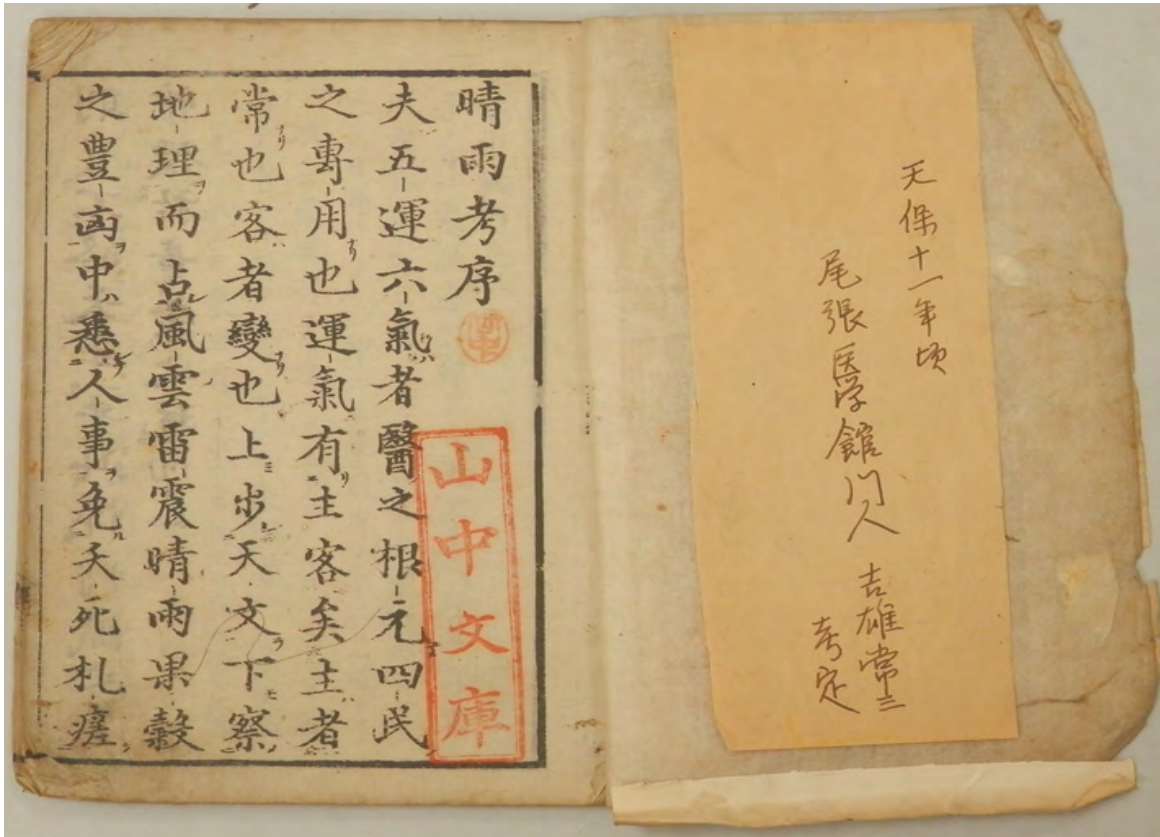
書名	晴雨考 全	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	尾張医学館門人 吉雄常三?	
出版年	天保11年 (1840)	
出版社・地	?	
国書総目録への採録	国書総目録には天保年間とある	
注記		
表紙写真 (1 1 3 7)		
		
注 釈	<p>**扉：尾張医学館門人 吉雄常三 考定とある・・・幕末、あちらこちらで出版された易と経験による気候書。1年間に渡る天気予測が1冊にまとまっている。便利だろう・・・1年間の天候があらかじめわかるのならば。天が人に影響を及ぼす。仙台の場合は、嘉永年間から発行されている。</p>	

写真4-7-1



7-2-か

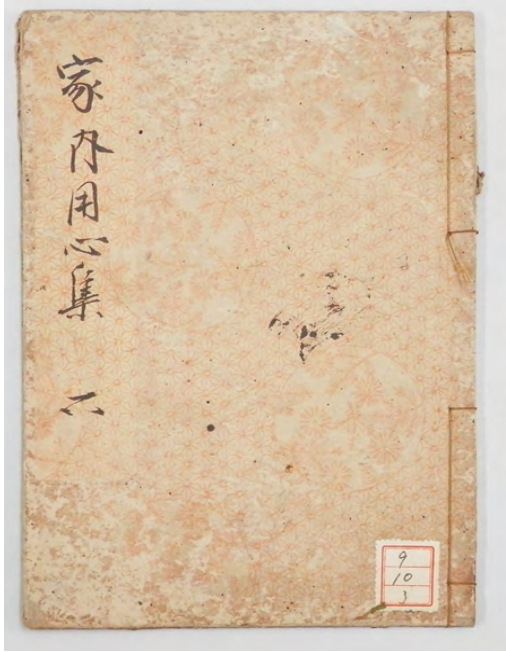
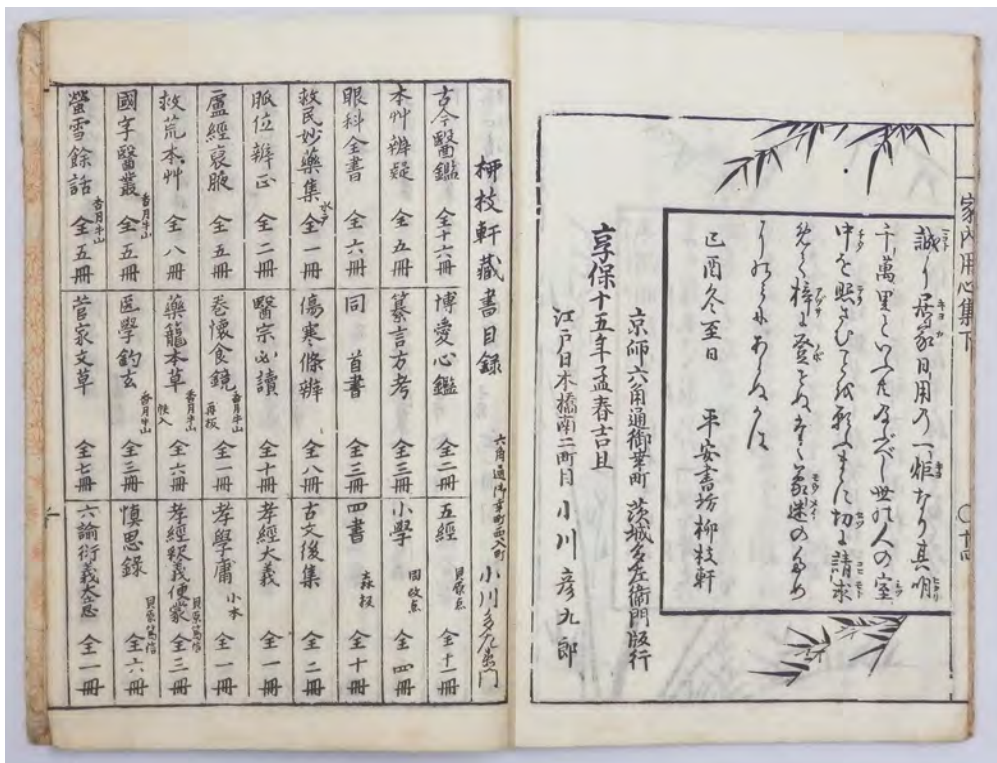
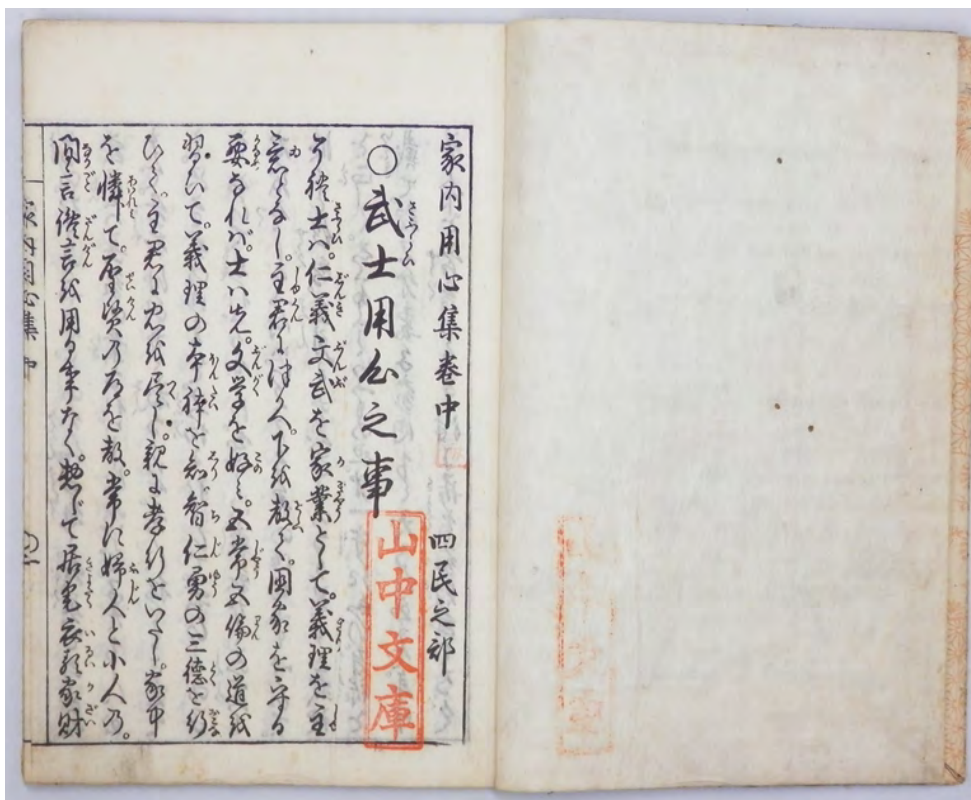
書名	家内用心集 巻中 (サブタイトル: 民家要術)	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	頓宮咲月、宮負定雄	
出版年	享保15年 (1730)	
出版社・地	[京都] 京師書林	
国書総目録へ採録	国書総目録も享保15年である	
注記		
表紙写真 (1665)		
		
注釈	夫婦のあり方、お金の使い方、子供の教育、火事の時の注意など江戸時代における庶民の日常生活の倫理、心得を具体的に説いた生活指導書。「民家要術」を同時収録。〔尾形利雄解説、平野満校訂〕	

写真7-2-1



7-16・み


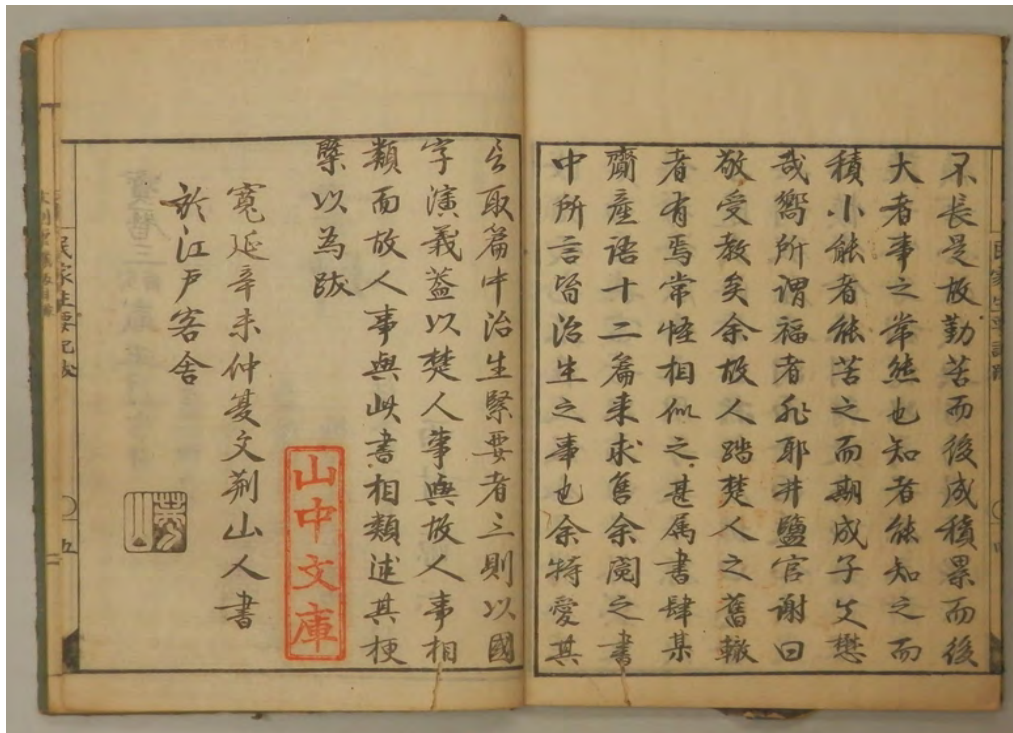
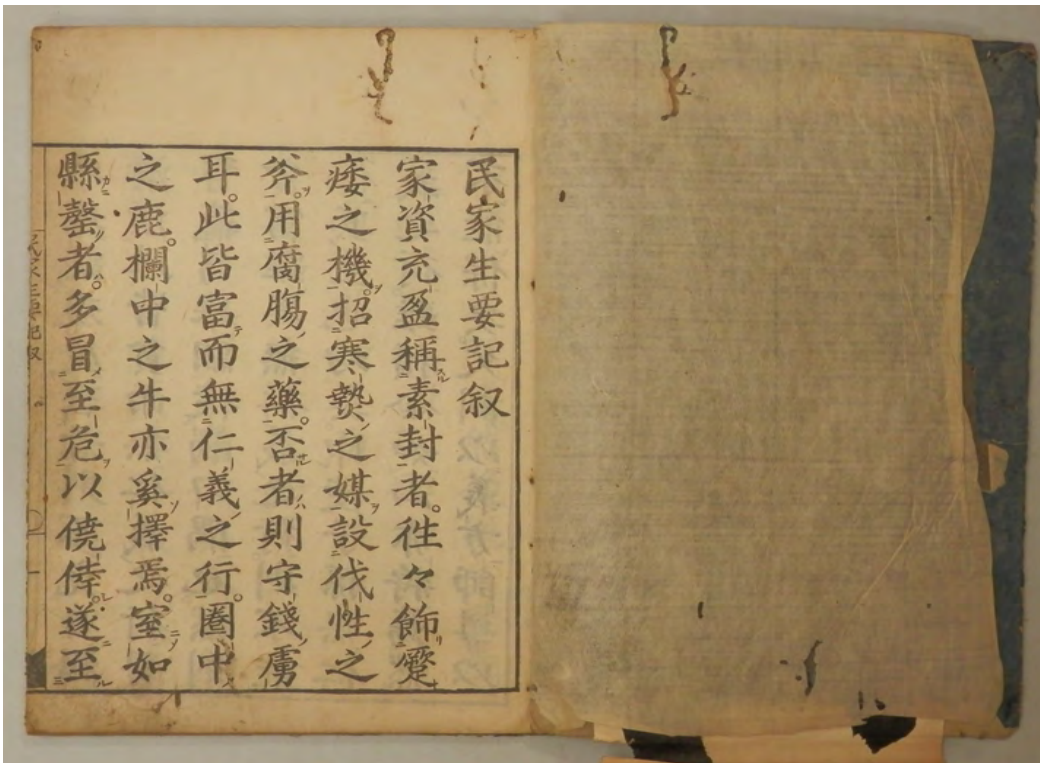
書名	民家生要記	
冊数	3	
別書名		
著・編者名	源 卯	
出版年	寛延4年 (1751)	
出版社・地	西村 市郎右衛門 *国書総目録も	
国書総目録へ採録	国書総目録も寛延4年であり、合致。	
注記	内容：検索不可 検索なし (現物を精査) (成田山仏教図書館蔵書)	
表紙写真 (1 1 8 6)		
		
注釈		

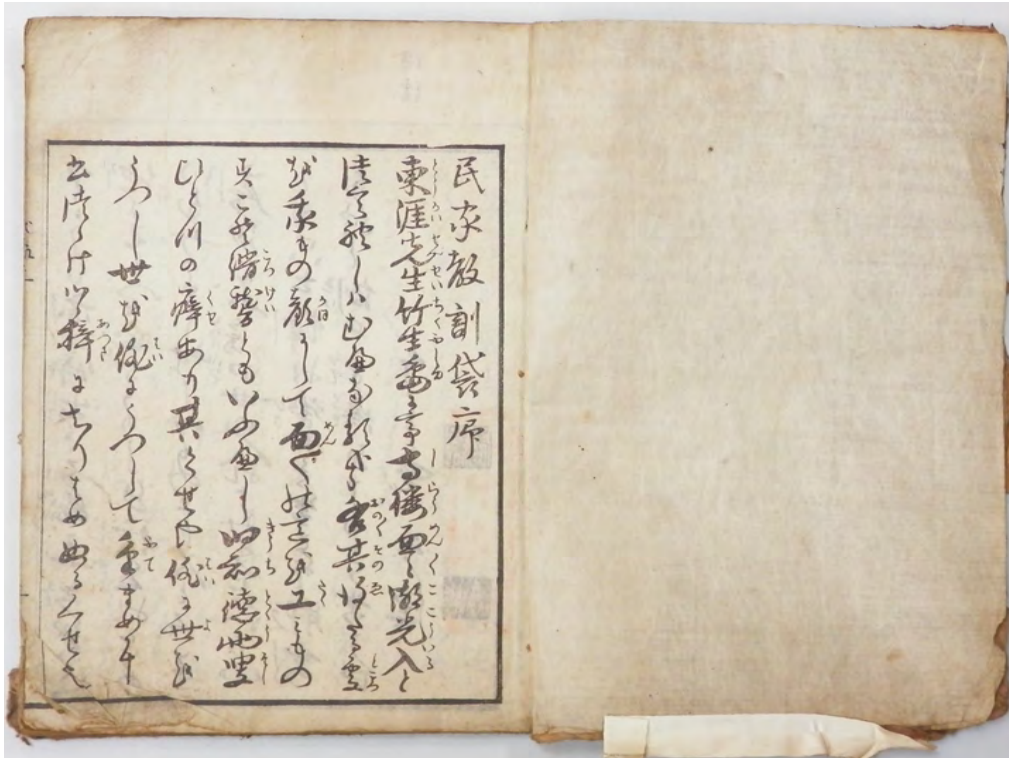
写真1-16-1



9-25・み

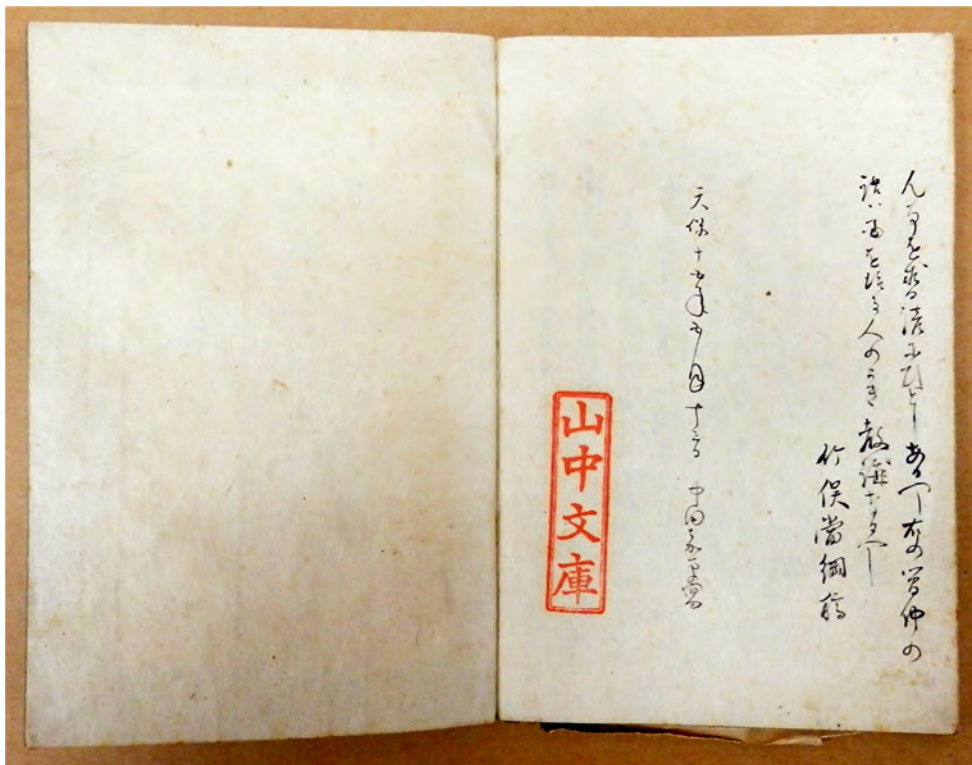
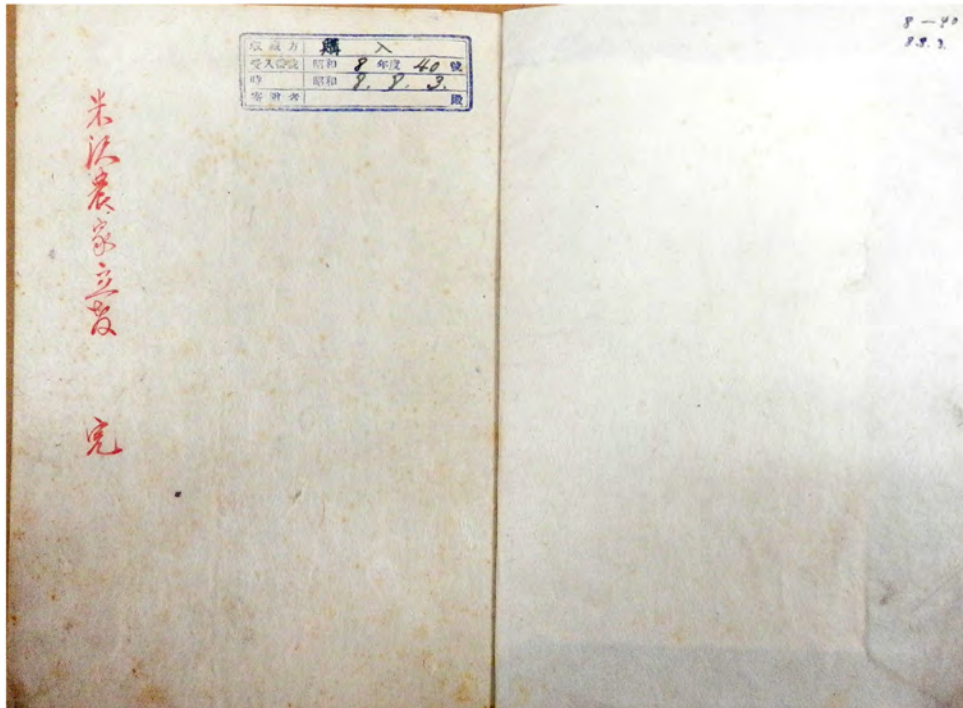
書名	民家教訓袋	
冊数	1	
別書名		
著・編者名	徳雨	
出版年	明和8年(1771)	
出版社・地	書輯	
国書総目録へ採録	国書総目録は明和8年である	
注記		
表紙写真(1422)		
		
注釈	(氏)民家教訓?(袋) 「民家教訓袋」玉川大学図書館蔵(祇徳序・画, 明和8年(1771)1月 作・刊 江戸 川村屋源左衛門板2巻2冊), 「民間さとし草」東京都立中央図書館(特別文庫室)蔵(寛政12年(1800)秋序・刊1冊) **山中文庫拾周年記念絵葉書・・・書き込み有	

写真9-25-1



9-28・よ					
書名	(米沢) 農家立教 全				
冊数	1				
別書名					
著・編者名	竹俣当綱：まさつな (藁科松柏は塾長)				
出版年	天保10年 (1839)				
出版社・地	?				
国書総目録へ採録		国書総目録は天保15年である			
注記					
表紙写真 (1351)					
					
注釈	<p>竹俣当綱：藩政の刷新を目指し、専横著しかった8代藩主・上杉重定の寵臣・森平右衛門を誅殺した。上杉鷹山の安永・明和の改革において、奉行(家老)筆頭として改革政治をリードする。漆・桑・楮の百万本植立や、成島焼、縮織を始めるなど積極的な産業の開発を行う。しかし、天明2年(1782年)、上杉謙信の命日に禁じられた酒宴を行い、その他不行跡を突きつけられて隠居させられる。失脚後も「国政談」「農家立教」など数々の建言書を書いた。</p>				

写真9-25-1



Ⅲ 参考資料・文献

- 1 山中文庫付設農芸研究所機関誌「苑芳」目次
- 2 東京農業大学学士会誌「科学の農業」に投稿の
山中進治の論文一覧（論文例：農産研究の體系）
- 3 「安房同人誌」からの抜粋
- 4 参考文献と関係資料一覧



東京農業大学学士会発行「科学の農業」

1 山中文庫付設農業研究所機関雑誌「苑芳」(元会員：故九島行正氏作成)

山中進治氏の付設農業研究所を介しての夢は、苑芳15号までに最も詳細に表わされていると思い、苑芳の目次を紹介する。

苑芳 第1号～第15号

苑芳：第1号～第11号、第14号

芳苑：第12号、第13号、第15号

苑芳第一号 (大正13年4月14日)

発刊之辞 昨秋11月、研究所を設置し、・・・本所機関雑誌苑芳第1号を発刊する・・・

修養欄：豊島刑部及び外四士の事

農芸欄：農芸革進の途 農学界の変遷、品種改良

銅石鹼液と石灰ボルドウ液との比較研究

馬鈴薯栽培を勧む 緒言、馬鈴薯の蛋白質の価

家郷欄：思郷 上総国史要事表

国家社会欄：国字問題 科学小話：科学の力

所友欄： 研究所記事： 文庫通信： 編集部より：

苑芳第二号 (大正13年7月)

修養欄：豊島刑部及び外四士の事(2) 血気を戒む

農芸欄：農芸革進の途(2) 新品種を生ずる三つの法 補助食品数種 銅石鹼液製法

家郷欄：上総国史要事表

国家社会欄：国字問題(2) 農村問題を患ひて農民連盟へ加入を勧む 所友欄：

文庫通信：一読を御勧めする書物

研究所記事： 編集部より：

苑芳第三号 (大正13年8月)

農芸欄：農芸革進の途(3) 補助食品数種(2) 保健食料

家郷欄：故海老名昌一先生の霊に 伊豆大島波浮港開祖秋広平六略伝

国家社会欄：国字問題(3) 小作組合 科学小話：米国の素人無線電話

文芸欄：文芸欄の新設に就いて 文学の目的、若き闘士、嵯峨野の奥、露草

所友欄： 文庫通信： 研究所記事： 編集部より：

苑芳第四号 (大正13年9月)

修養欄：兄弟語 真の知は行なり・・・ソクラテス

農芸欄：第二期秋蚕飼育の要諦 乾粃に就いて(p.13)

家郷欄：伊豆大島波浮港開祖秋広平六略伝(2) 故海老名昌一先生の霊に(2)

文芸欄：銀の音色を遂ひ行く人々 青ざめたる魂 或日の記 所友欄：

研究所記事：上治寅次郎氏の來所、製品及び生産品展覽、トマトソースの製造

文庫通信：新着書籍、農民自由大学講義録の發刊、日本精神研究叢書の刊行

編集部より：

苑芳第五号（大正13年11月）

修養欄：先学語 「不殺己」・・・（注：勝海舟『氷川清話』「人間の相場」項の文）

人の自ら穢るる外、他人より穢すこと能はず・・・苑芳

青年の覚悟・・・石井生

農芸欄：印旛郡富里村大竹泉一氏の農業経営 稲田一反歩に要する水量

土砂取りの工程標準

科学小話：米国の素人無線電話（2）・・・（注：詳細な解説）

文芸欄：山里の夕暮れ、笑話、近咏二首、山里の秋

所友欄：

研究所記事：ケチャップの製造、香料採取、シャンピオン茸の試培、栗の実及菌草（キノコ、

きのこ）類の缶詰、苺苗及蕃茄（トマト）種子分譲、空瓶買取

研究所設立記念日講話会

文庫通信： 編集便り：

苑芳第六号（大正14年1月）

年頭之辞

修養欄：少壮と成人 余を深く動かせる言

農芸欄：マシルーム 養兔業経営 最近農事関係の論文及著作

文芸欄：現代語小鮮 生命の二分列

文庫通信：近着書

家郷欄：故海老名昌一先生の靈に（3）

研究所記事：記念日試食試用会 実験室 農場

所友欄： 編集部便り：

苑芳第七号（大正14年2月）

卷頭語：不貴利口捷徑・・・山鹿素行臣職論

（註釈）人は頭に於て賢なるなかれ、寧ろ脚に於て賢なれ・・・小林雨峯師書簡

修養欄：白鹿洞書院揭示

農芸欄：蚕業の経営に就て 蒟蒻栽培要説 毛皮製法 最近農事関係論文

家郷欄：故海老名昌一先生の靈に（4）

科学小話：十三年度に於ける科学界の進歩

文芸欄：余の新年感 現代語小解 研究所記事： 所友欄：

苑芳第八号（大正14年7月）

卷頭：汝の国の青年を吾に示せ 吾汝の国の運命を語らん

修養欄：余を深く動かせる言葉・・・南洲（西郷隆盛）翁遺訓

西遊記抄（松陰先生遺弟岡部利輔氏、渡辺高藏氏訪問の記）

農芸欄：農産物増収剤 馬鈴薯栽培を勧む 種子消毒剤について

研究所記事： 農事参考品陳列場設置に就き

苑芳第九号（大正15年5月）

索書告：『農業全書』を索む・・・（『農業全書』普及状態調査）

巻頭：汝の国の青年を吾に示せ 吾汝の国の運命を語らん

修養欄：栢山の孤燈 農芸欄：大正十四年度に於ける現代農事文献 蒟蒻栽培に就て

研究所便り： 文庫通信：

苑芳第十号（大正15年9月）

索書告：『農業全書』を索む 巻頭：汝の国の青年を吾に示せ 吾汝の国の運命を語らん

修養欄：心の住家 結婚式の日

農芸欄：滋養豊富なる味噌の改造法 馬鈴薯餡の製法と其効用 本県特産物と其生産者

文庫通信：第六次書籍探訪旅行収蔵書 近時収蔵の良書 書籍目録に就て

写真絵葉書文書標本の収蔵

千葉市八百年祭に際し、開催の千葉県史料展覧会へ当庫より出品せる目録

宮負定雄氏肖像、農業要集写本（宮負定雄著）、草木撰種録版本（宮負定雄著）

宮負定雄考（山中進治編）、江見農書

研究所記事：農事参考品陳列場設置会計報告 第二回農産製造講習会予告

苑芳第十一号（昭和2年8月）

巻頭：汝の国の青年を吾に示せ 吾汝の国の運命を語らん

修養欄：思うこと 迷、悟・・・小林僧正書簡より 栢(か)山に帰る日

農芸欄：関東大地震と植物との関係 研究所附設の当年を偲ぶ（研究所設立趣旨ほか）

本所農産研究の体系 農事試験実験の二三 馬鈴薯味噌製法、馬鈴薯パン製法、

文庫通信：諸名士の来庫、発表論文、文庫収蔵数

研究所記事：第二回農産製造講習会、研究所設立記念日懇話会、講演会へ出講、

少年園芸会学芸会、近時研究事項 雑報：

芳苑第十二号（昭和3年10月）

巻頭：汝の国の青年を吾に示せ 吾汝の国の運命を語らん

修養欄：語 桜町の秋雨 人の一生七十年の総勘定 労働神聖の科学的根拠

農芸欄：関東大地震と植物との関係に就て（2） アスパラガスの越冬法に就て

独活に就て 近時余の研究しつつある病虫害 甘藷に関する試験

柑橘ジャム実験 簡易鞣皮法 昭和二年度に於ける実験調査

文庫通信：県立図書館の「明治初期の新聞紙展覧会」に山中文庫から2点出品

平群村龍泉寺で山中文庫収蔵支那農書展覧会開催

文庫記念日懇話会、東京日日新聞に当文庫記事など

研究所記事：研究所分担組織など 編集部より：

芳苑第十三号（昭和5年1月） 十周年記念号

記念式 式辞 祝辞 寄贈品

創立以来図書寄贈者 同 標本書画写真類寄贈者など

現況：収蔵図書 3,265部 委託図書 282部 標本類 392点 事業予定など

将来の企画

本庫十年間に於ける研究発表 新聞雑誌の本庫事業の紹介

文庫十周年記念式並に記念碑序幕式

図書及び図書館のことも：図書館教育、書籍の徳、一国の文化と図書、日本図書館の歴史

苑芳第十四号（昭和5年12月）

巻頭：汝の国の青年を吾に示せ 吾汝の国の運命を語らん

修養欄：松陰先生の御最期

農業欄：山村に対する水陸稲試作成績報告書

農家労働表 家事労働表 茄(ナス)剪定試験成績 糠味噌漬の塩分に関する研究

液体酵母による麵麩(パン)の製法 平砂浦開墾団趣旨並規約

烏丸家所伝「山水抄」を発見す。極めて貴重なる日本造庭園芸の書

文庫彙報：近時の研究発表 文藻の発表

烏丸家所伝「山水抄」の発見

近時の研究：徳川時代の農民教育、皆済目録による租税、日本に於ける齊民要術

旧農村に於ける市場、朝鮮農書の研究

読書週間に於ける本庫の催し 昭和五年寄贈図書目録（43件）

昭和五年寄贈標本絵葉書類目録（14件）

研究所通信：時言、本所の継続事業、近時研究調査の対象、平群補修学校に於ける研究事業

安房科学農業研究所事業（蓄牛飼料、嶺岡牧場の歴史、他）、

奥澤福太郎氏の安房園芸村の草創、西川光二郎氏の自働道路、雑誌「台所」ほか

優良種子の配布 製品の販売 研究発表冊子

芳苑第十五号（昭和6年12月）

修養欄：生死語「死を見る」・・・（注：「死を視ること帰するが如し＝大戴礼(ダライ)の曾子の言

＝従容として死を恐れないことにいう」に類似)

農芸欄：山村に対する水陸稲試作成績（2） 秋播馬鈴薯成績 馬鈴薯味噌を勧む

速成福神漬に関する研究 初茸壘詰法

文庫彙報：「日本に於ける齊民要術の研究」を発表、徳川期農民教育資料展覧会（北条町善導館で開催）、安房郡海発邑草創調査旅行 など

昭和六年寄贈書目録（68点・・・書名、寄贈者名）

読書週間推薦図書（勅語四十年、吉田松陰と其教育、仏独白諸国、健康食事の仕方、

南洲翁遺訓、最新園芸講座、沖の小島、大日本農会報

徳川期農民教育資料展覧目録（一般往来物＝寺子屋教科書 26、農家往来物＝農家教科書 21、農家読物＝農家教訓経営 19、農書＝旧日本農学 24）

・・・全書名の一覧あり。

別類（泰西農学、稲穂草木撰種男女略図、盲暦＝南部暦、宮負定雄考、美作農書考証、幕末農学者の業績、徳川期農書博物書著述推移之表）

研究所通信：補助食作物の試作、テレピン油採収用仏国海岸松の下種、馬鈴薯味噌講習会

安房郡教育会農産加工講習会指導、研究所十周年記念事業「機械之墓」

安房科学農業研究所の事業、平群農業補修学校の研究事業、種苗分譲

2 東京農業大学学士会誌「科学の農業」に掲載、山中進治の論文一覧

(山中進治書籍論文目録:山中家道氏所蔵資料による)

1. 宮負定雄考一隠れたる幕末の農学者 第5巻 第1号 T13年2月
2. 農村研究の根本資料 第6巻 第1号 T14年1月 農村研究の意義 史料的農村研究の第3期二編とも手書きの原稿の複写あり
3. 「斉民要術」の存所を知り得て「兆民本業」の存否を思ふ 第6巻第5号T14年9月
4. 高山寺本「斉民要術」写真を寄するに就いて 「高山寺本 宋版『斉民要術』」の巻第5、巻 第8の目次も登載
5. 支那農書の翻訳者 山田好之氏に就いて 第7巻 第7号T15年9月
6. 農業全書版行に就いて(14ページに亘る大書) 第8巻 第1号S 2年1月
7. 農産研究の体系一都会に遠き畑地農業の研究要綱一第8巻第12号 S2年12月
8. 支那古書解題 第9巻 第1号S3年1月
9. 山中文庫概況 第9巻 第4号S3年4月
10. 原稿本 美作農書考証(書き出し)徳川期に成れる無題の農書一卷を発見し、其出所、年代、著者等を考証す 第9巻 第12号 S3年12月
11. 補綴 宮負定雄考一隠れたる幕末の農学者一 第10巻第2号S4年2月
12. 千葉県下における幕末農学者の業績並に其遺著に就いて第10巻第10号S4年10月
13. 十字花植物の根に就いて第11巻 第1号S5年1月 長居賢作と山中進治の共著
14. 本邦図書館の歴史(千葉県読書週間演会にての講演内容) 第11巻第2号S5年2月 講演はS4・11・24に行なっている
15. 産物起源雑談 第11巻第6号S5年6月
16. 烏丸家所伝 「山水抄」ヲ発見ス 第11巻第11号S5年11月
17. 日本における斉民要術 第20巻第1号S6年1月 目録で見ると限り山中文庫は以下の5巻を有していた
 - ・北宋槧 斉民要術 残本 羅氏 刊
 - ・説郭本 ・崇文書局本 ・四部叢刊本 …… 以上4点は支那刊本
 - ・山田好之刊本 …… これは日本刊本
18. 農桑撮要略考(又農業衣食撮要)支那 元代の農書 中華民国 萬国鼎著 山中進治訳

(論文例)

農 産 研 究 の 體 系

都會に遠き畑地農業の研究要綱

千葉山中文庫附設農藝研究所長

山 中 進 治

本所農産研究の事業も大方の後援に依って爰（ここに）第一次目標の達成を遂げ、近く一冊子として四ヶ年研究の總體を發表するに先立ち、一應本誌を通じて研究體系の要を御承知願うことも亦一法と存じまして、大略を載せて御目にかけることゝ致します。

最初は莫然農家の爲すべき「有利なる仕事」と云ふ標準で索（もと）めたのでありましたが、暫くして次の如く目標を立て順序を考へて進むことにしました。

第一次目標 都會に遠き畑地農業の研究

第二次目標 山林經營の研究

第三次目標 水田地農業の研究

右第一目的を達する爲に先づ一期二年とし、一期又は二期間に此目的に達成したいと考へました。

第一年の末頃に馬鈴薯米の經濟價値を發見し、其の衛生的嗜好的調査を致しましたるに至極良好でありました。故に進んで栽培的性狀特に氣候土質に對する點及び其歴史的研究をも重ねて、明（あきらか）に日本国民の補助食品たる地位を認むると同時に、本邦農村の急を救ひ農家經濟を一變するに足るべき作物たることを認めました。

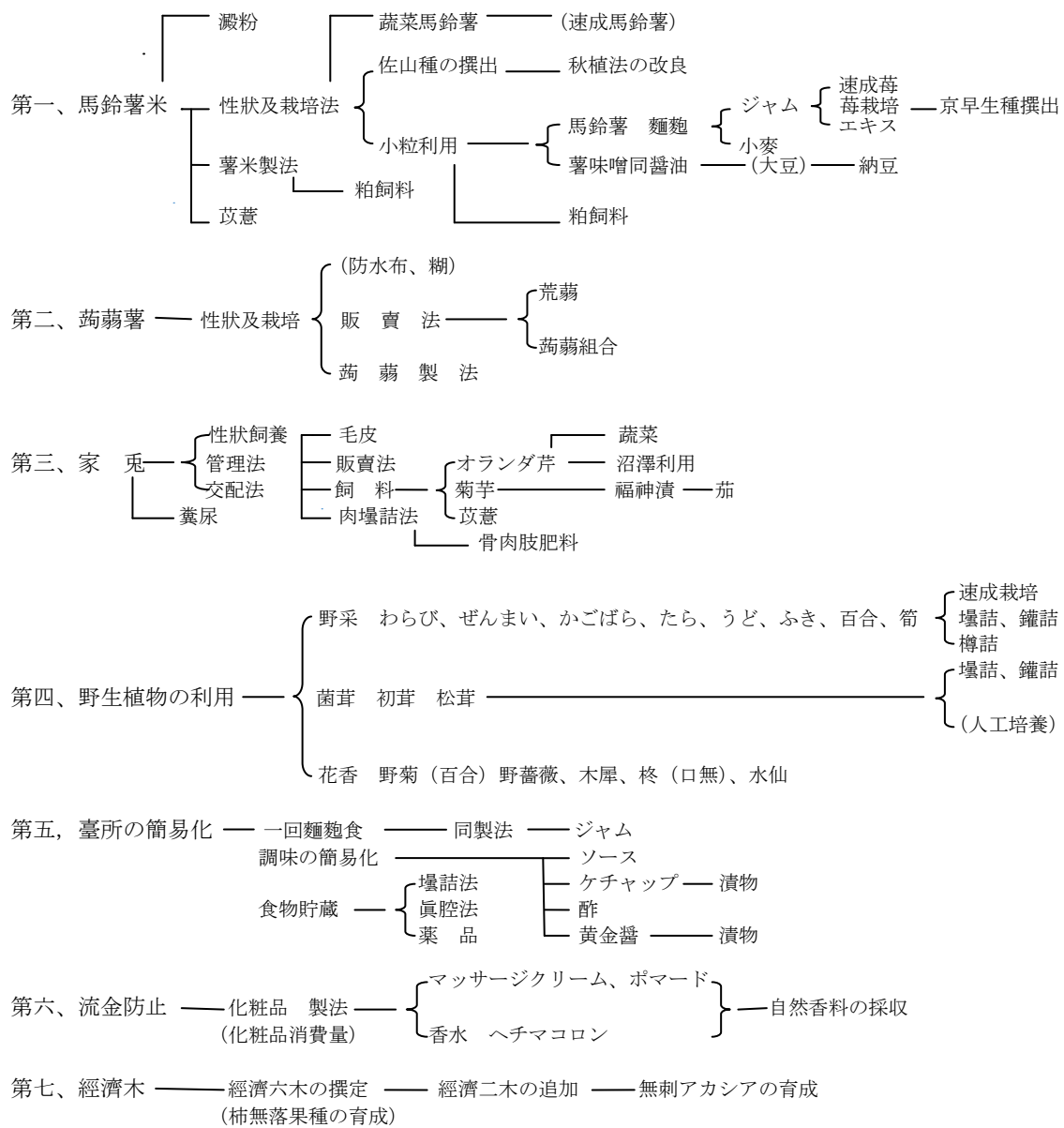
依って以後本作物を研究の中心となし、本作物の性能をして益々充分に發揮せしめんと致しました結果は、次の如き體系を成したのであります。併（しか）し馬鈴薯米は將來は別として目下としては考へざるを可とするを以て、馬鈴薯を以て自家自衛の作物とし、之に對して収入主眼の作物として蒟蒻薯を撰びました。（理由省略報告書に記載以下倣之）此研究が即ち第二の體系を成しました。以上の二植物に對して動物として家兎を採りました。農業は作物と家畜と併せ持ちて肥料飼料の交換をせねばならぬからであります。之が第三體系であります。

以上は根本から農人が其生産活動に與らねばならぬものであることから、凡（おしなべ）て人爲なるに對して第四に天然物利用の研究を考へました。以上の生産活動に對して消費經濟の研究が第五、第六の體系を成しました。

西洋の諺に「夫が鍬で收穫たものを妻が匙で掬（すく）ひ出す」とあるが如く、臺所の經濟、臺所の簡易化は頗（すこぶ）る注意すべき問題であると思ひます。若い女子を持つ家庭でするすると化粧品に流れ出す御金の高は知らぬが、佛知ったら大變でございませう。凡そ之等の品々は容器とペーパーに多額の費用を投じ廣告費を惜しまず中繼者小賣店にたっぷりの口錢を付け、原料費と云へば或種のものに於ては其定價の十が一にも及ばない（香料を別として）即ち諸嬢は容器を買いペーパーを買って居るとも云へる。茲於（ここにおいて）六の研究を試みたのであった。

第七の經濟木とは昔の所謂「金ノナル木」である。餘り手をかけないと思ひがけぬ

収入を得ると云ふ途を考へておかねば中々農家はやりきれぬ。従つて、此方の収入は經常費外に置くことを本體とし、不時の支出に充てゝ行くと云ふ意味で最後に隔立したのであります。



表中垂線は研究本系、角線は傍系で、つまり研究對度に輕重を生じて居ります。第一體系に於て本系より右 (向かつて) にあるもの、第二より第四に於て本系及其右に存するものは販賣目的のもの、残るところは家庭を目的としてゐるものである。括弧内にあるものは不幸にして未だ思はしき成績を擧げ得ないものであります。

凡そ是程の構慮の下に研究を續けたのであります。

馬鈴薯米の價値は茲に本文は數頁を以て研究の概形を發表する豫定でありますから、所詮此各體系の内容及び七系の關係を充分に説明するの餘白を有しませぬ。依つて第一系統の大要だけを申上て置き、他は後日別冊報告書によつて御覽を願ふことに致します。先づ馬鈴薯米の價値第一に其經濟價値から申ませう。馬鈴薯より作る人造米は乾燥重量に於いて一割五分強、即ち反収生薯四百貫とすれば人造米六十貫餘を

得ることゝなります。反収四百貫は可成り控え目の見積りであります。當所の試作では七百九十餘貫の例もあります。各地試験場は凡そ六百貫を報じて居ります。人造米一升は成品の細粗及び量り方によりまして、二百匁より二百六十八匁迄の相違がありました。一升櫛を以て數回量って見るに大體二百四十匁と見て宜しいと存じます。

故に六十貫は正に二石五斗、之を四斗俵として六俵一斗を得ます。之を營養價を以て米に比するに米一升（三八〇匁）に相當する馬鈴薯米は九合五勺（二二八匁）となりまして反當六俵二斗四合六勺弱となり、都會を去ること遠い畑地は從來非常な厄介物視せられてゐたものが、一躍良田と立ち並ぶことになったわけであります。

而て此人造米を内三割で米に和して炊くに於ては、氣付かずに喫してしまうものが多いほどに感じに於いて一向差支ないものであり、衛生的に甘藷のやうに瓦斯發生などによる即ち消化器異状は更に起こさないもので、單に煮食するとき感ずる一種の馬鈴薯風味なるものは、人造米製造時に一夜浸水することによって之等アルカイドは全く溶解し去って、成品は其何物より生じたるかを知ることの出來得ぬ程度に無味無臭となる。只遺憾とするは蛋白質に於いて米の六、八に對し馬鈴薯米の四、八なることである。依つて之を苡蕒（ハトムギ）の混用食更には副菜として納豆、兎肉に得やうと考案したのであります。之で表の初めに見へます苡蕒との關係が御判になったことゝ存じます。但し之は僅の欠點でありまして以上の用意で充分補はれて餘りあるのであります。

即ち苡蕒には十七%からの蛋白質を有します。故に混合飯一升到五勺の苡蕒を投じましたならば充分なわけであります。之を歴史的に考へれば英國アイルランドに於ては之を永く常食とし、獨逸も亦之を國策に取り入れ補助食となし、何れもあの通りの文明國民を養ひ成してゐるを見ても何等懸念のない所であります。日本に於ては幕府時代に岡田某が岡田無水開辟法と云ふ一書を著して、栽培上消費上の數字を示し可成詳しく實驗せられたことを發表して居ります。自分は此書名を聞くことは古かったが、實際に翻讀したのは遂昨年秋のことで、當時非常な悦びを以て讀了したのであります。是則本書が當所の研究主張を裏書するものであったからであります。

日本博物年表に依れば、此書は其後明治政府の地方廳某々所に於て、二三回複刊して農民に配られた事が見へてゐる。此植物の栽培上に考ふるに又頗る容易なる作物であつて、土地を撰まず原産地が冷涼な高地であつただけに甘藷より頗る北方に延長することを得、日本の頭痛である東北地方には持つて來いの作物である肥料も少なく（當所は常に麥（ムギ）作時の施肥料を標準とす）手入も簡易で期間も短く、アリーローズ種は年二回収穫することが出来る。當所は此性狀を調査し栽培法を試験し、傍ら薯米製造上の數字を決定せんことに勉めた。薯米製造に當りて薯塊の細切りせらるゝ爲め、一部の細胞は破壊せられて澱粉粒を漏し器底に沈澱を生じます。之を適当に所理しますと凡乾燥米の十分の一量の美事な澱粉を得ます。即ち一反収量製米よりは六貫以上の澱粉を挙げることゝなつて自家消費には餘ります。尤も馬鈴薯麵麩を勵行して下さる場合には、麵麩の四分の一量の澱粉を必要としますから賣るわけには参りません。製造粕は主として皮であります。好飼料で豚牛には沸煮し兎には其まゝ與へます。馬鈴薯は何の用途にも大形のものが取扱ひよく、殊に人造米を製造する場合

は大塊を望みます。

然るに薯塊の大きさは塊より發達する莖數の多少とコレレーションするもので、莖の少ないものは塊莖又少く従って大塊をなし、地上莖の多く發達したものは薯塊數多く、従って小粒となることを知ったので、莖を一二本に止めて他を除くことに力めました。が、莖の取り方が悪いときは後ろから後ろから發達して却（かえつ）て樹勢を徒費せしめ、結果を不良ならしむる場合がありますので、品種の大形のものを見付やようとしてゐる内村内佐久間氏栽培のアリーローズ種中に、不思議に頂芽只一つのみ發達して他は必ず退芽となるものあるを發見しましたので、之を撰出し淘汰して佐山種と名づけました。（佐久間、山中の頭字を合せて）此種は殆ど規則的に大塊三、小塊二個を附し莖只一、稀に二アリローズより短太淡紅色の薯を附するのであります。

斯（か）くして一段大塊の薯を得ましたが、尚小粒薯の所置をも考へねばなりませぬ故、薯麵麩同味味噌醬油などの考案をいたしたのであります。此麵麩を作りますのにどうしてもメリケン粉がなくてはなりません故小麥の研究となり、更に家庭製粉をも考へました。一方麵麩の付き物としてジャム製法の試験其副産物たるエキスの研究をもなし、苺栽培の中に突然變異による京早生の一品種を撰定し得たと共に、速成苺によりて一面營利栽培に進むべきことを認めました。味噌醬油の原料には大豆を欠くべからざるを以て若干の大豆栽培をなし、兼て馬鈴薯の窒素欠乏を補ふべく納豆食の唱導を思ひ其製造法を研究した。

偕（さて）本系に歸って馬鈴薯米禮讚の爲めに佐山種の選出迄に及んだのであるが、五月中に蔬菜馬鈴薯として一升十五錢以上の相場で賣れるものならば、畑をからにして賣拂ふたが人造米よりまだ利益があることを忘れてはならぬ。之より進んで速成馬鈴薯の問題を考へねばならぬ。而て佐山種の一の問題は秋植をせねば變性することである。然るに秋植と云ふは各品種を通じて収量の著しく減少するものである。即ち反収百八十九貫を超ゆることが出来ない。之では眞に困るので頗る工夫を重ねて遂に一法を案じ、未だ一回の試験ではあるが反収三百五十貫に達するを得せしめた。即ち秋植法に一個の改良を施したのであります。

第一体系は凡そ右の様な成り立ちでありまして、元々家庭自衛策であります。が、澱粉、蔬菜馬鈴薯、速成苺の三品が賣品となりました。

自分は兼て「二用法」と云ふことを唱へて常に或る作物或る家畜を選ぶに、必ず二つ以上の用途を供へたものを探ることにしてゐます。之は戦法と同じことでありませう。甲に破れたならば乙で勝つと云ふ仕組である。苺を以てすれば實で賣れなければジャムと云ふ様に、馬鈴薯を米とのみ定めてしまわないで其前に蔬菜としてねらう。花卉を作るにも花で破れたならば採香で支へると云ふやうに工夫せねばなるまいと思ふ。それで此靜的體系中に常に此動的觀察を忘れてはならぬことを附加しておきます。一家假りに五人とし年二十俵の米を要するとし、其の1/3を人造米で置換へるとせば六俵某七俵弱、これは丁度一段量の人造米である。して見れば農家一戸一反の馬鈴薯畑を持つことは、市場に關係なく即刻決定し得る問題である。置換へられた米の賣れない時は日本には來まい。之より進んで蔬麵麩味噌醬油より薯菜馬鈴薯を考へるときは、農家は先づ二反の馬鈴薯を栽培して可なりであらう。兎に角一反は文句な

しである都會を離れたる畑地農家にありては。

今回は紙数が窮屈でありますから第二體系以後の説明は他日の印刷物に譲り、結局此複雑なる體系より何物が家庭の實際に參與し、何物が市場に驅せて農家の金収となつて行くかを簡単に示して見ませう。

家庭に	市場に
一、馬鈴薯米、苡薏	一、蒟蒻薯、荒蒟
一、同麵麩、ジャム	一、兔及兔毛皮
一、同味噌、醬油納豆	一、蔬菜馬鈴薯
一、トマト調味料	一、速成蕃茄、苺
一、兔肉、壘詰	一、野生蔬菜筍、菌茸、罐詰、福神詰
一、化粧品	一、栗、柿、梅、櫻桃の實、竹桐材、棕櫚毛
	一、香料

此生産活動の期節との關係及び各月収入状態は

活動期節		各月収入			
馬鈴薯	春 夏	1月 貯藏栗	2月 蒟蒻	3月 蕨其他	
蒟蒻	春 冬	罐詰、兔	兔	速成野菜、兔	
家兔	春 夏 秋 冬	4月 速成苺	5月 蔬菜馬鈴薯	6月 速成トマト	
野生物利用	春 秋 冬		苺、櫻桃	梅	
苺	春 夏 冬	7月 香料	8月 早生栗	9月 菌、茸、栗	
蕃茄	春		トマト加工品		
樹類	冬	10月 柿、兔	11月 蒟蒻	12月 貯藏栗、壘詰	
計	6 3 2 5		兔	罐詰、兔	

稻其他の普通作物は夏秋特に秋を最繁といたしますから頗る理想的であります。

簡単に云へば誤解を生じ易いが急ぐために末尾の概數を示す。畑地農業經營概數、田五反、畑五反、内馬鈴薯二反、蒟蒻二反、蔬菜小麥大豆にて一反として、労働人數凡六百、主食物及飼料を除き粗収入千二百七十圓許り、其収入項目と決算概數とは次表の如くである。

田畑各五反農業計算

土地種目	作物種類	人手	収 量	内販賣量	同上代金
田	稻(裏作麥一反)	175 人	20 俵	7 俵	91 円
畑	馬鈴薯	40	800 貫—1000	200 貫	60
同	蒟蒻	30	1000 貫—1400	1000 貫	600
同	加工	120	1050 本 [假に蕃茄ソースを以て代表す]	960 本(2合入)	240
同	園藝	115	130 (加工用 2 畝)	130 貫	11.7 162.5
			275 (生果速成用 5 畝)	275 貫	150.8
	家兔	120	120 頭 [自家蔬菜及飼料用 3 畝]	70 頭	70 120
				50 枚(毛皮)	50
計		600			1273.5

右の原料費 339.6 圓

勞銀 679.2 (1 人 1.132 円)

利潤 254.7

} 所得 1.5565 円

本計算は一般の農業計算によらず則ち食物飼料を初より控除し、勞銀と利潤とを区別し器具費租税を計入せず。之成るべく計算を自然に出でしめ、計算の便利と他の業

との比較を爲し易からしむる私見に出たるものにして今日の試みなり。他日精攻の時變改あるや未だ期せざる處なり。此形にして初めて大工、製造業に比較するを得べし。

税は大體利潤に含まれ器具費は複雑なる性を有し、諸項に關係あるべきも本計算に於ては多く勞銀中に含まるべし。斯くするとき食物の數字を得て之を勞銀中に加ふべしと思はる。

附記（１）或る一項を以て總収入の二分の一以上の収入を豫定することは危険とすべし（特に安全状態にある事業は別として）。（２）食料飼料として米十三俵、馬鈴薯米六俵半、馬鈴薯二百貫、薯製味噌同醬油ソース漬物三畝量、野菜兎肉五十頭及雜穀若干を残す。（３）加工の項と園藝の項とは實際は頗る複雑し且つ年々相違あるべきも今蕃茄一品を以て代表す。

以上は五反農業の概數である諸項悉く控え目に見積つてあるから、六百人活動に異算なくば恐らく之より収入を減ずることはあるまい。二三割位の増収あることは想像しやすい數である。

併し實際物價は變動極まりない機を見て敏處するにあらざるよりは、殆ど成功すべきそこに何の事業もないであらう。馬鈴薯と蒟蒻、思ふに都會より隔りたる畑地農家の普遍的救主であるであらう。今に於て之を何れの土地に施しても誤りないを信ずる。殊に馬鈴薯米の問題は確信を以てお誘めする。凡そ農村救済の施法中之程安全なものは恐らく他にあるまいと思ふのである。是を圍繞する七體系自分の立つ郷邑に於て又今日に於て誤りないと考へる。

「今に天下何の地にか馬鈴薯村の出現を見るであらう」此のやうな期待を以て此發表を致します。

（終）

3 「安房同人誌」からの抜粋

安房の自然美は斯く發揚したい

山中進治

昭和6年7月號

本題の内容は吾々の久しく唱えて居る「化園農村」と多分に流通するものがあります。今日のやうに、何々化—社會化、合理化、郷土化などの一の未だ流行しない20年前から私共の唱へたのでありますから、今時の熟語と風が變つて居るのであります。農民離村の原因は農村が楽しいもの、美しいものでないからである。己が村を擧げて、一大樂園化し、住み心地のよい天地にせよと云ふ極意なのであります。此樂園化は安房に於ては誠に容易であります。

所で此樂園化は只單美化だけではいけない。

經濟的に産業的に合理的なものであり、交通的に教育的に、郷風の爲めに遊覽者の爲によいものであるやうに施設することでありました。

本日の問題は房州の天然美、歴史美を發揮せしめ、海岸、山岳、名所、舊蹟、井泉、鑛石を利用しようと云ふのが本旨と見えますから、私の化園農村問題と内容に於て多分に一致し、範圍に於て或る場合には化園農村の方が廣く健全であり、或る場合には、安房の天然美發揮策の方が大きく事業的であります。

そこで本日の宿題は恐らく其種類、方法等衆人一様の見解かと思はれます。即ち海岸、山岳、史蹟、名勝を手入し、之を連絡する交通機關を作り、物價を平かにしてお客に深切にする、と云ふことになりまして、既に皆様は詳細に御高説がありました通りで、私もいちいち同感であります。其れ故に重複する部分は避けまして二三の事項を申し上げます。

1、此の種の事業にも精神的領域の少からず存すること。

之にも二種あって、

一つには、宗教的精神を取入れること、

二つには、州人共同の精神と他州人を愛する心とを根柢とせねばならぬこと
であります。

2、交通機關には飛行機時代が來ること、それ故、連絡地点は、今日は名所史蹟ならずとも、山頂海砂の平坦地を考慮し、着陸の容易と、周邊風物の美化とに心掛け置くべきであります。

且つ其時は少くも關東一圓を以て、大樂園と考へることになりますから、

隣州との關係を考慮の中に入れねばなりません。

3、施設の産業化觀と云ふこと。

美化施設は全部花ばかりと考ふべきでなく、花も實もあるものも相當に加味すべきであります。果樹園の美、森林の美、牧場の美は、何人も異議ない事と存じます。私は曾て大正4、5年頃、中國地方に讀書旅行をして、岡山の後樂園に遊んだ事がありますが、其公園經營の如何にも用意周到なるに一驚し、愈々池田侯に敬意を表した事があります。今其1、2を申し上げますと、其公園の一側には竹林を置き、實際を通る道路には棕櫚の並木が列植せられて居ります。

之は公園の垣を修理する竹と繩とを得る用意なのださうです。園の中央に所謂支那籍田の形式に倣った圃場が設けられて居りますが、此區々に生産する粟其他の雜穀は即ち公園に養はれる諸鳥類の餌となるのださうであります。梅林の原は早春の美化を了へた後は數十石の良果を提供して之亦公園經費の資となつて居るのであります。

如斯施設を以て實利的なりとは私には考へられず、却て其用意の奥床しを感じしめられたのであります。

されば安房に公園の類が施設せらるゝならば、芝生の一部は、ホワイトクロバーの茵たるべく、並木は、無刺アカシヤの木蔭の婆娑たる光景を以て牛の國安房を表顯すべきでありませう。

苑は枇杷に蜜蜂の町、林は佛國松、泉には青木と云ふやうに、少し思ひを致すならば、幾多の安房の特異の創造がございませう。

更に産業美の壯觀は州の眞中、山岳重疊の嶺岡に存することを力説せねばなりません。州人は嶺岡四百年の歴史を繰り返し、其四牧を復興して一大樂園的牧場とすべき義務を負ふのであります。

殊に飛行機(又は全船)時代には安房最初の着陸点として、上総鹿野山を出發した機体は鵬翼を兩州堺上に顯はさんか、既に房山うづたかき、丘陵に点々たる黒白の斑をのぞみ、須臾にして斑に頭尾を認め、アカシヤ澤の羊舎、青木谷の牛舎、櫻岡の旅館ホールを見る。其上空を一廻して、伊豫ヶ岳、富山、御殿山、愛宕山の秀峰を巡視して二子山の滑走場に鵬翼を收む山上自動車あり、東は櫻が岡、西はお花畑、平群に栗林ありて拾ふに任かす。丸に松林あり、茸狩に易し、其栗林に達すべき路上又栗を列ね、松林に達すべき路傍松樹を列ね、櫻岡には櫻樹を、お花畑には茶樹を以て道路樹となし、連互十數町、之を辿る時は更に途に迷ふことなし。其他萩の路は青木谷の牛舎に失はず草の路は羊舎に到る道しるべとす。と云ふやうな方法も樂園的牧場にふさはしいものと思ひます。

私は本会に出席する度ごとに感ずることは、当初より地方の青年達にも本会に出て頂き、互いに意見を交換したなら、中々裨益する処もあらんかと思ひ、本会の諸君も、その連絡を希望するゝ精神のやうに察せられますが、容易に実現されぬのは遺憾であります。

ひるがえって青年の側から見ますと、何となく席が高く億劫に、また遠慮がちに感ずる処より、出席する者が少いではないかと思ひます。

よってむしろ他の方法を講じ、別に青年達を主として一団を作り、そこへ本会から更る更る出て頂き、指導するゝやうにいたしましたらどうかと考へます。

あの歌の会を本会の娘のやうに見るなら、青年団の方を息子となして御世話をして頂きたい。

地方の青年を見るに高等小学を卒へ補習学校や青年訓練所があるとは言え、それ以上には、青年達の居村では学ぶ方法がありません。

即ち二十歳前後から年上の青年達はこれがため、実に気の毒な境遇に居ります。

日本の教育は、昭和5年の統計によると、全国の学令児童 994 万人で、その内、不就学者は僅か 5 万人足らずの成績は、世界に冠たるものだ。

日本の教育制は非常に進歩したと誇る人もあるようだが、その内容を尋ねれば、年々尋常課卒業生は 128 万人で、その内高等科にも中學にも這入れぬものが 110 万人位はあるさうだ。補習教育を受ける者でも 6 割位のものだ。その餘の者は全然指導者なしに、野に棄てられた者であります。

問題は地方に於ける氣野毒なこの青年達の教育を如何にすべ乎であります。

かゝる不幸な青年、而かもやがて國家の前途を擔ふべき青年、地方的には地方の中堅ともなるべき青年を、此儘に放棄して置いて何等顧る處なきは、國家として甚だ間違つた政治ではあるまい乎。

天下の政治家も、縣會議員も、代議士さん達も、此處に氣が付かぬのは、私の諒解に苦しむ次第であります。翻つて最高教育の側を見れば、大學によっては學生一人當り年に 450 圓から 600 圓の國費を投じて居る。

かゝる少數の生徒に多大の國費を投じて、失業問題や惡思想問題で、更に更に國費を濫費しながら、僅かな支給で足る地方に於ける不幸な青年達には、就学の方法をも講ぜぬことは、不親切の至りではあるまい乎、本會の諸君は各方面、何れも立派な體驗を有せらるゝ方々でありますゆへ、何とか此等不幸の青年指導して下さる方法を講じて頂きたいものであります

4 参考文献・関係資料一覧

NO	資料名	発行元・作成年	資料提供・所蔵箇所	備考
1	農書著述年代調べ 山中進治作成目録A	岩波書店書写 開館10周年記念 原稿、資料No.7同 様県図書館の要請 により作成か	君津市中央 図書館	昭和55年9月4日木更津図書館 司書昼田氏岩波書店より入手・そ の後共同研究者新井氏へ。
2	山中文庫農業書目録 山中進治作成目録B	同上	同上	同上
3	山中文庫目録(日本青年館 図書館原簿)	日本青年館作成 昭和10年受付	君津市中央 図書館	昭和55年9月11日木更津図書 館司書昼田氏日本青年館より入 手・その後共同研究者新井氏へ。
4	山中進治書籍論文目録	君津市教育委員会 教育部市史編纂室	君津市中央 図書館	尾車:山中家道氏所蔵資料
5	君津いまむかし(32: 山中文庫)	君津市史編纂委員会 (平成14年発行)	君津市中央 図書館	君津市史編纂委員・監修:菱田忠 義著(平成14年発行)
6	山中文庫推薦図書目録	S3年1月:山中 進治著	君津市中央 図書館	「山中家文書」市史編纂室資料
7	山中文庫収蔵 支那古農書解題	S2年11月	千葉県立中 央図書館	山中進治へ県図書館の需に依 り・・・の記述あり
8	山中文庫写真 (古典・通俗書架)		山中家道氏	市史編纂室資料
9	山中文庫資料メモ		君津市中央 図書館	市史編纂室作成資料
10	苑芳 第1号～第15号	T13.4.14 ～S6.12	山中家道氏	市史編纂室資料より目次作成
11	農業講義		同上	「山中家文書」市史編纂室資料
12	安房同人(抜粋)		君津市中央 図書館	「山中家文書」市史編纂室資料
13	周南公民館報「ひろば」	H13.9.20発行	周南公民館	
14	「山中進治先生と村づく り」レジュメ・資料1～6	H15.7.15発行	新井孝男作 成	八重原公民館 自然と人間を考え る講座 講義資料
15	山中進治	君津町誌 下巻	君津市中央 図書館	p324～326
16	農村の私設図書館「山中文 庫」概況	「千葉教育」415号 S3年掲載	君津市中央 図書館	「山中家文書」市史編纂室資料
17	山中文庫と農芸研究所	『千葉県史』	君津市中央 図書館	第3篇 都市化の波及と農漁村社 会 第1節 昭和恐慌下の農村青 年と女性

NO	資料名	発行元・作成年	資料提供・所蔵箇所	備考
18	『写真集・君津郡の昭和史Ⅱ』 君津・富津の昭和史	安藤操編	君津市中央図書館	山中文庫抜粋
19	「千葉県青年処女」第8巻 第4号 天聴に達した安房 研究所を視る	S 8・4・1 発行 千葉県連合青年団 発行	渡辺宏氏	千葉県社会教育主事補 近藤洋雄著
20	(三) 図書館(文庫)の 普及	君津市教育委員会 教育部市史編纂室	君津市中央 図書館	『君津市史』通史編 近代 第3 章：大正期の君津
22	農業教育の振興に尽くした 両山中先生	「富山町史」抜粋	南房総市教 育委員会	
23	朝日隋感 抜粋	山中胤次著	木更津図書 館蔵	H 2 6・4 入手(コピーで：山中 胤次氏⇒晝田氏への謹呈品)
24	研究所付設当年を偲ぶ	「苑芳」第11号 S2. 8. 31 発行	山中家道氏	「山中家文書」市史編纂室資料
25	昭和恐慌下の農村の学習 運動 ―安房科学農業研 究所について―	小松光一著 「月刊社会教育」 国土社	渡辺宏氏	S 52年7月号
26	篤学の農村教育者 山中進治先生	古宮洋著 「農業千葉」 S 60・7月号	渡辺宏氏	
27	補訂版『国書総目録』	岩波書店H 1 3. 9第 4刷年発行	君津市中央 図書館	
28	農の師父 山中進治先生	「千葉教育」356 号 S 62 発行		小松光一
29	鹿野山麓の山村にあつて 一身を農村青年指導に捧 げつつある篤志教育家	藪柑子著 「実業之日本」 T 15. 11. 1 発行	国立国会図 書館蔵	H 2 6・3 入手(コピーで：君津 中央図書館に依頼して)
30	安房科学農業研究所の概 要 (S8. 12 第二回全国篤農 青年大会)	渡辺高俊著	渡辺宏氏	H 2 6・5 入手 「農村更生叢書 篤農青年体験記録」
31	食糧問題解決の大発見 馬鈴薯が「米」に	東京日々新聞： 千葉版 S3・4・29 発行	千葉県立中 央図書館	H 2 6・3 入手(コピーで：君津 中央図書館に依頼して)
32	家事の傍ら農村文化研究 「東洋の古農書」2千 周 南村の山中氏	東京日々新聞： 千葉版 S3・3・16 発行	千葉県立中 央図書館	同 上
33	珍しい農史資料展覧会 「農村研究者の周南の山 中氏」所蔵の山中文庫を 公開する	東京日々新聞： 千葉版 T 13・7・27 発行	千葉県立中 央図書館	同 上
34	郷黨薫化に力ある 山 中文庫 創立十周年を迎へ て内容の充実を図る	千葉毎日新聞 S 4・9・3 発行	千葉県立中 央図書館	H 2 6・4 入手(コピーで：君津 中央図書館に依頼して)

◎ 会員のひとこと

馬鈴薯畑（馬鈴薯の花）



馬鈴薯 ⇒ 人造馬鈴薯米の原料

山中文庫への思い

小池 公子

山中文庫が帰ってきた。小糸川倶楽部が関わって、返還を熱望していた山中文庫が帰ってきた。

広くその存在を知ってもらいたい、返還運動に弾みをつけたいとの思いで開催した君津市役所での初めての「山中文庫・山中進治」のパネル展。平成24年4月の展示会。



「山中文庫・山中進治」のパネル展（市役所1階ロビー 平成24年4月）

あの日から急展開。9ヵ月後の思いもかけない山中文庫の返還。感無量である。帰ってきた蔵書は僅かにダンボールに8箱。和書のみである。冊数も224部のみ。3800余部を誇った進治の文庫も今、現に「文庫」として存在するのは224部である。冊子には進治により丁寧に分類されたラベルが貼られている。分類方法にもこだわった進治である。農学研究者であり教育者であった進治らしく、「修養」、「農業」が独立した項目になっている。

古文や古文書の素養の無い私には返還された進治の書物を読むことは出来ない。しかし、文庫の題名を見てみると、その書物に込めた進治の思い・願いが想像でき、楽しい気持ちになる。

進治は論文も多数発表している。論文の方からはストレートに進治の思いが伝わってくる。仮名交じりの旧仮名遣いの文には苦勞するが。

進治の郷土への愛、青年達への期待、自意識過剰とも思える自分自身の使命など、読んでみると私の気持ちも高揚する。時には息苦しくなることもあるが。

小糸川倶楽部は、この川の流域で生きてきた先人達の足跡を訪ねたり、埋もれてしまいつつある歴史を垣間見たりして楽しむのが主目的な、小さな趣味の同好会である。

それ故、返還された山中文庫をどう活用していくべきか等の提言は荷が重い。今回、私たちのやってきた事を冊子にすることによって、山中文庫と進治の生き方が沢山の方々の目に留まり、その方々のお力で、末長く山中文庫を保管し、活用する方法を考えて頂けるような機会になることを願っている。

小糸川倶楽部に参加して

平野 美貴男

小糸川倶楽部の存在は、富津公民館で開講されている東京湾学講座の平成 22 年度の講座で「小糸川の舟運」の講義があり知ることとなりました。その後ヒョんな縁から会員の千葉さんと知り合いになり、小糸川の歴史的なことに興味もあり入会させてもらうことになりました。私が入会した平成 25 年度は丁度山中文庫の返還があった時期で会員の皆様は、資料の整理に没頭しておりました。君津に昭和の初期に自費で膨大な蔵書を集め農業教育に情熱を燃やした山中進治という方がいたことを知りビックリしました。また、その蔵書の中に以前その内容の一端に触れ興味があった江戸時代の後期に東京湾の大規模埋立を提案した「内洋経緯記」があり、埋立に関連する仕事に関わっていた者としてはその全文を見る幸運に恵まれました。

山中文庫お披露目の企画展が平成 26 年 3 月に中央図書館で開催されることが決まり、これに向けた資料整理に一段と拍車がかかり作業に追われる羽目になり、その一端をお手伝いすることになりました。企画展は、山中家所縁の方々も訪れ、また、新聞報道のあった翌日からは市外から来られる方も興味を持ってご覧になっておりました。今後は中央図書館で数多くの方々に閲覧していただき「山中文庫」の存在とその文化的価値が広まればよいと願っています。

小糸川倶楽部では、会員の方々の旺盛な好奇心とキャラクターに圧倒されています。なぜ小糸川倶楽部が山中文庫の返還に情熱を注いだのかを垣間見た気がしました。活動の経緯からは小糸川の歴史の他、今回の山中文庫の返還に限らず、例年開催される「松本ピアノ」の演奏会、地元の画家「柳敬助」の紹介など地域文化の掘り起こしに貢献してきたことが伺われます。これからどの様にかかわれるか判りませんが、楽しくゆったりとお付き合いをお願いしたいと思います。

山中文庫への思い

千葉 育雄

山中文庫との出会いは小糸川倶楽部に入会して、初めて輪読した山中進治の難読な文章であった。初は山中文庫とは君津市出身の篤農家が収集した膨大な蔵書類で、ただ、日本青年館の地下に眠っているのはあたら残念だという思いだけであった。然し、

徐々に蔵書類の輪郭から彼の志、想いを知るにつれて、ようやく、私の山中文庫への認識が他会員レベルに近づいて行った。今は君津への山中文庫返還実現は 改めて、一同と共に感慨を深くしている。

歴史や先人の業績を学ぶことは知識を得る事ばかりではなく、今日的意味と将来への示唆を読み取ることがより重要であると思う。とすれば、文庫全体から山中進治の成さむとした想いを知り、共感することこそ、山中文庫の返還された意義ではないかと思っている。

山中進治は農学者と言われるが、私は彼の推薦図書目録全385部を見てその認識を改めた。農書類は86部で修養類87部と同等で他に文学、科学、史学、地理、社会学...に及んでいる。

彼の活動期は大正デモクラシーから軍靴の音が聞こえつつあった昭和初期である。当時、五度の訪日をしたタゴールは六角堂で明治維新以来、和魂洋才とは言い乍ら、西洋手法一辺倒になった日本を批判した。これらも進治の東洋古来の農法と科学的西欧手法の融合、それを梃子に青年教育、社会生活全ての啓蒙へと思いが向かったのではないか、等々想い乍ら、今日的課題と対比して、これから、ゆるりと学んでみたい。

「山中文庫・進治」に魅せられて・・・

川上 幸則

「山中文庫・山中進治」えっ、それってなに・・・から始まった。

次のテーマは何に・・・。会員の一人から、山中文庫・山中進治はどうだろうとの発言があった。その時の感想が冒頭の言葉である。

「松本ピアノ・揚水水車・小糸川の水運(川舟)」等、今までのテーマでもそうであった。君津の人になったのは随分昔なのに知らない事が多すぎる。それほど、君津を意識していなかったのか、会社人間だったのか・・・。

今回のテーマについては、本文中の「かえってきた山中文庫：山中文庫蔵書の返還のあゆみ」で紹介しているように、途中、返還運動を諦めかけた永い空白の時期もあったが、粘りに粘って初期の目標を達成できた。それは、その間の関係者の支援・協力も大きかったと思う。

その活動の中で、記憶に残る事が数多くあったが、自分の中で特筆される思い出を紹介する。

まず、山中文庫との取り組みは「山中進治作製農書著述年代調べ」という、山中文庫蔵書目録を木更津図書館の晝田氏(故人)⇒新井氏のルートより入手した事でスタートを切った。この目録は、昭和2、3年頃つくられた、ガリ版刷りで何度もコピーを重ねた「もの」のため判読出来ない箇所が多数あった。それを、例会の中での検討やインターネット検索で確認したり修正したりを重ねた。

そんな中で「国書総目録」の存在を知った。国書総目録については本文中で紹介が

あるので・・・。

君津市立中央図書館で国書総目録を手に取り、山中文庫蔵書目録の「農家益」を引いて、農家益を見つけるとそこになんと、「山中」と記載されていた。これは、山中文庫が「書籍名：農家益」を所蔵していることを表している。この「山中」を見つけた時の感激は一生忘れないだろう。山中文庫の蔵書は、皆さんが話していたように大変貴重な書籍だったのだ。更に、次々と国書として採録が確認でき感激の連続であった。（余談になるが、インターネット検索で山中文庫蔵書の「ある書籍の時価：ウン十万・・・」も確認した）

次は、山中進治の幅広い知識や想像力・先見性に驚いた事である。挙げれば多くあるが、その中でも、安房同人誌の昭和6年7月号「安房の自然美は斯く発揚したい」の中で、「農民離村の原因は農村が楽しいもの、美しいものでないからである。己が村を擧げて、一大樂園化し、住み心地のよい天地にせよと云ふ極意なのであります。此樂園化は安房に於ては誠に容易であります・・・。」

又、羽田空港も開港してないこの時代に、「殊に飛行機(又は全船)時代には安房最初の着陸点として、上総鹿野山を出発した機体は鵬翼を兩州界上に顯はさんか・・・」と房総に「空港建設」を構想していた。

更に、昭和6年に発行した「安房科学農業研究所同人蔵書目録」は村全体を図書館化する発想で作成された。仲間たちで、蔵書目録を作り持ち寄れば、読みたい本が何処にあるかが分かるというもので、村全体⇒千葉県全体⇒日本国⇒世界・・・現在のインターネットの先取りの発想である。

この様なマルチな才能の持ち主の進治の早世がととてもとても残念でならない。この山中進治の早世と同列にはできないが・・・。

山中文庫蔵書の里帰りを心から望み、喜んだ、九島行正会員が今年の1月急逝しました。氏は、小糸川倶楽部発足以来の会員で中心的存在でありました。物静かで、必要な時は適切な発言があり会に安定感をもたらしていました。九島さんのご冥福をお祈り申し上げます。

今後、残された資料等を一言一句読み取り、更に理解を深めたいと考えています。更に、山中文庫・山中進治を市民の皆さんに知っていただく努力も続けたい。

最後に、山中文庫蔵書は君津市立中央図書館で閲覧申し込みすれば、館内閲覧は可能です。又、君津市立中央図書館の検索システムを利用すれば山中文庫蔵書の書籍名、著者、出版年等も知ることができます。アクセスを・・・。

小糸川倶楽部への思い

三澤 義郎

小糸川倶楽部への入会のきっかけは、先輩からの勧めもあつたが、それ以前に、同倶楽部が平成17年度に発行した記録集「水との闘い」に出会い、購入していたこと

にもある。この記録集の白い表紙には、私にとっては実になつかしい往時の「久保の水車」の、堂々たる写真が載っていたのである。

この水車の留場付近には、いつも多くの老若男女が集い、釣りを楽しんだり、堤防で花を摘んだり、昼寝をしたりの一時を過ごしていた。実は、この中におそらく当時の私もいたはずである。南側の留場の礎石付近は、私の少年時代の絶好の釣りポイントであった。

この礎石回りには緑の川藻が水中に踊り、流れ落ちる流水にはいつもしぶきが飛び散り、魚影は常に濃かった。

この写真を見ると今でもあの当時のことがよみがえる。フナがヒットした時のブルブルと振動する穂先への感動は、今でも鮮明にこの右手が覚えている。ナマズや丸太鯉など大物も釣れた。時には大



久保揚水水車と小糸川

ウナギも釣れ、男ばかり5人の子持ちの私の母親を大層喜ばせた。約500m程南の釜神地区に住んでいた私にとって、この地は悪童仲間達との楽しい豊かな遊び場だった。しかし、少年達の隣ではいつも直径12mもある「久保の水車」が、ガタンゴトンと鈍い音をゆっくり響かせて重い水を汲み上げ働いていた。このガタンゴトンが久保の大平原を潤していたのだ。時は正に、日本の高度経済成長直前の夢にあふれた良き時代であった。懐かしさがこみ上げてくる。

さて、小糸川倶楽部は、この他にも、「小糸川の川船」や松本ピアノ、柳敬助などの記録集を発行し地域に公表している。そして、更に、この度は「山中文庫」の発掘である。

小糸川倶楽部が、更に一層の地域再発見に貢献し、多くの人々にこのような夢と感動を与え続けることを望みたい。

小糸川倶楽部に入会して

守 敏男

小糸川河口域で生まれ育ち、かねてから故郷の歴史と文化に興味があったことから、この倶楽部に加えさせていただきました。入会時には既に今回の成果が取りまとめられており、私としては図書館での展示のお手伝いに関わった程度であります。従って、山中進治氏の業績を十分に理解しているとは言えませんが、当時において私費により文庫を開設したことは勿論、地域に根差した科学的農業の実践と普及に向けた情熱と行動力に驚くばかりであります。教育への理解や医学がより進んだ世に生まれていれ

ば偉大な農業指導者になったであろうと思われます。生まれてくるのが早過ぎたのかもかもしれません。

このような成果を取りまとめられた倶楽部先輩メンバーの御努力にあらためて敬意を表するとともに、引き続きの御指導よろしく願いする次第であります。

終わりに、今から約7年前に富津公民館での東京湾学講座において「小糸川の変遷」と題する講演を聞いたことを思い出しました。講師は九島行正さんで、その説明に聴き入った記憶があります。九島さんの御冥福をお祈りいたします。

偉大な先人に想う

竹内 啓

小糸川倶楽部に参加させてもらい、山中進治氏の存在を知りましたが、古書に学び実践し、実験し、データーをとり近隣の青年達に“農業が命の根源・国家の基幹産業”との信念で講義・紹介、驚かされることばかりでした。

古書ばかりか新刊もあったろうと想像しますが三千冊を超える本を いつ 読んだのか理解したのか 不眠不休の毎日？論文発表もされ、私の能力では理解不能です。

自分を物差しにして万象を理解するしかない老いの身では、いまさらながら驚きのひとことです。

月別の栽培作物を例示し、農家の経済も示し、作物の加工技術の紹介などなど……。着眼点にしても、情報化社会と言われる今にしても驚嘆・脱帽あるのみです。

山中進治さん て、すごい人

河井 衣子

「すごい」なんて品のない言いかたをするものではない！ と若いころ注意されたことがある。しかし今、山中進治さんの業績を知るにつけ、立派な人、すばらしい人、偉大な人という言いかたよりも、その全部を含めて、わたしには「すごい人だなあ」という思いがびったりするのである。だから、あえて尊敬と親しみをこめて「すごい人」と言わせてもらおう。

出会い

山中文庫の存在を知ったのは、『君津市史』の編纂協力員をしていたころだから、もう15・6年になるだろうか。山中家から借りた資料を前に、編纂室長の新井さんが「房総の宮沢賢治」とか言ってやたら興奮していたのを覚えているが、担当の資料を読むのが精いっぱいわたしは、「資産家の山中さんが道楽で文庫を設けたのだろう」

としか思わなかった。選ばれた図書目録の資料にもざっと目を通しただけで、さほど関心を持たなかった。

編纂協力員の仕事が一段落し、誘われて小糸川倶楽部の一員となった。小糸川流域の先覚者を調べようということになって、初めて山中文庫（山中進治）に出会ったのである。

すごい① 研究者として

山中文庫は大正9年（1920）1月創設された。千葉県立中央図書館の創立（1924）に先駆けること4年、当時あった三島村や中村の村立文庫が蔵書数100冊～300冊だったのに対し、個人で蒐集した3000冊を超える桁違いの蔵書数であった。

文庫を始めるにあたり、日本各地の文庫を参照しており、時雨文庫や公家・大名家などの名だたる古今文庫の名が山中さんの論文に書き連ねられている。「東洋に由来する農学書を蒐集し、いずれは時代を超え、対岸の金沢文庫と肩を並べて語られるような文庫にしたい」と、気宇壮大である。

農書を主に、明治時代以前の文献・それも日本や中国・朝鮮で出版されたものを求めて全国を訪ね歩き、特に『齊民要術』は、北魏の初版を元に各時代の農学者が加筆出版したというが、それぞれ時代の違う『齊民要術』を5版も所蔵していたという。

今は国宝・重要文化財で、簡単には見ることもかなわない北魏時代の初版本が京都梅尾の高山寺にあったとき、山中さんは写真に写すことを住職から許されている。農学研究者としての山中さんの情熱と人となり、貴重な蔵書の開示を可能とした。その写真や『齊民要術』を見ることのできないのは残念である。

中国や朝鮮半島で出版された農書の一部は自ら翻訳し、母校の機関誌『科学の農業』に発表している。帰還した和綴りの蔵書には山中さんの解説メモが挟まれている。全部読破した証拠。すごい！

すごい② 実践主義

山中さんのすごさは、読書家・研究者としてではなく、知識を農業実践に活かす指導者であったことである。読書は農業経営を潤沢にする手立てと青年たちに説き、農業を科学的に行うことの大切さを実践で示した。

関東大震災後、苦しむ青年たちの求めに応じ文庫の傍らに農芸研究所を付設して、疲弊した農家経済を立て直す換金作物栽培奨励と科学的農業指導の拠点をつ造った。郷土の土壌・風土に適合する作物の選択、播種の時期、温度管理・肥料配合、等々、実験データを青年たちと取りながらの実践指導である。実験データは、山中文庫付設研究所機関誌『苑芳』に掲載し、広く紹介し普及させた。そのためには築山を壊し3反の圃場・兎舎・鶏舎・肥料舎を設けただけでなく、先祖が平安時代から代々祀る毘沙門天の祠堂まで実験室・談話室として用いる、ことまでしている。

兎舎・鶏舎は農家に不足する蛋白源を確保し、肥料としても用い、家の周りに植栽する樹木も6種ほど選び、鑑賞と果実の収穫、堆肥としての利用を考慮して奨励、すべてに無駄がない。

すごい③ 先進的… 保存食も構想も

山中文庫、付設農芸研究所が活動していた時代は、大正時代から昭和初期である。その時代に福神漬や馬鈴薯米などの代用食はともかく、イチゴジャム・トマトピューレ・ママレード・オニオンビネガーなどのおしゃれな保存食が換金用として奨励されている。

この君津で、イチゴがそんな早くから栽培されていたとは！ 戦後の食糧難時代に育った身は、バナナすら高価でなかなか食べられず、ビネガーやトマトピューレなど名前すら知らなかった。目の付けどころがすごい。

また、安房の観光資源についての記述（「安房同人」）も先進的だ。

「これからは飛行機の時代だ。鹿野山に遊覧飛行場を設け、空から花畑や松の緑、太平洋を眺望。花摘みや茸採り、栗拾い、峯岡牧場などを見たい人には観光タクシーで廻ってもらう」・・・などと。時代を先取りするようなことを 90 年以上も前に書いている。スケールが大きくて「将来は金沢文庫に比肩する山中文庫に…」を髣髴させてとても愉快だ。

これから

山中さんの論文をすべて収集できたわけでもない。また、日本青年館から帰還した江戸時代の和綴じの蔵書が読めるわけでもない。しかし、これから、できるだけ多くの山中さんの著述を読み、山中進治という人をもっともっと知りたいと思う。

蔵書の活用は難しい。千葉さんが『農家必備』を読み下してくれた。昔のような飢饉を経験することはまずもってない、とは思いますが、上杉鷹山が奨励した「かてももの」野草をいかにして食べるか、こんなところからみんなでも読んで楽しいかな・・・と

「日本青年館」の皆々様に感謝

和田 昇

広報きみつ 平成 26 年（2014）3 月号（3 月 1 日発行）No. 511 の七頁、暮らしの情報 Box、お知らせ欄に下記が掲載された。

「山中文庫」お披露目 78 年ぶりの“おかえりなさい”

昨年 1 月、財団法人日本青年館から「山中文庫蔵書」224 部 413 冊が市に寄贈されました。山中文庫は君津市尾車出身の山中進治氏が蒐集していた、農業関係資料群です。貴重書ゆえに、普段は中央図書館の特別収蔵庫で保管していますが、今回、館内の企画展示室にて、中央公民館サークルの小糸川倶楽部と共に、貴重な郷土資料の一部をご紹介します。

期間 = 3 月 4 日（火）から 16 日（日）

時間 = 午前 10 時から午後 6 時

会場 = 君津市立中央図書館企画展示室
「間」君津市立中央図書館 (TEL: 52-4646)

78年ぶりとは・・・

昭和8年(1933)10月25日 山中進治氏急逝(享年46才)山中文庫及び付設農芸研究所は氏の没後、適当な後継者がなく、閉鎖のやむなきに至ったが、故人と交遊のあった農学博士小野武夫氏らの計らいで、当時、日本青年館(大日本連合青年団の郷土資料陳列所)の大西伍一氏を煩わし、同所内に山中文庫として一括保存することになったといえます。

昭和10年に、この様に「山中文庫」の保存が決まったことは、本当に幸いなことでした。昭和12年(1937)に日中戦争(支那事変)が、昭和16年(1941)には太平洋戦争(大東亜戦争)と戦時が続きます。

思い出すこと、太平洋戦争末期、空襲が激しくなるなか、各地の図書館は本を疎開させたときいています。特に東京都立日比谷図書館では、史上空前の図書の疎開を実施し、戦火による焼失を免れた図書は約40万冊に上ったといえます。戦争末期の昭和19年(1944)7月に日比谷図書館に着任した中田館長は、図書館の蔵書を疎開させるだけでなく、都内の学者や研究者が所蔵していた貴重な本も買い上げて疎開させたときいています。空襲を避けながら、都心から遠く離れた奥多摩や、埼玉の志木などへの疎開作業は大変なことだったと思います。戦後、これらの疎開した図書は国の重要文化財に指定されるなど貴重なものも多く、今も都立中央図書館などに大事に保管されているときいています。しかし、40万冊が戦火から逃れた一方で、度重なる空襲で焼失した本も、都立図書館全体で40万冊に上ったといえます。

昭和10年以来、戦中・戦後の混乱期を越えて、長い年月度重なる移動等で、散逸したのものもあるものの、よくぞ78年の年月を乗り越えて傘寿を迎える前に里帰りが出来ました。心からオメデトウと言います。又、それよりもお守り役をつとめ、愛情をそそいで下さいました「日本青年館」の皆様、心からの感謝と敬意を表します。本当に有難うございました。



日本青年館にて所蔵

資料提供者・協力者一覧 (順不同)

山中 家道 氏

新井 孝雄 氏

奈良輪 美智野 氏

渡辺 宏 氏

山口 仁 氏

渡邊 茂男 氏

渡辺 和子 氏

財団法人日本青年館

日本文学研究資料館 (川名氏)

東京農業大学

君津市立中央図書館

君津市文化振興課

国立国会図書館

千葉県立中央図書館

岩波書店 (赤峰裕子氏)

木更津図書館

Wikipediaフリー百科辞典 (日本語版) 他

産経新聞社 編集局 千葉総局

大地 節子 氏

保坂 治子 氏

平野 順子 氏

資料提供をはじめとして、記録集作成に多大なご協力と、ご助成をいただき、
会員一同、心からお礼申しあげる次第です。

おわりに

受話器から「たった今、かえってきました」と、図書館の藤平さんの弾んだ声を聞いた日の感激は忘れられない。「まだか、まだか」と私どもにせかされ、忙しい業務の合間に日本青年館との交渉にあたってくださった、関係各位の熱意に、まず感謝したい。

小糸川流域の先覚者の足跡を辿るテーマ学習の3人目、「山中進治氏と山中文庫」の学習を始めるにあたって、学生時代に山中進治の名を知り、興味を持ち研究してこられたという新井孝男氏にお願いして、「山中進治・山中文庫」についてのお話を聞かせて頂いた。新井氏の熱のこもった、この日の講義をきっかけに私共の「山中進治・山中文庫」学習に弾みがつき、また、図書館のご好意で資料を見せて頂いたり、コピーを取らせて頂いたりしたので、学習も深まり、資料も多岐にわたるものが入手できた。

資料を読み進める中で、日本青年館に所蔵されている蔵書を“進治の故郷、君津に返還を”との思いが、ふつふつと増し、少しでも多くの皆さんに返還に賛同して頂こうとさまざまな模索をした。

先ずは“山中進治・山中文庫の認知度向上を”、と市役所ロビーを皮切りに君津市立中央図書館、君津中央公民館でのパネル展。市、生涯学習課や市議会議員などへの陳情、最後には君津市長名での寄贈願いを出していただくことができた。この間、多くの方々のご協力と、たくさんの励ましの声に背中を押され活動が続けることができた。更に、2020年の東京オリンピック開催の為の、日本青年館周辺の再開発という事情も私共に幸いし、2013年の寄贈にたどり着くことができた。あらためて関係者の方々に深く謝意を捧げる。

図書館の特別の許可を得て、寄贈された蔵書全ての表紙とあとがきを撮影し、書籍名から内容をネット検索し、224部(413冊)の蔵書目録と解題を作製した。

戦争の混乱期を挟む80年間、大事に保管下さった日本青年館へのお礼の意味と、少しでも早く多くの方に「山中文庫の全容」を見ていただきたい思いで、まとめたのがこの冊子である。発刊を急ぐあまり課題を多く残したことを反省している。

学習テーマとした「山中進治・山中文庫」の学習は未だ中途である。更に、今回寄贈された蔵書は、日本青年館に所蔵されていた山中文庫蔵書の全てではなく、まだ開架図書として残っている蔵書も沢山あると聞く。それらについても寄贈が実現したらと動き始めており、関係する皆様のご協力を、あらためてお願いする。

“あわてず急げ”小糸川倶楽部を結成した時のモットーを胸に、これからも学習を続けていきたい。

小糸川倶楽部

2015年04月01日発行（再版）

タイトル

山中文庫と山中進治

編集 小糸川倶楽部

君津市君津中央公民館 所属